

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

〈入学定員設定の基本的な考え方〉

〈各コースの入学定員目安設定の考え方と、定員充足の見込み並びに定員充足の根拠となる客観的なデータの概要〉

② 定員充足の根拠となる客観的なデータ（補完）

③ 学生納付金の設定の考え方

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

〈学部学生への広報〉

〈オープンキャンパス等における広報〉

〈本学ホームページ・SNS等を活用した広報〉

〈本学や学外で開催される各種関連講習会における広報〉

〈学術交流協定校（機関）に対する広報〉

〈留学生に対する経済的支援〉

2. 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

〈我が国の教育現場の状況〉

〈地域の教育現場における教育支援人材の需要〉

〈社会人が学校現場への参画することの需要〉

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

教育学研究科修士課程は、学部卒段階での資質能力を修得した者の中から、さらに実践的な指導力・展開力を備え、学校現場を協働して支える高度な専門的職業人の養成、に加え社会人を対象に、自らが有する知識・技能、経験と異分野の知見を組み合わせる深く探究し、教育現場の課題解決・価値創造を担う人材の養成という、2つの目的・機能を有している。

教育学研究科修士課程には、高度教育支援開発専攻の1専攻を置き、学部卒学生の入学定員目安を30人、社会人の入学定員目安を20人とし、全体の入学定員を50人とする。

以下に入学定員50人の設定の考え方と、定員充足の見込みについて、説明する。

<入学定員設定の基本的な考え方>

教育学研究科修士課程高度教育支援開発専攻は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせ、学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探究し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目的として、「心理・教育支援コース」、「国際協働教育コース」、「教育ファシリテーションコース」の3コースにより教育・研究を展開する。

この3コースのうち、主に留学生を含む学部卒学生を対象とした「心理・教育支援コース」と「国際協働教育コース」については、これまでの教育学研究科における志願者実績や、令和元年度に実施したニーズ調査の結果を基に、定員の目安を算定した。

一方、社会人を対象とした「教育ファシリテーションコース」は、この算定方法とは別に、特に企業等からの院生受入れを想定することから、企業等との連携関係構築に基づいた算定も行い、比較したうえで定員の目安を算定した。

その結果、各コースの定員目安を下記のとおりとし、専攻全体の入学定員を50人とした。

	コース名	主な対象	入学定員目安	入学定員
高度教育支援開発専攻	(1) 心理・教育支援コース	学部卒学生	10人	50人
	(2) 国際協働教育コース	留学生	20人	
	(3) 教育ファシリテーションコース	社会人	20人	

＜各コースの入学定員目安設定の考え方と、定員充足の見込み

並びに定員充足の根拠となる客観的なデータの概要＞

【心理・教育支援コース（入学定員目安 10 人）】

当該コースは、「教育領域に強い公認心理師」として教育にまつわる様々な問題に対し、他職種と連携・協働しながら心理的観点から解決にあたることのできる人材や、その成果を社会に還元できる研究スキルを有する人材を養成する。

国家資格である公認心理師は、学士課程及び修士課程を通じた教育課程が必要とされており、本学教育協働学科教育心理科学専攻（学士課程）では、既に公認心理師養成のための教育課程を整備している。

当該コースの入学定員を設定するために、最大の進学元となる本学教育協働学科教育心理科学専攻 3 回生を対象にアンケートによるニーズ調査を実施し [資料 1]、大学院進学を考えている 20 人に対し、改めて聞き取り調査を行った。

その結果、17 人が当該心理・教育支援コースを「受験する」と回答し入学の意思を表した。

また、近隣の公認心理師を養成する他の大学院の出願者状況を確認すると、その多くは、それぞれ 100 人以上の出願者がある。

このような状況を踏まえると、他大学からの出願者も見込めるため、出願者の想定は内部進学を希望する者 17 人を下回ることはないと考えられる。

したがって、出願者数の見込みは 17 人とする。

本学修士課程（教養系）の過去 6 ヶ年間ににおける学部卒学生（留学生を含む）の平均受験倍率は 1.7 倍 [資料 2] であり、現修士課程の学部卒学生の受験倍率水準を維持できれば、優秀な学部卒学生が一定確保できる。

すなわち、出願者数見込み 17 人 ÷ 受験倍率 1.7 = 10 人が最低でも見込める。

したがって、当該コースの定員目安を 10 人と設定した。

【国際協働教育コース（入学定員目安 20 人）】

当該コースは、主に留学生を受入れ、理系科目を中心とした各国・地域の教科教育と日本の教科教育を比較して、新たな教育モデルを創造し実践できる人材を養成する「日本型教育システム開発領域」と各国・地域の日本語教育に取り組み、多文化共生社会の実現と持続に貢献できる人材を養成する「日本語教育支援高度化領域」の 2 領域を設ける。

当該コースの入学定員を設定するために、本学教育協働学科 3 回生の外国人留学生を対象としたニーズ調査 [資料 3]、本学教育協働学科 3 回生の日本人等学生を対象としたニーズ調査 [資料 4]、大学院等進学コースを有する大阪 YMCA 日本語学校の外国人留学生を対象としたニーズ調査 [資料 5]、本学と学術交流協定を締結しているベトナム・ハノイ大学における本学大学院留学希望調査 [資料 6] をアンケート形式により実施した。

その結果、「大阪教育大学の新たな大学院による当該コースで学びたい」とした回答は、内部進学による留学生出願者見込み〔資料3〕13人、内部進学による日本人等学生出願者見込み〔資料4〕11人、国内からの留学生出願者見込み〔資料5〕20人、国外からの留学生出願者見込み〔資料6〕28人の合計72人の入学意向の回答が得られており、新設する当該コースに対して多くのニーズがあることが確認できた。

したがって、アンケートの回答の結果から、留学生の出願者見込みは61人（〔資料3〕、〔資料5〕、〔資料6〕の合計件数）とする。

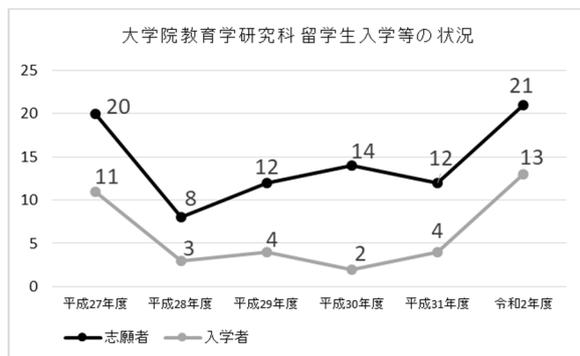
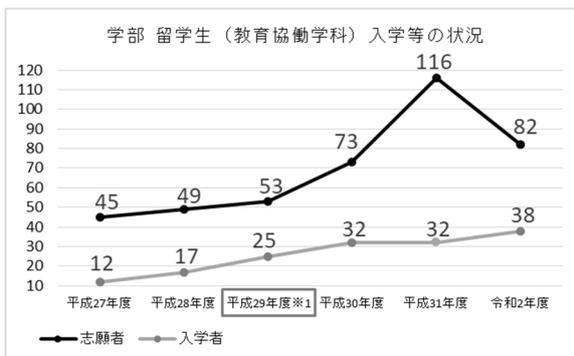
また、アンケートの回答の結果から、日本人等学生の出願者見込みは11人（〔資料4〕の件数）とする。

本学修士課程（教養系）の過去6ヵ年間ににおける留学生の平均受験倍率は2.5倍〔資料7〕であり、現修士課程の留学生の受験倍率水準を維持できれば、優秀な留学生が一定確保できる。また、本学修士課程（教養系）の過去6ヵ年間ににおける日本人等学生の平均受験倍率は1.6倍〔資料7〕であり、現修士課程の日本人等学生の受験倍率水準を維持できれば、優秀な日本人等学生が一定確保できる。

以上のことから、アンケートの回答のうち、留学生の出願者数見込みである61人÷平均受験倍率2.5〔資料7〕=24人に、日本人等学生の出願者数見込み11人÷受験倍率1.6〔資料7〕=7人を加えた31人が入学者と見込める。

したがって、当該コースの定員目安を20人と設定した。

また、本学は平成29年度に当該修士課程の基礎となる学部（教養学科⇒教育協働学科）の改組を行い、新たに教育協働学科に留学生の募集人員を設けた。この結果、下記グラフのとおり、留学生の入学者が増加するとともに、令和2年度の大学院教育学研究科修士課程の留学生入学者も増加している状況から上記の定員は確保できるものとする。



※1 教養学科→教育協働学科へ改組し留学生の募集人員の設定

【教育ファシリテーションコース（入学定員目安 20 人）】

当該コースは、交通至便な天王寺キャンパスの夜間において優れた専門的能力を有する社会人を受入れ、教育現場が抱える課題を発見・理解し、自らが有する知識・技能、経験と異分野の知見を組み合わせ、深く探究し、教育現場の課題解決・価値創造を担う人材を養成する。入学を希望する社会人自らが有する知識・技能や経験が多様なため、本コースに「教育イノベーション開発」「地域教育・芸術支援人材高度化」「健康・安全教育高度化」の3領域を設ける。

以下に、当該コースの出願者数の見込みと入学者数の見込み、それぞれについて根拠を示しながら説明する。なお、概略は〔資料 8〕で示す。

●出願者数の算定

過去6カ年の本学教育学研究科健康科学専攻（夜間）のうち社会人の出願者数は平均 29 人、直近の令和2年度入試では 35 人であり、平均受験倍率は 1.45 倍である〔資料 9〕。・・・㉑

ニーズ調査は、近畿5府県の様々な職業人を対象に行い〔資料 10〕、各領域への進学意向は、「教育イノベーション開発」領域と回答した者が 80 人（40.2%）、「地域教育・芸術支援人材高度化」領域は 91 人（45.7%）、「健康・安全教育高度化」領域は 83 人（41.7%）であった。・・・㉒

上記のニーズ調査に加え、出願者の特定が比較的容易である「地域教育・芸術支援人材高度化」領域については、大阪市役所、一般財団法人大阪教育文化振興財団、社会教育主事受講生を対象としたニーズ調査〔資料 11〕、演奏家やアーティスト等の音楽関係の職業に携わる者を対象としたニーズ調査〔資料 12〕をアンケート形式により実施し、「地域教育・芸術支援人材高度化」領域で学ぶことの関心が「非常にある」と回答した者は 12 人であった。・・・㉓

また、「健康・安全教育高度化」領域も同様に、出願者の特定が容易なため、看護師や保健師など健康や安全に携わっている者を対象にアンケートによるニーズ調査〔資料 13〕も実施し、当該領域に関心が「非常にある」と 46 人が回答している。・・・㉔

計画中の社会人を対象とした教育ファシリテーションコースは、ニーズ調査から得られた結果㉒・㉓・㉔から、既存の健康科学専攻（夜間）に比しても、多くの出願者が見込めることが想定される。

しかしながら、これまでの社会人を対象とした夜間大学院を展開してきた経験から、社会人の進学については、進学を希望する者の意思とは別に、勤務時間等との関係や所属勤務先等の理解など様々なハードルが存在することは明白である。

これらのことから、当該コースの出願者数は、ニーズ調査から得られた㉒・㉓・㉔と、これまでの実績に基づいた㉑とを比して、最小値である実績に基づいて算出した㉑の6カ年平均値 29 人を出願者数と想定した。・・・㉕

●入学者数の算定

社会人を対象とした教育ファシリテーションコースのうち、「教育イノベーション開発領域」は、本学の新たな取り組みとして、AI や ICT を活用し学校・教育現場に貢献することのできる人材を養成する計画であり、産業界との連携なしでは成り立たない。

そのため、計画段階から複数の企業・団体とのヒアリングや協議を重ねてきた。

先端技術に精通した企業・団体からは、教育委員会・学校現場・産業界等の社会人が共に学び研究する環境の提供や、学校教育に参画できる社会人の育成に資する大学院の早期設置などの要望が寄せられ [資料 16]、本学大学院改組への期待の高さがうかがえた。

ヒアリング結果や要望に基づき当該領域の教育課程の制度設計を進めつつ、更なる本学と企業等間で組織的な連携関係を構築するため、包括連携協定を締結した。

包括連携協定は、本学と企業が相互に協力し、各種教育課題の解決や、SDGs や超スマート社会に対応した学校・教育現場の実現に寄与することを目的としており、その目的のため大学院生派遣を含めた人事交流、研究プロジェクトの共同実施、先端技術を活用した教育環境の整備、セカンドキャリア支援等を掲げている。

本協定を締結した企業は、何れからも、「附属学校園を研究対象とし、学習行動データの集積・活用等について附属学校を含む大学と共同研究により推進し、教育現場の課題解決に貢献することは非常に有意義かつ魅力的である。是非、社員の研修の場として大学院を活用したい。」との声が聞かれた。

また、「連合教職大学院との交流が予定されており、現職の教員と共に学びができる環境は、貴学ならではの取組であり付加価値がある。」「大阪市教育センターとの合築計画が構想されており、産学官連携による共同研究に参画したい。」等の意見を得ており、大学院生派遣に関し前向きであることがうかがえた。

設置申請時では、4社との協定締結に止まっているが、継続的に10社以上の企業と別途交渉中であり前向きな回答を得ている状況を勘案し、最低限、**既締結企業4社から各1人の院生派遣を見込み4人の入学者を想定する。**・・・⑤

この他に、これも新たな取り組みとして、アスリートの持つ優れた能力を引退後に特別免許状制度を活用し、教育現場に還元できる仕組みを当該教育ファシリテーションコースで計画している。

この取組についても、計画段階からプロスポーツ球団やアマチュアの競技者が多く所属するスポーツ関連企業等と仕組み等について多くの議論や意見を交わしてきた。その結果、上記と同様2団体と包括連携協定を締結することとなった。

締結した2団体からは、「所属するアスリートのうち、引退後に教育現場で後進の育成指導を行いたいという希望を持つ者は多数存在する。」「新たな大学院では、教員特別免許状が取得できる等、アスリートのセカンドキャリア支援のための仕組みが盛り込まれており、画期的である。ぜひ実現しアスリートを支援していただきたい。」等の意見をいただいております、本コースへの引退後のアスリート入学を前向きに捉えられている。

ここでも、現時点では2団体との連携協定に止まっているが、複数の団体と別途交渉中であり前向きな回答を得ている状況を勘案し、最低限、**既締結2団体から各1人の院生派遣を見込み2名の入学者を想定する。**・・・・・・・・⑤

一方、過去6ヵ年の本学教育学研究科健康科学専攻（夜間）のうち社会人の入学者数は平均20人〔資料9〕・・・・・・・・⑥、直近の令和2年度入試では23人であり、最低は平成31年度の14人であった〔資料9〕。・・・・・・・・⑦

これまで本学が社会人を対象とし教育研究を展開してきた大学院修士課程健康科学専攻（夜間）は、平成5年度から地域のリカレント教育を支え、600人近くの社会人修了生を輩出し修了後教育関連の職に多くの者が就いてきた。

今回の改組計画では、そのノウハウを教育ファシリテーションコースが継承しつつ、社会人が持つ優れた専門性を、更に教育現場に貢献するための教育課程に改めようとするものである。

入学者を算定するうえで、これまでの健康科学専攻の修了生の多くが教育分野に関わっていたことから、改組を行ったとしても⑥で示した直近6ヵ年の平均入学者数20人と新たな取り組みによる入学者見込み⑤と⑦を加えた26人（20+4+2）をコース全体の入学者として見込める。

しかしながら、社会人の入学に関しては、前述のとおり勤務先等の状況から不確実な要素も多い。したがって、より確実な⑦で示した**直近6ヵ年の最低入学者数14人**に⑤と⑦を加えた**20人を入学定員として設定した。**・・・・・・・・⑧

以上により、社会情勢によって入学者動向が不確実な要素が多い社会人を対象とした当該教育ファシリテーションコースではあるが、大学院設置基準第14条による教育方法の特例を活用するとともに、遠隔講義システムによる授業を導入するなど社会人が学びやすい環境を実現し、通学の障壁を出来るだけ解消することで、⑧に示した出願者予測数29人、⑧で示した入学者予測数20人の確保が可能である。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータ（補完）

定員充足の根拠となる客観的なデータの概要は前節で述べた。当節ではそのデータを補完する観点で説明する。

<心理・教育支援コース>

心理・教育支援コースは、主に国家資格である公認心理師を旨とするコースとして設置する。公認心理師は、平成30年9月に第1回目の試験が実施されるなど新しい国家資格である。

近い心理職としては、一般的には民間資格である臨床心理士があげられる。本学大学院ではこれまで臨床心理士の指定は受けていないものの、継続的に学校心理士を輩出してきており（平成31年1月1日現在の「2018 学校心理士名簿」（一般社団法人 学校心理士認定運営機構）における大阪支部所属の学校心理士243人中、22人を輩出）心理職養成の実績はある。

また、平成31年度から学部（教育協働学科教育心理科学専攻[入学定員40人]）において、公認心理師養成カリキュラムへ対応していることから、本学学部卒学生の内部進学を含め、さらに近隣の他大学からの進学意向が高くなるものと期待している。

近隣の公認心理師を養成している他大学院では、多くの出願者実績があるなど社会的ニーズも高いことがうかがえる。

<国際協働教育コース>

留学生を主な対象とする国際協働教育コースに対する留学生の進学モチベーションとして、海外における日本語教育の現状がある。

（独）国際交流基金による「2018 年度海外日本語教育機関調査」の結果（速報）によると、前回調査（2015 年度）よりも5カ国多い過去最多の142の国・地域において日本語教育が実施され、これまで比較的日本語教育が盛んでなかった国・地域にも日本語教育が広がっていることが明らかとなっている。

加えて、表1のとおり、海外の日本語教育の機関数、教師数、学習者数とも大幅に増加している。とりわけ、日本語教育機関数と日本語教師数は過去最多の数値であった。地域別にみると、何れも中国、ベトナム等のアジアでの増加が顕著となっている。

さらに、我が国の公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数は、ここ12年間で約1.9倍増しているが、このことに反し、日本語教師等数は過去7年間で約1.3倍増に止まっている。都道府県別在籍状況を見ると大阪府は全国4位の生徒数である。このような状況であり、大阪府のみならず全国的に日本語学習者の増加幅に教師等数が追い付いていない [資料14]。

こういった国内外の背景から、当該コースへの進学意向はさらに高くなるものと期待している。

表1 国際交流基金「2018 年度海外日本語教育機関調査」結果（速報値）をもとに作成

	2015 年度調査結果	2018 年度調査結果（暫定）	増減
機関数	16,179 機関	18,604 機関	+2,425 機関(15.0%増)
教師数	64,108 人	77,128 人	+13,020 人(20.3%増)
学習者数	3,655,024 人	3,846,773 人	+191,749 人(5.2%増)

③ 学生納付金の設定の考え方

国立大学法人の授業料、入学料及び検定料については、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成十六年文部科学省令第十六号）」に定める「標準額」を踏まえつつ、各国立大学法人が「一定の範囲内」で、それぞれ定めることとなっているが、本専攻においては、近隣の大学院の状況、本学既設大学院の状況を考慮し、下記「標準額」で設定している。

授業料：535,800 円/年間

入学料：282,000 円

検定料：30,000 円

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

＜学部学生への広報＞

本学学部学生に対し、大学院進学等説明会の実施や、授業等において担当大学教員から、教育現場へ教員以外の立場から貢献することの意義やそのニーズを伝えたりする機会を頻繁に設ける。

＜オープンキャンパス等における広報＞

本学で例年２回開催されるオープンキャンパスや各種大学説明会において、大学院受験相談窓口を設けるとともに、例年よりも多くの大学院に特化した説明会を開催するなど、担当教員等が大学院進学への不安を払拭し魅力を最大限伝える。また、大学院改組案内パンフレット等を作成し積極的な広報活動を行う。

＜本学ホームページ・SNS等を活用した広報＞

本学ホームページに、大学院改組計画を示し、本専攻の設置目的・内容や受験情報を積極的に発信する。また、SNS等を通じ、国内外に向けた継続的な情報提供を行う。

＜本学や学外で開催される各種関連講習会における広報＞

本学や学外で開催される各種講習会やシンポジウム等の機会を利用して、来場者に大学院改組内容が明確に伝わるプレゼンテーションを行うとともに、大学院改組案内パンフレット等を配布し、積極的な広報活動を行う。

＜学術交流協定校（機関）に対する広報＞

本学と学術交流協定を締結している機関に対し、大学院案内パンフレット等の配信や、訪問等を行うことによって積極的な広報活動を行う。

＜留学生に対する経済的支援＞

諸外国との経済格差を鑑み、発展途上国の国々からの留学生に対する学生納付金の減免制度等を検討する。また、減免制度の他に各種の公的な奨学金制度を広報し、その活用を奨励する。

以上のような広報活動等を積極的に行い、本専攻の特徴・魅力、コース・カリキュラム・時

間割などの教学面や経済的な支援面を伝えることで、本専攻の教育・研究活動等に対する興味や関心、理解を深め、安定的な学生確保に繋げる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻の人材養成像は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせ学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探究し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材の養成である。

学部卒学生は、心理学に関する高度な理論と実践スキルを身につけ、「教育領域に強い公認心理師」として教育にまつわる様々な問題に対し、他職種と連携・協働しながら解決にあたることのできる人材や、その成果を社会に還元できる研究スキルを有する人材を養成する。

留学生は、理系科目を中心とした各国・地域の教科教育と日本の教科教育を比較して新たな教育モデルを創造し実践できる人材と、各国・地域の日本語教育に取り組み多文化共生社会の実現と持続に貢献できる人材を養成する。

社会人は、教育現場が抱える課題を発見・理解し、自らが有する知識・技能、経験と異分野の知見を組み合わせ深く探究し、教育現場の課題解決・価値創造を担う人材を養成する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

前述のとおり、多様な背景を有する人材が各々の専門性に応じて教育現場に参画し、複雑化・多様化した教育課題の解決や価値創造に貢献できる人材の養成を目的とする中で、実際の現場の状況について、公表されている調査データ、並びに、本学が独自で実施したニーズ調査をもとに、以下のとおり分析するものである。

<我が国の教育現場の状況>

A. 教員の仕事時間

学校の学習環境と教員及び校長の勤務環境に焦点を当てた、OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) の 2018 年調査において、表 2 のとおり、教員の 1 週間の仕事時間の合計について、日本では、中学校は 56.0 時間、小学校は 54.4 時間と、小中学校ともに参加国の中で最長となっている。また、中学校教員においては前回の 2013 年度調査に比して仕事時間の合計は長くなっている。

さらに、教員の仕事時間に関連して、日本では、中学校における「課外活動（スポーツ・文化活動）」の指導時間が 7.5 時間と参加国で最長（参加国平均 1.9 時間）のほか、小中学校ともに、「一般的な事務業務（教師として行う連絡事務、書類作成その他の事務業務を含む）」や「学校内外で個人で行う授業の計画や準備」に従事する時間も長く、中学校教員の参加国平均と比して、それぞれの時間数が高いことが顕著である。その一方で、「職能開発活動」にかかる時間は、中学校で 0.6 時間、小学校で 0.7 時間と、中学校教員の参加国平均 2.0 時間と比し

でも著しく低い数値である。

表2 OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 をもとに作成 <教員の仕事時間>

		仕事時間の合計	課外活動の指導	一般的な事務業務	学校内外で個人で行う授業の計画や準備	職能開発活動
中学校	日本	56.0 時間	7.5 時間	5.6 時間	8.5 時間	0.6 時間
	日本 (前回調査)	(53.9 時間)	(7.7 時間)	(5.5 時間)	(8.7 時間)	—
	参加 48 か国平均	38.3 時間	1.9 時間	2.7 時間	6.8 時間	2.0 時間
小学校	日本	54.4 時間	0.6 時間	5.2 時間	8.6 時間	0.7 時間

イ. 学校における支援職員の不足

我が国の学校現場では、表3のとおり、「支援職員の不足」については、中学校で46.3%、小学校で55.8%の割合であり、中学校は参加国平均の30.8%に比して15%程度上回っている。

一方、「児童生徒と過ごす時間が不足している、あるいは適切でない」については、中学校で49.1%、小学校で38.3%の割合であり、中学校は参加国平均の23.6%に比して顕著に高い数値となっている。

その他、「指導のためのデジタル技術が不足している、あるいは適切でない (例：ソフトウェア、コンピュータ、タブレット、電子黒板)」ことが妨げになっていると回答する校長の割合について、中学校で34.0%、小学校で30.2%の割合であり、中学校は参加国平均の28.1%に比して高い数値となっている。

表3 OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 をもとに作成 <教育資源の不足>

		支援職員の不足	児童生徒と過ごす時間が不足している、あるいは適切でない	指導のためのデジタル技術が不足している、あるいは適切でない (例：ソフトウェア、コンピュータ、タブレット、電子黒板)
中学校	日本	46.3%	49.1%	34.0%
	参加 47 か国平均	30.8%	23.6%	28.1%
小学校	日本	55.8%	38.3%	30.2%

近年、我が国では、学校や教員が担う業務の明確化・適正化、勤務時間制度の見直しなどの「学校における働き方改革」や、平成27年度の中央教育審議会答申により提唱された「チームとしての学校」の推進を課題に掲げているところである。

しかし、上記の調査結果により、学校現場の実状として、教員の多忙化は解消されておらず、その一方で、学校現場を支援する職員の人材が不足していることがうかがえる。

＜地域の教育現場における教育支援人材の需要＞

前述の OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 調査のとおり、我が国の教育現場において、「学校における働き方改革」や「チームとしての学校」の強力な推進が継続的な課題となる中で、近畿圏のニーズを把握するため、次のとおり、近畿5府県内に勤務する様々な職業人と、教員や教育関連の企業等に勤務する本学卒業生を対象にそれぞれアンケート調査を実施した。

【アンケート調査】

ア. 近畿5府県内に勤務する職業人

近畿5府県の様々な職業人を対象としたアンケート調査 [資料 10] において、「教員以外の専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材の必要性」を尋ねたところ、「強く必要だと思う」または「必要だと思う」と回答した人は 92.8% (480 人) であり、非常に多くの人がこの社会にとって必要であると捉えている。

また、こうした人材を本学の大学院で養成することについて、「ぜひ養成すべきだと思う」または「養成した方がよいと思う」と回答した人は 89.9% (465 人) であり、非常に多くの人の本学大学院での養成に期待を寄せている。

イ. 本学卒業生

大阪を中心とする地域における教育現場のニーズを把握するため、[資料 15] のとおり、教員や教育関連の企業等に勤務する者が多くを占める本学卒業生を対象に「大学院改組に関するニーズ調査」を実施し、197 人から回答を得た。

本調査において、「教員以外の専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材の必要性」を尋ねたところ、「強く必要だと思う」または「必要だと思う」と回答した人は 96.5% と極めて高い数値の回答があり、特に「強く必要だと思う」が 53.1% と半数を超える結果であった。

また、これら教員以外の専門スタッフとしての高度な資質能力を備えた人材を、「教員養成大学である大学院で養成するべきかどうか」を尋ねたところ、「ぜひ養成すべきだと思う」と「養成した方がよいと思う」を合わせて 88.9% の高い数値の回答であった。

このように、地域の職業人におけるニーズと、教育に携わる者からみた教育現場の状況の二つの側面からみても、教員以外の立場から教育現場を支援する人材の必要性は極めて高く、これら人材を本学大学院で養成することの期待度も相当以上に高いことが明らかである。

＜社会人が学校現場への参画することの需要＞

「第3期教育基本振興計画」（平成30年6月15日閣議決定）では、「今後、生涯にわたり必要な知識や技能、技術を学び、活用し、知的・人的ネットワークを構築し、人生を豊かに生きられる環境を整備することが不可欠となる。」と、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進を掲げている。学校現場においても、「教育再生実行会議 第十一次提言」（令和元年5月17日）において、学校以外で勤務した経歴や専門的な知識・技能を有する者など、多様な背景を持つ外部人材を活用することが提言されている。

本学では、こうした国の教育政策の動向に対応するため、社会人を対象とする「教育ファシリテーションコース」を設置し、自らの知識・技能を他者の知見と組み合わせて、新時代の学校改革や多様化した教育課題の解決の一翼を担う人材を養成することとする。

こうした人材の養成にあたり、本学による、近畿5府県の様々な職業人を対象としたアンケート調査〔資料10〕において、「社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか」と尋ねたところ、全体517人のうち、「非常に興味・関心がある」または「興味・関心がある」と回答した人は72.3%（374人）であり、多くの人が社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味・関心を持っていることがわかる。

また、「教育ファシリテーションコース」に興味はありますか」と尋ねたところ、全体517人のうち、「非常に興味がある」または「興味がある」と回答した人は61.9%（320人）であり、多くの人が同コースに興味を持っている。

さらに、「教育ファシリテーションコース」の入学者として想定している、ICT分野、教育行政職、地域教育分野、芸術分野、医療・保健分野で活躍する社会人を対象に、次のとおり、学びへの関心に関するアンケート調査を実施した。

【社会人対象アンケート調査】

ア. ICT や教育行政等の分野

近畿5府県の様々な職業人を対象としたアンケート調査〔資料10〕により、ICT関連、教育関連の企業人や、教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職に勤務する社会人（計218人）の結果では、「社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか」の質問に対して、「非常に興味・関心がある」64人（29.4%）と「興味・関心がある」106人（48.6%）を合わせて78.0%となり、ICTや教育分野の企業人や教育行政職の学びへの関心は非常に高い水準である。

また、「教育ファシリテーションコース」への興味について、「非常に興味がある」38人（17.4%）と「興味がある」114人（52.3%）を合わせて69.7%となり、自らが有する知識・技能を教育現場に活用することへの需要は高い。

イ. 地域教育分野

大阪市役所、一般財団法人大阪教育文化振興財団、社会教育主事受講生を対象としたニーズ調査〔資料11〕において、「あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりす

るために、学習したいと思いますか。」と尋ねたところ、「とても思う」が52.4%と半数を超えていること、さらに「少し思う」の43.4%を加えた場合、95.8%となり、社会教育等に携わる社会人の学びへの関心が非常に高い水準である。

また、併せて、「現在、あなたが職務上課題としていること」について尋ねたところ、調査結果の上位3項目、①「学校や他組織（あるいは地域）との連携・協働」（80人）、②「職務上の課題の理論的検討・分析」（65人）、③「社会教育と関わる他の行政分野に関する知識」（54人）であった。本専攻で修得を目指す力量として、「教育課題の『発見・理解力』と『分析力』」、「深化した各領域の知識・技能」、「教育課題解決の企画力」、「組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を掲げていることから、社会教育等の分野に携わる社会人が身に付けたい能力と本専攻で養成する人材像は適合している。

ウ. 芸術分野

演奏家やアーティスト等の音楽関係の職業に携わる方々を対象としたニーズ調査〔資料12〕において、「社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心がありますか。」と尋ねたところ、「非常にある」（26.3%）と「ある」（57.9%）を合わせて84.2%となり、演奏家など芸術分野に携わる社会人の学びへの関心が非常に高い水準である。

また、併せて、「これまでに培った音楽分野の専門的な知識技能や経験を生かして、学校現場において小中学生への指導など教育分野に参画することに興味や関心はありますか。」の質問に対して、「非常にある」（21.1%）、「ある」（65.8%）を合わせて86.9%と高い数値が得られた。自らのキャリアで培った知識・技能を教育現場に活用することへの需要は高いものと判断できる。

エ. 医療・保健分野

看護師や保健師など健康や安全に携わっている者を対象としたニーズ調査〔資料13〕において、「あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いますか。」と尋ねたところ、「とても思う」が56.4%と半数を超えていること、さらに「少し思う」の42.6%を加えた場合、99.0%となり、医療や保健分野等に携わる社会人の学びへの関心が非常に高い水準である。

また、近畿5府県の様々な職業人を対象としたアンケート調査〔資料10〕により、看護師や保健師など医療・保健、健康関係の専門職（計174人）の結果では、「教育ファシリテーションコース」への興味について、「非常に興味がある」30人（17.2%）と「興味がある」71人（40.8%）を合わせて58%となり、自らが有する知識・技能を教育現場に活用することへの需要は高い。

以上の調査結果により、「教育ファシリテーションコース」の入学者として想定する、ICT等の先端技術分野、教育行政職、地域教育分野、芸術分野、医療・保健分野で活躍する社会人の何れも、学びへの関心が高く、さらに、自らのキャリアで培った知識・技能を教育現場に活用することへの需要は高い。

このように、我が国では、「学校における働き方改革」や「チームとしての学校」の推進を課題に掲げているところであるが、教員の多忙化は解消されておらず、一方で、学校現場を支援する職員の人材が不足している状況にある。

こうした状況に対応すべく、教員以外の立場から教育現場の高度化の一翼を担う高度な人材を本専攻で養成することは、社会的かつ地域的ニーズに適合する。また、これらの人材養成は、これまでの学校教員のみが個別に教育活動に取り組む体制から、多職種協働により教育現場の課題を解決する体制へと組織力の強化が成されるとともに、教員の多忙化解消へと繋がることが期待できる。

大阪教育大学大学院
学生の確保の見通し等を記載した書類

資 料 目 次

資料 1	「大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【教育心理学専攻調査】	15
資料 2	入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ 【大学院教育学研究科（教養系）学部卒学生（留学生を含む）における 入試状況（H27～R2）】	20
資料 3	「大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【国際協働教育コース調査（本学留学生3回生）】	21
資料 4	「大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【国際協働教育コース調査（日本人等学生3回生）】	26
資料 5	「大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【国際協働教育コース調査（大阪 YMCA）】	30
資料 6	「大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【国際協働教育コース調査（海外協定校）	35
資料 7	入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ 【大学院教育学研究科（教養系）留学生における入試状況（H27～R2）】 【大学院教育学研究科（教養系）学部卒学生（留学生除く）における 入試状況（H27～R2）】	40
資料 8	教育ファシリテーションコース 入学定員充足の概要	41
資料 9	入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ 【大学院教育学研究科（健康科学専攻）社会人学生における入試状況 （H27～R2）】	42

資料 10	大阪教育大学大学院改組計画に関するアンケート結果報告書	43
資料 11	教育ファシリテーションコース 地域のニーズ状況 【「夜間大学院に関するニーズ調査」社会教育主事受講生, 大阪市役所, 一般財団法人大阪教育文化振興財団】	74
資料 12	「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【地域教育・芸術支援人材】	89
資料 13	「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書 【大阪府看護協会調査】	94
資料 14	国内における日本語教育の状況	99
資料 15	「大学院改組に関するニーズ調査」結果報告書 【卒業生アンケート調査】	102
資料 16	要望書	112

「大学院に関するニーズ調査」結果報告書【教育心理学専攻調査】

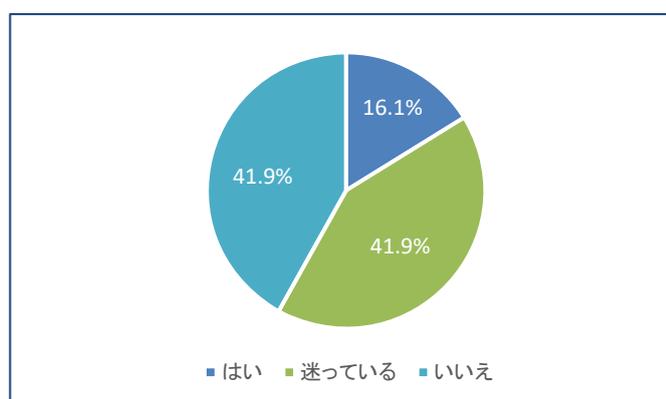
令和元年8月 大阪教育大学 経営戦略課

令和2年3月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	令和3年度より教育臨床心理に関する専門的知識・技能を備えた人材養成を目的とした大学院コース（柏原・昼間）を開設する予定に伴い、教育協働学科教育心理学専攻の現3回生のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	教育協働学科教育心理学専攻の現3回生
調査方法	授業にて質問紙を配布し回答を回収。
調査対象数	配布数 41名 回収数 31名 【回収率 75.6%】
調査時期	2019年7月26日（金）～2019年8月7日（水）
調査実施部署	経営戦略課

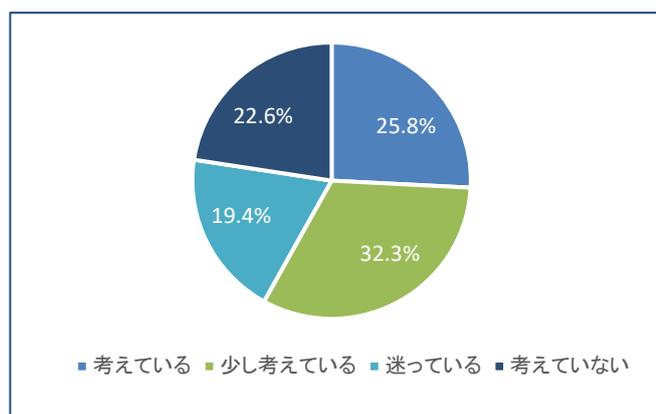
■Q1 将来の職業としてスクール・カウンセラーなど、教育機関に勤務する心理職を志していますか。

回答項目	回答数	割合
はい	5	16.1%
迷っている	13	41.9%
いいえ	13	41.9%
計	31	100.0%



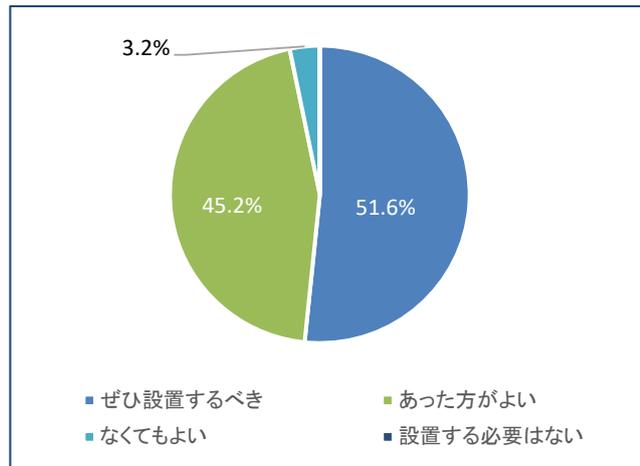
■Q2 あなたは公認心理師等の心理学に関する資格取得を考えていますか。

回答項目	回答数	割合
考えている	8	25.8%
少し考えている	10	32.3%
迷っている	6	19.4%
考えていない	7	22.6%
計	31	100.0%



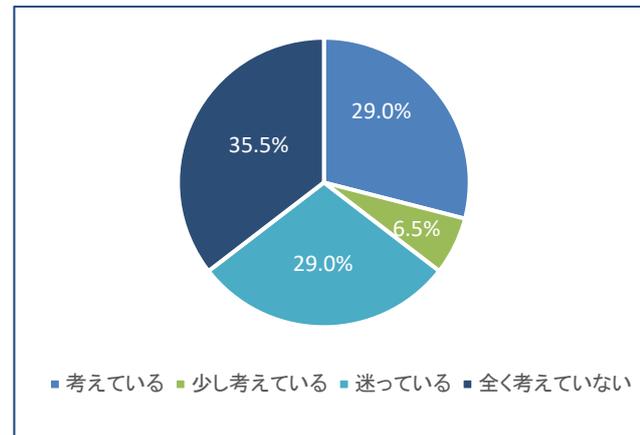
■Q3 ^{おもて}表面（「大阪教育大学大学院の改組計画について」）で紹介した、本学が設置を計画している新しい大学院についてどう思いますか。

回答項目	回答数	割合
ぜひ設置すべき	16	51.6%
あった方がよい	14	45.2%
なくてもよい	1	3.2%
設置する必要はない	0	0.0%
計	31	100.0%



■Q4 学部卒業後に大学院への進学を考えていますか。

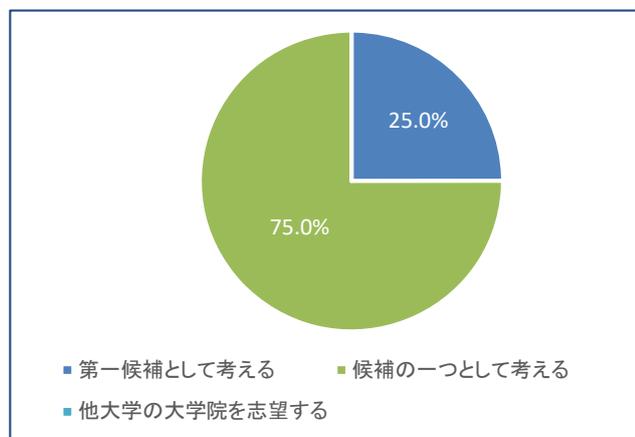
回答項目	回答数	割合
考えている	9	29.0%
少し考えている	2	6.5%
迷っている	9	29.0%
全く考えていない	11	35.5%
計	31	100.0%



■Q5 （Q4で「考えている」「少し考えている」「迷っている」と回答した方のみ）

^{おもて}表面（「大阪教育大学大学院の改組計画について」）で紹介した新しい大学院が計画通り設置された場合、進学を考えますか。

	回答項目	回答数	割合
※	第一候補として考える	5	25.0%
※	候補の一つとして考える	15	75.0%
	他大学の大学院を志望する	0	0.0%
	計	20	100.0%



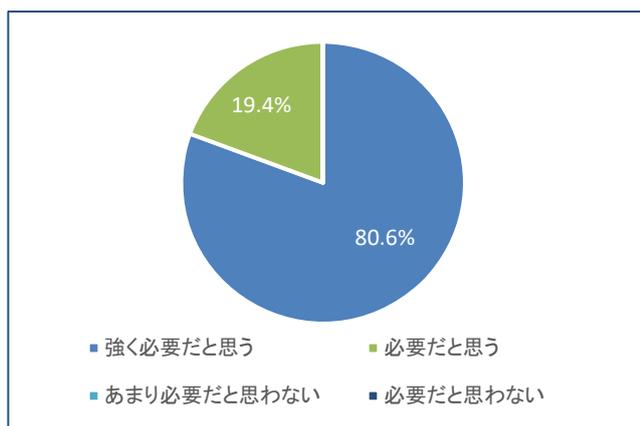
※Q5において、「本学の新しい大学院が計画どおり設置された場合、進学を考えますか」の質問に対し、「第一候補として考える」（5名）、「候補の一つとして考える」（15名）と回答した計20名を対象として、授業科目の概要等を示した上で、令和3年4月に新しい本学大学院を受験するかどうか、改めて聞き取り調査を行った

結果、17名が受験すると回答した。これにより、出願者数見込みは17名と設定する。

■Q6 国の方針として、「ニッポン一億総活躍プラン」や教育再生実行会議、「いじめ防止対策推進法」、「いじめの防止等のための基本的な方針」を踏まえ、いじめ問題をはじめ生徒指導上の諸課題に対応するための支援体制の整備と、専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。

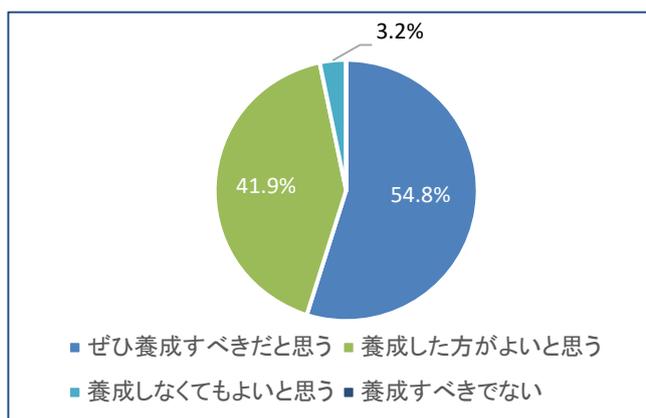
① 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。

回答項目	回答数	割合
強く必要だと思う	25	80.6%
必要だと思う	6	19.4%
あまり必要だと思わない	0	0.0%
必要だと思わない	0	0.0%
計	31	100.0%



② 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、教員養成大学である本学の大学院で養成すべきだと思いますか。

回答項目	回答数	割合
ぜひ養成すべきだと思う	17	54.8%
養成した方がよいと思う	13	41.9%
養成しなくてもよいと思う	1	3.2%
養成すべきでない	0	0.0%
計	31	100.0%



大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学は、令和3年度より教育臨床心理に関する高度な専門的知識・技能を備えた人材を養成することを目的とした大学院のコースを柏原（昼間）に開設する予定としています。

つきましては、教育協働学科教育心理学専攻の現3回生の皆様を対象に、進学希望の有無に関わらずアンケート調査を行いますので、大学院改革の参考とするため、恐れ入りますが、裏面アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。

当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用することはありません。

なお改組後のコース名等は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性があります。

大阪教育大学大学院の特徴（令和3年4月改組計画）

<教育内容>

教育領域で従事する心理職を目ざす院生、子どもに関わる心理の専門家を目ざす院生、教育や子どもの発達に関する心理学的研究を深めたい院生を対象に、公認心理師の受験資格の取得と併せて、「チーム学校」や教育協働についての理論と実践を学ぶための、高度な心理学の教育を行ないます。

<カリキュラムの特色>

公認心理師受験資格が必要な科目に加えて、以下の科目で構成します。

- ◆教育心理学関連を中心に、学校心理士の資格を取得できる科目
- ◆学校危機対応に関連する科目
- ◆チーム学校に関連する教職大学院の開講科目
- ◆心理実践実習について、医療保健施設での実習を必須としますが、附属学校園を活用し教育現場に則した実習科目

<養成する人材像>

臨床心理学に関する高度な理論と実践スキルを有し、「教育領域に強い公認心理師」として教育にまつわるさまざまな問題に対し他職種と連携・協働しながら解決にあたることのできる人材、ならびにその成果を社会に還元できる研究スキルをもった人材を養成します。

<想定される輩出先>

- ◆スクール・カウンセラーなど、教育機関に勤務する心理職（公認心理師・学校心理士）
- ◆子どもや家族に関わる施設等（医療・福祉・司法など）に勤務する心理職（公認心理師）
- ◆子どもや家族を対象としたサービスを展開する民間企業やNPO団体の職員（公認心理師）
- ◆博士後期課程への進学（研究者）

取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学料・授業料を併せて総額 約140万円

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

裏面アンケートにご協力をお願いします。

大学院に関するニーズ調査

- Q1 将来の職業としてスクール・カウンセラーなど、教育機関に勤務する心理職を目ざしていますか。
 はい 迷っている いいえ
- Q2 あなたは公認心理師等の心理学に関する資格取得を考えていますか。
 考えている 少し考えている 迷っている 考えていない
- Q3 おもて表面で紹介した、本学が設置を計画している新しい大学院についてどう思いますか。
 ぜひ設置すべき あった方がよい なくてもよい 設置する必要はない
- Q4 学部卒業後に大学院への進学を考えていますか。
 考えている 少し考えている 迷っている 全く考えていない
- Q5 (Q4で「考えている」「少し考えている」「迷っている」と回答した方のみ)
おもて表面で紹介した新しい大学院が計画通り設置された場合、進学を考えますか。
 第一候補として考える 候補の一つとして考える 他大学の大学院を志望する
- Q6 国の方針として、「ニッポン一億総活躍プラン」や教育再生実行会議、「いじめ防止対策推進法」、「いじめの防止等のための基本的な方針」を踏まえ、いじめ問題をはじめ生徒指導上の諸課題に対応するための支援体制の整備と、専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。
- ① 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。
 強く必要だと思う 必要だと思う あまり必要だと思わない 必要だと思わない
- ② 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、教員養成大学である本学の大学院で養成すべきだと思いますか。
 ぜひ養成すべきだと思う 養成した方がよいと思う 養成しなくてもよいと思う
 養成すべきでない

ご協力ありがとうございました。

入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ 【大学院教育学研究科（教養系）学部卒学生（留学生を含む）における入試状況（H27～R2）】

専攻	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		6カ年平均	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数								
国際文化	23	14	8	4	10	6	13	7	12	7	22	13	88	50
総合基礎科学	18	12	31	20	18	12	19	11	21	14	17	7	124	76
芸術文化	27	20	22	17	35	15	25	12	22	12	27	13	158	89
健康科学	0	0	2	1	4	4	2	2	13	7	4	2	25	16
計	68	46	63	42	67	37	59	31	68	40	70	35	395	231
													(A) 66	(B) 39

心理・教育支援コースは、本学教育協働学科の学部生からの内部進学者を主な出願者と想定する。そのため、入学定員目安の設定において用いている受験倍率は、本学修士課程（教養系）の学部卒学生（留学生を含む）における入試状況（過去6カ年）をもとに算出する。

本学修士課程全体の過去6年間の学部卒学生の平均志願者数は66人（A）、入学者数は39人（B）である。
したがって、過去6カ年の平均受験倍率 = 66人（A）÷ 39人（B） = **1.7倍**

⇒ 心理・教育支援コースは、1.7倍の受験倍率を維持できれば、優秀な学部卒学生が一定確保できる。

「大学院に関するニーズ調査」結果報告書【国際協働教育コース調査（本学留学生3回生）】

令和元年 11～12月 大阪教育大学 経営戦略課

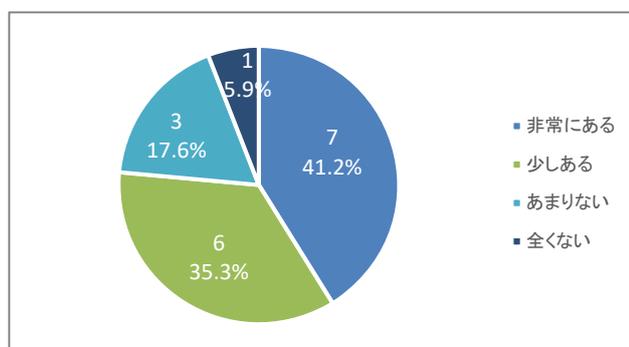
調査概要	
調査目的	令和3年度より日本語教育や日本の学校で行われている教育（日本型教育）について専門的に学ぶことを目的とした新しい大学院のコース（柏原・昼間）を開設する予定に伴い、現3回生の留学生のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	本学の教育協働学科現3回生の留学生
調査方法	指導教員等を通じ質問紙を配布。
調査対象数	配布数 21 回収数 18 【回収率 85.7%】
調査時期	2019年11月22日（金）～2019年12月6日（金）
調査実施部署	経営戦略課

■Q1 所属の専攻・コース名を教えてください。

「教育心理学専攻3」「健康安全科学専攻2」「理数情報専攻 自然科学コース1」「理数情報専攻 数理情報コース3」「グローバル教育専攻 英語コミュニケーションコース1」「グローバル教育専攻 多文化リテラシーコース6」「スポーツ科学専攻2」

■Q2 大阪教育大学の新しい大学院に興味や関心がありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	7	41.2%
少しある	6	35.3%
あまりない	3	17.6%
全くない	1	5.9%
計	17	100.0%

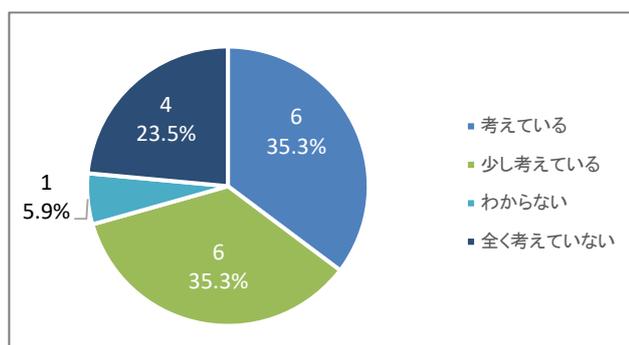


※無回答1

※Q2の「本学の新しい大学院に興味や関心があるか」の質問に対して、「非常にある」「少しある」と回答した13人を内部進学による留学生出願者として見込む。

■Q3 学部卒業後に大学院への進学を考えていますか。

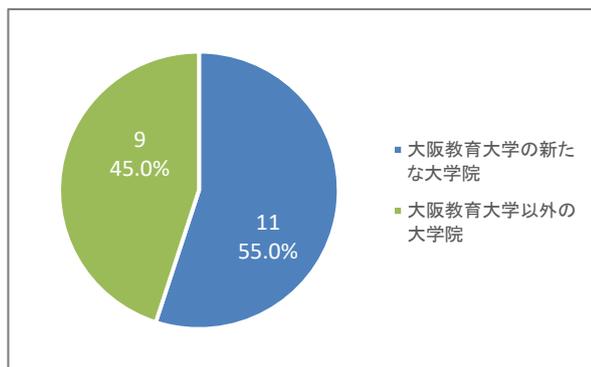
回答項目	回答数	割合
考えている	6	35.3%
少し考えている	6	35.3%
わからない	1	5.9%
全く考えていない	4	23.5%
計	17	100.0%



※無回答 1

■Q4 大学院に進学するとしたら、どこで学びたいですか。

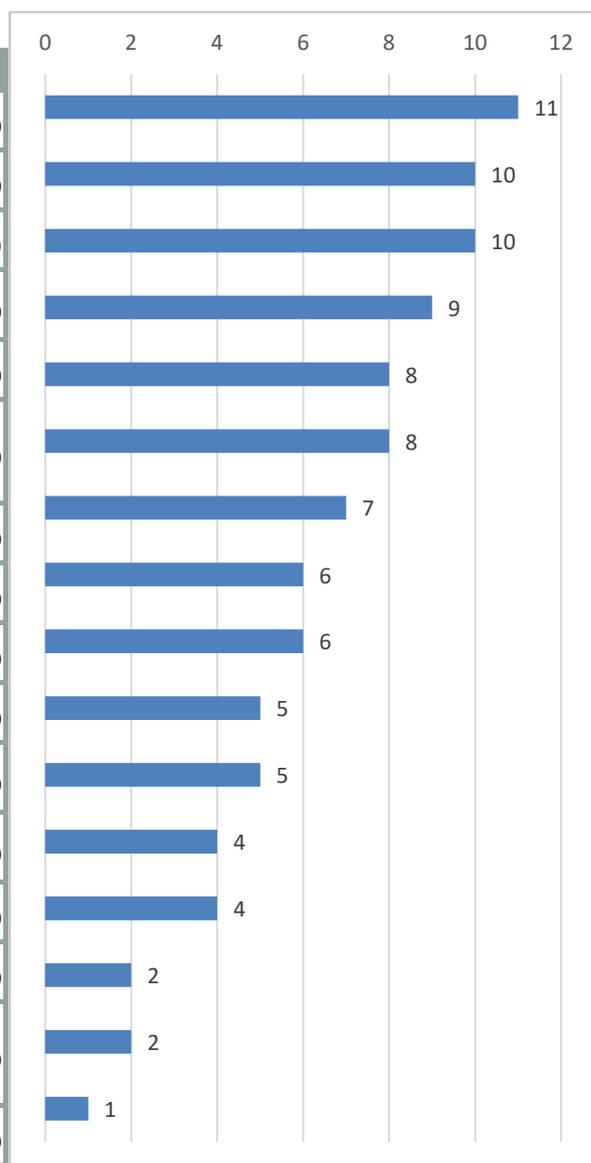
回答項目	回答数	割合
大阪教育大学の新たな大学院	11	55.0%
大阪教育大学以外の大学院	9	45.0%
計	20	100.0%



※無回答 1 ※複数回答 3

■Q5 大学院で研究したいことや身につけたい能力があれば、すべてにチェックしてください。【複数選択可】
 (「その他」の自由記述回答)

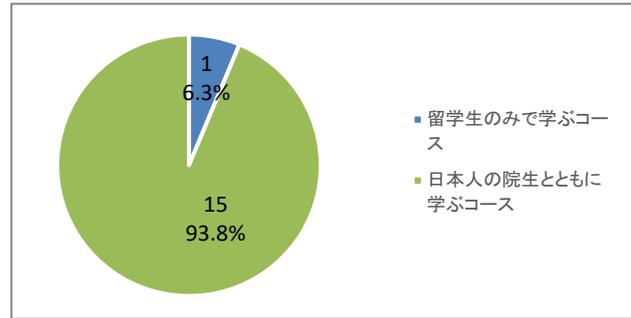
回答項目	回答数	割合
異文化コミュニケーションについての研究	11	11.2%
日本語についての研究	10	10.2%
日本で暮らす外国人への日本語教育	10	10.2%
国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力	9	9.2%
外国語を習得するための研究	8	8.2%
「外国にルーツのある子ども」(日本の学校で勉強する外国人の子ども)への日本語教育	8	8.2%
勉強を教える能力	7	7.1%
教育についての研究	6	6.1%
日本と世界の文化・芸術	6	6.1%
日本語教育についての研究	5	5.1%
日本の教材(日本型教材)の開発と授業の方法についての研究	5	5.1%
日本の教育(日本型教育)におけるICTの活用	4	4.1%
その他	4	4.1%
日本と世界の文学	2	2.0%
日本の学校で教える教科(数学, 理科, 社会, 英語, 国語など)の内容と教えるための方法	2	2.0%
日本と世界の歴史	1	1.0%
計	98	100.0%



※その他…「他国で教える時」「応用数学を深みになるような研究室があります。」「心理学についての研究」【原文ママ】

■Q6 Q5 でチェックした能力を身につけるためには、どちらのコースが望ましいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
留学生のみで学ぶコース	1	6.3%
日本人の院生とともに学ぶコース	15	93.8%
計	16	100.0%

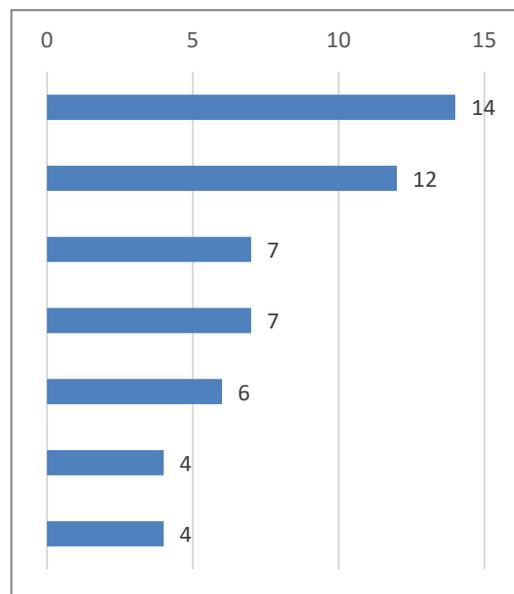


※無回答 2

※備考…「留学生のみとなると9割以上が中国人留学生となってしまう、共通語が中国語になるため、留学する雰囲気を感じなくなってしまう。」

■Q7 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものがあれば、すべてにチェックしてください。
【複数選択可】（「その他」の自由記述回答）

回答項目	回答数	割合
国際交流機関で働く	14	25.9%
日本や海外にある教育関連企業で働く	12	22.2%
日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く	7	13.0%
日本語教師を育てるための大学や専門学校で教師として働く	7	13.0%
日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く	6	11.1%
学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする	4	7.4%
その他	4	7.4%
計	54	100.0%



※その他…「IT 関連の仕事」「数学に関する仕事なら、何でもいいです。」【原文ママ】

おおさかきょういくだいがく ねが
大阪教育大学からのお願い

おおさかきょういくだいがくは、れいわ ねんど あたら だいがくいん のコースを柏原市に開設する予定です。

あたら だいがくいん には、にほんごきょういく にほん がっこう くにほんがたきょういく について専門的に学ぶことができます。大学院の授業は昼間におこなう予定です。

いま あたら だいがくいん かいせつ ちようさ げん かいせい りゆうがくせい の希望を教えてください。この用紙の裏にアンケートがあります。

みなさんの答えは、おおさかきょういくだいがく あたら だいがくいん かいせつ がいがい ちくてき つか 以外の目的では使いません。このアンケートの答えが外部に出ないように大学が管理します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

おおさかきょういくだいがくだいがくいん とくちよう れいわ ねん がつ あたら だいがくいん かいせつよてい ないよう か かのうせい
大阪教育大学大学院の特徴 (令和3年4月に新しい大学院のコースが開設予定。内容は変わる可能性があります。)

きょういくないよう
<教育内容>

あたら だいがくいん には、にほん ぎょういく にほんがたきょういく と母国の教育を比較して海外の教育の発展を目指す「日本型教育システム開発」と日本語教育の理論と方法を学ぶ「日本語教育支援高度化」の2つの領域があります。

とくしよく
<カリキュラムの特色>

- ◆日本の教育（日本型教育）と母国の教育システムの比較研究
- ◆日本語だけでなく他の学問の内容を組み合わせた実践的な日本語教育プログラムの開発
- ◆日本国内の教育機関や行政機関などでの調査研究と実習
- ◆日本語教育と日本語についての調査研究
- ◆異文化理解や多文化共生について理解を深めるための調査研究

しゆとくかのう がくい ひつよう けいひ
取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学料・授業料を併せて、2年間で
そうがく やく まんえん
総額 約140万円

ようせい じんざいざう
<養成する人材像>

- ◆日本の教育（日本型教育）の特色を理解し、日本国内外で活躍できる人材
- ◆日本語教育や日本の文化について深く理解し、教師として学習者一人ひとりの個性やルーツを尊重できる人材
- ◆日本の教育（日本型教育）と日本語教育について理解を深め、国際社会の発展のために活躍できる人材

だいがくいんしゆりようご しんる
<大学院修了後の進路（例）>

- ◆国内外の日本語学校の日本語教師
- ◆日本語教師養成機関の講師
- ◆学校や地域で活躍する日本語支援員
- ◆国内外の教育関連機関の教師・職員
- ◆国内外の教育関連企業の社員
- ◆国際交流機関の職員

ちようきりしゆうがくせいせいど
長期履修学生制度

げんざいしごと りゆう だいがくいん を2年間で修了することが難しい学生は、だいがくいん まな きかん えんちよう 大学院で学ぶ期間を延長することができます。その間にかかる授業料の負担も減らすことができます。

うらめん
裏面アンケートに
ご協力をお願いします。

だいがくいん かん ちようさ
大学院に関するニーズ調査

Q1 所属の専攻・コース名を教えてください。

()

Q2 大阪教育大学の新しい大学院に興味や関心はありますか。

- 非常にある 少しある あまりない 全くない

Q3 学部卒業後に大学院への進学を考えていますか。

- 考えている 少し考えている
 わからない 全く考えていない

Q4 大学院に進学するとしたら、どこで学びたいですか。

- 大阪教育大学の新たな大学院 大阪教育大学以外の大学院

Q5 大学院で研究したいことや身につけたい能力があれば、すべてにチェックしてください。

- 教育についての研究 異文化コミュニケーションについての研究
 日本語についての研究 外国語を習得するための研究
 日本語教育についての研究
 日本と世界の歴史 日本と世界の文学 日本と世界の文化・芸術
 勉強を教える能力 日本の教材（日本型教材）の開発と授業の方法についての研究
 日本の学校で教える教科（数学，理科，社会，英語，国語など）の内容と教えるための方法
 日本の教育（日本型教育）におけるICTの活用
 日本で暮らす外国人への日本語教育
 「外国にルーツのある子ども」（日本の学校で勉強する外国人の子ども）への日本語教育
 国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力
 その他 ()

Q6 Q5でチェックした能力を身につけるためには、どちらのコースが望ましいと思いますか。

- 留学生のみで学ぶコース 日本人の院生とともに学ぶコース

Q7 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものがあれば、すべてにチェックしてください。

- 日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く
 日本語教師を育てるための大学や専門学校の教師として働く
 学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする
 国際交流機関で働く 日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く
 日本や海外にある教育関連企業で働く
 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

「大学院に関するニーズ調査」結果報告書【国際協働教育コース調査（日本人等学生3回生）】

令和元年 12月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	令和3年度より日本語教育や日本の学校で行われている教育（日本型教育）について専門的に学ぶことを目的とした新しい大学院のコース（柏原・屋間）を開設する予定に伴い、日本人等学生のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	グローバル教育専攻多文化リテラシー，英語コミュニケーションコースの3回生
調査方法	指導教員等を通じ質問紙を配布。
調査対象数	配布数 61 回収数 51 【回収率 83.6%】
調査時期	2019年12月17日（火）～2019年12月20日（金）
調査実施部署	経営戦略課

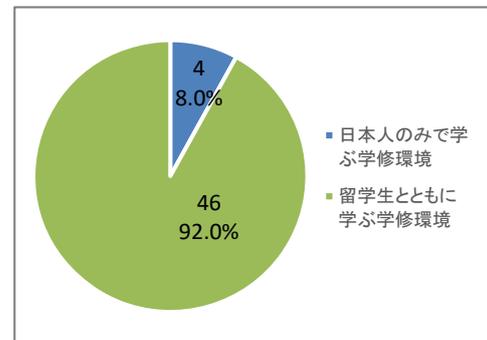
■Q1 所属の専攻・コース名を教えてください。

「グローバル教育専攻 多文化リテラシーコース 27」, 「グローバル教育専攻 英語コミュニケーションコース 23」

■Q2 新しいコースの目的のためには、どちらの学修環境が望ましいと思いますか。

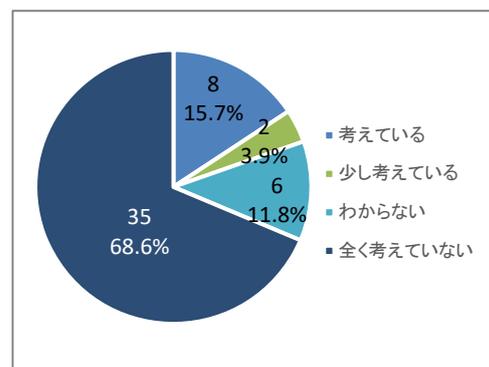
回答項目	回答数	割合
日本人のみで学ぶ学修環境	4	8.0%
留学生とともに学ぶ学修環境	46	92.0%
計	50	100.0%

※無回答 1



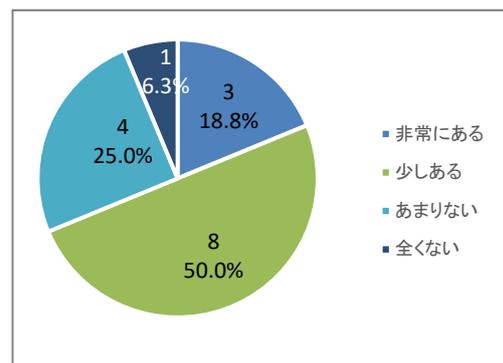
■Q3 あなたは大学院進学を考えていますか。

回答項目	回答数	割合
考えている	8	15.7%
少し考えている	2	3.9%
わからない	6	11.8%
全く考えていない	35	68.6%
計	51	100.0%



■Q4 あなたは本学大学院の新コースに関心がありますか。（※Q3 で考えている，少し考えている，わからない，を選択した者のみ回答）

回答項目	回答数	割合
非常にある	3	18.8%
少しある	8	50.0%
あまりない	4	25.0%
全くない	1	6.3%
計	16	100.0%

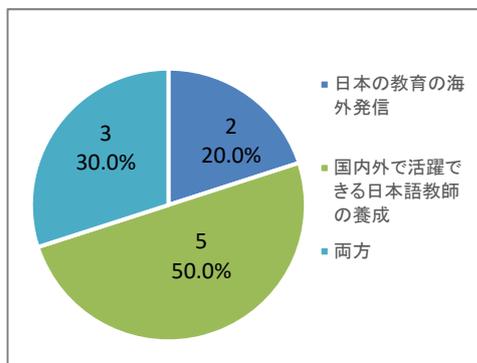


※Q4 の「本学大学院の新コースに関心はありますか」の質問に対して、「非常にある」(3名)「少しある」(8名)と回答した計11名の日本人等学生を内部進学による出願者として見込む。

■Q5 あなたはどちらの目的に関心がありますか。
 (※Q4 で非常にある, 少しある, を選択した者のみ回答)

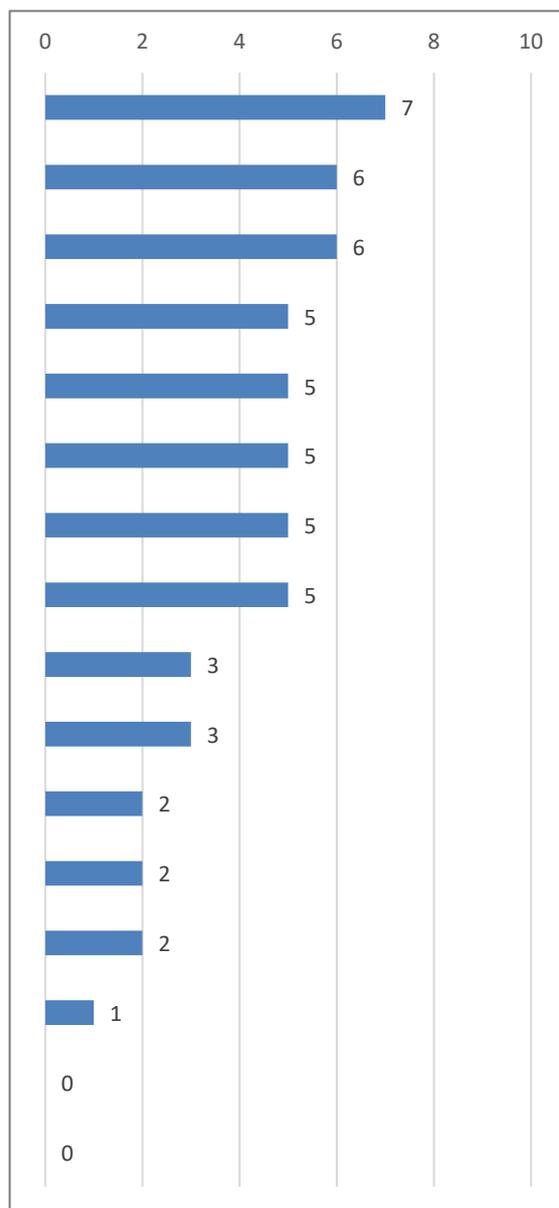
回答項目	回答数	割合
日本の教育の海外発信	2	20.0%
国内外で活躍できる日本語教師の養成	5	50.0%
両方	3	30.0%
計	10	100.0%

※無回答1



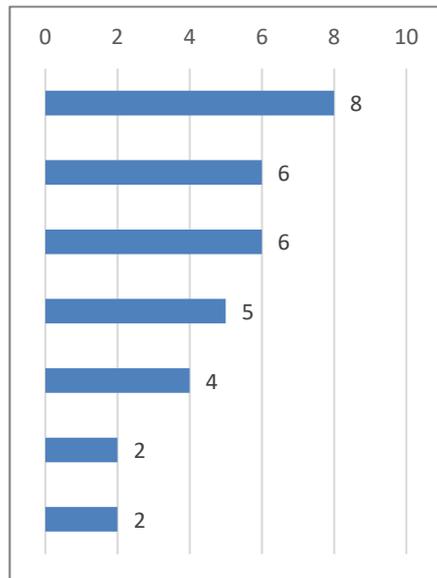
■Q6 大学院新コースで研究したいことや身につけたい能力をすべてチェックしてください。【複数選択可】(「その他」の自由記述回答)

回答項目	回答数	割合
日本語についての研究	7	12.3%
教育についての研究	6	10.5%
外国語を習得するための研究	6	10.5%
異文化コミュニケーションについての研究	5	8.8%
日本語教育についての研究	5	8.8%
日本と世界の文化・芸術	5	8.8%
日本で暮らす外国人への日本語教育	5	8.8%
「外国にルーツのある子ども」(日本の学校で勉強する外国人の子ども)への日本語教育	5	8.8%
日本と世界の歴史	3	5.3%
勉強を教える能力	3	5.3%
日本の教材(日本型教材)の開発と授業の方法についての研究	2	3.5%
日本の学校で教える教科(数学, 理科, 社会, 英語, 国語など)の内容と教えるための方法	2	3.5%
国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力	2	3.5%
日本と世界の文学	1	1.8%
日本の教育におけるICTの活用	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	57	100.0%



■Q6 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものをすべてチェックしてください。【複数選択可】（「その他」の自由記述回答）

回答項目	回答数	割合
日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く	8	24.2%
日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く	6	18.2%
国際交流機関で働く	6	18.2%
日本や海外にある教育関連企業で働く	5	15.2%
学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする	4	12.1%
日本語教師を育てるための大学や専門学校の教師として働く	2	6.1%
その他	2	6.1%
計	33	100.0%



※その他…一般企業就職等

大阪教育大学からのお願い

大阪教育大学では、教職大学院とは別に、次のことを目的とする新しいコースの設置を検討しています。

◆ 日本の教育の海外発信 ◆ 国内外で活躍できる日本語教師の養成

このことに関して、アンケートに答えて下さい。

Q1 所属の専攻・コース名を教えてください。

()

Q2 新しいコースの目的のためには、どちらの学修環境が望ましいと思いますか。

日本人のみで学ぶ学修環境 留学生とともに学ぶ学修環境

Q3 あなたは大学院進学を考えていますか。

考えている 少し考えている
 わからない 全く考えていない（アンケート終了です）

Q4 あなたは本学大学院の新コースに関心がありますか。

非常にある 少しある あまりない（アンケート終了です）
 全くない（アンケート終了です）

Q5 あなたはどちらの目的に関心がありますか。

日本の教育の海外発信 国内外で活躍できる日本語教師の養成 両方

Q6 大学院新コースで研究したいことや身につけたい能力をすべてチェックしてください。

教育についての研究 異文化コミュニケーションについての研究
 日本語についての研究 外国語を習得するための研究
 日本語教育についての研究
 日本と世界の歴史 日本と世界の文学 日本と世界の文化・芸術
 勉強を教える能力 日本の教材（日本型教材）の開発と授業の方法についての研究
 日本の学校で教える教科（数学、理科、社会、英語、国語など）の内容と教えるための方法
 日本の教育におけるICTの活用 日本で暮らす外国人への日本語教育
 「外国にルーツのある子ども」（日本の学校で勉強する外国人の子ども）への日本語教育
 国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力
 その他（)

Q7 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものをすべてチェックしてください。

日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く
 日本語教師を育てるための大学や専門学校の教師として働く
 学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする
 国際交流機関で働く 日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く
 日本や海外にある教育関連企業で働く
 その他（)

ご協力ありがとうございました。

「大学院に関するニーズ調査」結果報告書【国際協働教育コース調査（大阪 YMCA）】

令和元年 11 月 大阪教育大学 経営戦略課

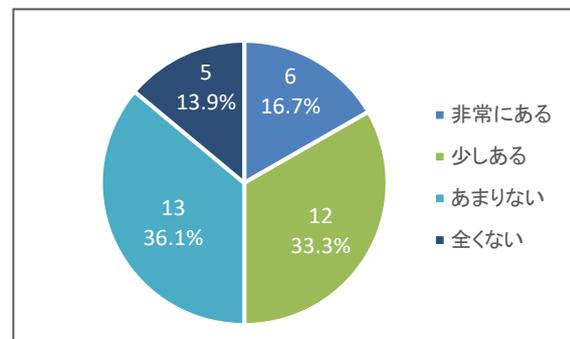
調査概要	
調査目的	令和3年度より日本語教育や日本の学校でおこなわれている教育（日本型教育）について専門的に学ぶことを目的とした新しい大学院のコース（柏原・昼間）を開設する予定に伴い、日本の大学や大学院への進学を目指す方のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	大阪 YMCA 国際専門学校留学生 【入学：2018年4月（2名）、10月（10名）、2019年4月（10名）、10月（18名）】
調査方法	質問紙を配布。回答は回収。
調査対象数	配布数 40 回収数 36 【回収率90.0%】
調査時期	2019年10月24日（木）～2019年11月28日（木）
調査実施部署	経営戦略課

■Q1 あなたが通っている学校名（学科，コースなど）を教えてください。【原文ママ】

「大阪 YMCA 国際専門学校(日本語学科)20」「大阪 YMCA 国際専門学校 7」「関西大学(商学科)1」「経済学 統計学 1」「滋慶医療科学大学院大学 1」「仙台大学院(スポーツ学科)1」「築波(体育に関するコース)1」「花園大学大学院(社会福祉学研究科・社会福祉学専攻)、桃山学院大学大学院(社会学研究科・応用社会学専攻)、四天王寺大学大学院(人間社会学研究科・人間福祉学専攻)1」「幼児教育 1」

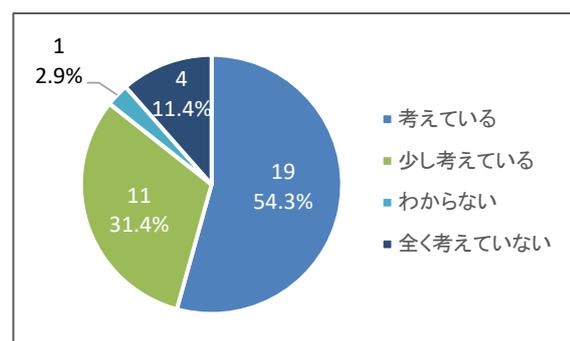
■Q2 大阪教育大学の新しい大学院に興味や関心がありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	6	16.7%
少しある	12	33.3%
あまりない	13	36.1%
全くない	5	13.9%
計	36	100.0%



■Q3 今の学校の卒業後に大学院への進学を考えていますか。

回答項目	回答数	割合
考えている	19	54.3%
少し考えている	11	31.4%
わからない	1	2.9%
全く考えていない	4	11.4%
計	35	100.0%

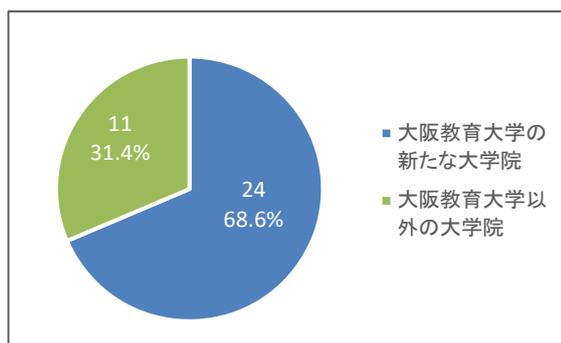


※無回答あり 1

■Q4 大学院に進学するとしたら、どこで学びたいですか。

回答項目	回答数	割合
大阪教育大学の新たな大学院	24	68.6%
大阪教育大学以外の大学院	11	31.4%
計	35	100.0%

※無回答あり 1

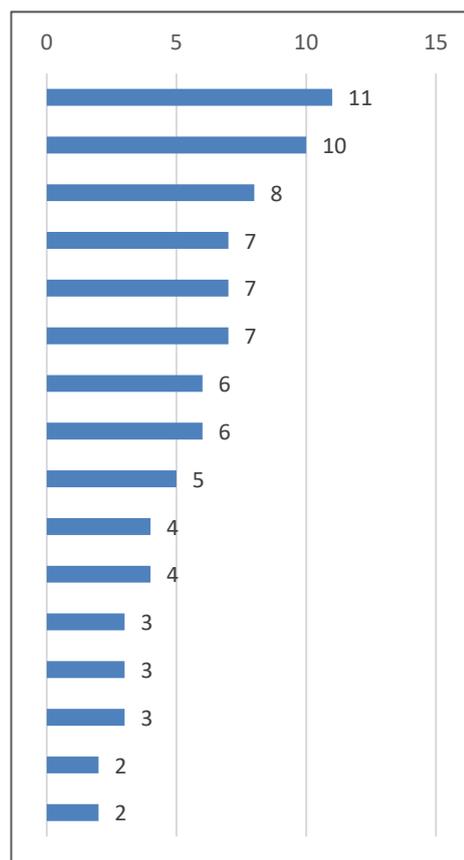


※Q3の「卒業後に大学院への進学を考えていますか。」の質問に対し、「考えている」(19人)と「少し考えている」(11人)と回答した人は計30人であった。この大学院への進学を考える30人を対象に、Q4で本学の新たな大学院で学びたい割合68.6%を勘案し、20人(30人×68.6%)を国内の留学生出願者として見込む。

■Q5 大学院で研究したいことや身につけたい能力であれば、すべてにチェックしてください。

【複数選択可】【「その他」の自由記述回答】

回答項目	回答数	割合
教育についての研究	11	12.5%
その他	10	11.4%
異文化コミュニケーションについての研究	8	9.1%
日本と世界の文化・芸術	7	8.0%
日本の学校で教える教科(数学, 理科, 社会, 英語, 国語など)の内容と教えるための方法	7	8.0%
日本で暮らす外国人への日本語教育	7	8.0%
外国語を習得するための研究	6	6.8%
勉強を教える能力	6	6.8%
国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力	5	5.7%
日本と世界の歴史	4	4.5%
日本の教育(日本型教育)におけるICTの活用	4	4.5%
日本語についての研究	3	3.4%
日本と世界の文学	3	3.4%
日本の教材(日本型教材)の開発と授業の方法についての研究	3	3.4%
日本語教育についての研究	2	2.3%
「外国にルーツのある子ども」(日本の学校で勉強する外国人の子ども)への日本語教育	2	2.3%
計	88	100.0%

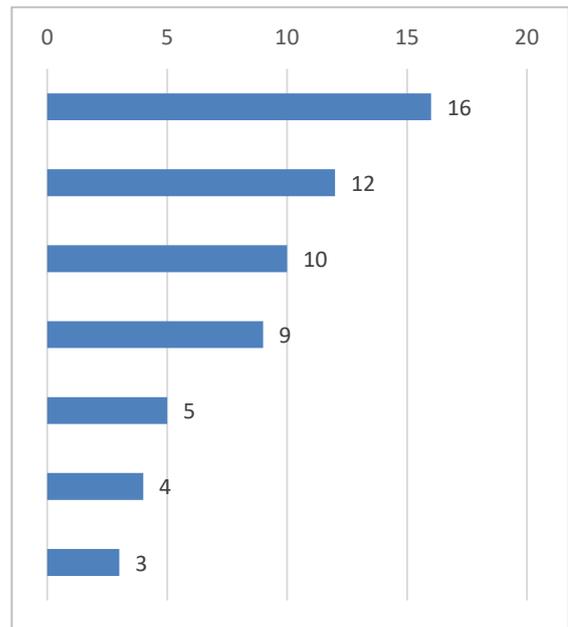


※その他…「日本医療機関 医療安全管理 1」「東アジア文化 1」「化学 1」「工学科 1」「日本と世界の経営 1」「美術について 1」「設計, 車の設計 1」「音楽 1」

■Q6 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものがあれば、すべてにチェックしてください。

【複数選択可】【「その他」の自由記述回答】

回答項目	回答数	割合
国際交流機関で働く	16	27.1%
日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く	12	20.3%
その他	10	16.9%
日本や海外にある教育関連企業で働く	9	15.3%
日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く	5	8.5%
日本語教師を育てるための大学や専門学校で教師として働く	4	6.8%
学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする	3	5.1%
計	59	100.0%



※その他…「会社で働く1」「建築士1」「社員になりたい1」「ない1」「家族の企業の販路拡大に努めたいと思います1」「材料研究1」「貿易会社1」「大学や企業で研究者として働く1」

おおさかきょういくだいがく ねが 大阪教育大学からのお願い

おおさかきょういくだいがくは、れいわ ねんど あたら だいがくいん のコースを柏原市に開設する予定です。

あたら だいがくいん にほんごきょういく にほん がっこう きょういく にほんがたきょういく について専門的に学ぶことができます。大学院の授業は昼間におこなう予定です。

いま あたら だいがくいん かいせつ ためのニーズ調査をしています。ぜひ、日本の大学や大学院への進学を
めざすみなさんのきぼうを教えてください。この用紙の裏にアンケートがあります。

みなさんの答えは、おおさかきょういくだいがく あたら だいがくいん かいせつ すること以外の目的では使いません。このアンケートの答えが外部に出ないように大学が管理します。

どうぞよろしくおねがい申し上げます。

おおさかきょういくだいがく だいがくいん とくちょう 大阪教育大学大学院の特徴 (令和3年4月に新しい大学院のコースが開設予定。内容は変わる可能性があります。)

きょういくないよう <教育内容>

あたら だいがくいん にほんごきょういく にほんがたきょういく と新しい大学院には、日本の教育（日本型教育）と母国の教育を比較して海外の教育の発展を目指す「日本型教育システム開発」と日本語教育の理論と方法を学ぶ「日本語教育支援高度化」の2つの領域があります。

とくしよく <カリキュラムの特色>

◆日本の教育（日本型教育）と母国の教育システムの比較研究

◆日本語だけでなく他の学問の内容を組み合わせた実践的な日本語教育プログラムの開発

◆日本国内の教育機関や行政機関などでの調査研究と実習

◆日本語教育と日本語についての調査研究

◆異文化理解や多文化共生について理解を深めるための調査研究

ようせい じんざいざう <養成する人材像>

◆日本の教育（日本型教育）の特色を理解し、日本国内外で活躍できる人材

◆日本語教育や日本の文化について深く理解し、教師として学習者一人ひとりの個性やルーツを尊重できる人材

◆日本の教育（日本型教育）と日本語教育について理解を深め、国際社会の発展のために活躍できる人材

だいがくいんしゅうりようご しんる <大学院修了後の進路（例）>

◆国内外の日本語学校の日本語教師

◆日本語教師養成機関の講師

◆学校や地域で活躍する日本語支援員

◆国内外の教育関連機関の教師・職員

◆国内外の教育関連企業の社員

◆国際交流機関の職員

しゅとくかのう がくい ひつよう けいひ 取得可能な学位と必要となる経費

◆修士号

◆入 学 料 ・ 授 業 料 を 併 せ て 総 額 約 140 万 円

ちようきりしゅうがくせいせいど 長期履修学生制度

げんざいしごと ねんかん しゅうりよう りゆう だいがくいん 現在仕事をしているなどの理由で大学院を2年間で修了することが難しい学生は、大学院で学ぶ期間を延長することができます。その間にかかる授業料の負担も減らすことができます。

うらめん
裏面アンケートに
ご協力をお願いします。

だいがくいん かん ちようさ
大学院に関するニーズ調査

Q1 あなたが通っている学校名(学科, コースなど)を教えてください。

()

Q2 大阪教育大学の新しい大学院に興味や関心はありますか。

- 非常にある 少しある あまりない 全くない

Q3 今の学校の卒業後に大学院への進学を考えていますか。

- 考えている 少し考えている
 わからない 全く考えていない

Q4 大学院に進学するとしたら、どこで学びたいですか。

- 大阪教育大学の新たな大学院 大阪教育大学以外の大学院

Q5 大学院で研究したいことや身につけたい能力があれば、すべてにチェックしてください。

- 教育についての研究 異文化コミュニケーションについての研究
 日本語についての研究 外国語を習得するための研究
 日本語教育についての研究
 日本と世界の歴史 日本と世界の文学 日本と世界の文化・芸術
 勉強を教える能力 日本の教材(日本型教材)の開発と授業の方法についての研究
 日本の学校で教える教科(数学, 理科, 社会, 英語, 国語など)の内容と教えるための方法
 日本の教育(日本型教育)におけるICTの活用
 日本で暮らす外国人への日本語教育
 「外国にルーツのある子ども」(日本の学校で勉強する外国人の子ども)への日本語教育
 国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力
 その他()

Q6 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものがあれば、すべてにチェックしてください。

- 日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く
 日本語教師を育てるための大学や専門学校の教師として働く
 学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする
 国際交流機関で働く 日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く
 日本や海外にある教育関連企業で働く
 その他()

ご協力ありがとうございました。

「大学院に関するニーズ調査」結果報告書【国際協働教育コース調査（海外協定校）】

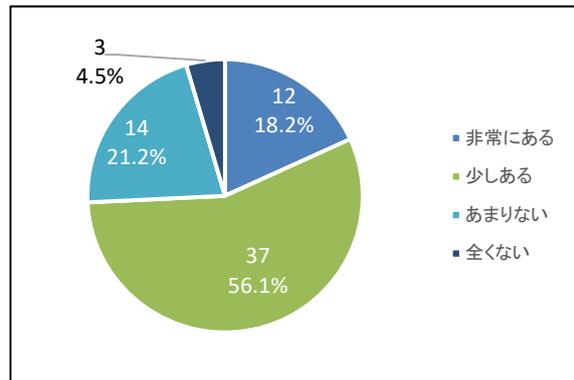
令和元年 11～12月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	令和3年度より日本語教育や日本の学校でおこなわれている教育（日本型教育）について専門的に学ぶことを目的とした新しい大学院のコース（柏原・昼間）を開設する予定に伴い、日本の大学や大学院への進学を目指す方のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	本学協定校 ハノイ大学 日本語学部学生
調査方法	質問紙を配布し、回答を回収
調査対象数	配布数 100 回収数 69 【回収率 69%】
調査時期	2019年11月15日（金）～2019年12月20日（金）
調査実施部署	経営戦略課

■Q1 大阪教育大学の新しい大学院に興味や関心はありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	12	18.2%
少しある	37	56.1%
あまりない	14	21.2%
全くない	3	4.5%
計	66	100.0%

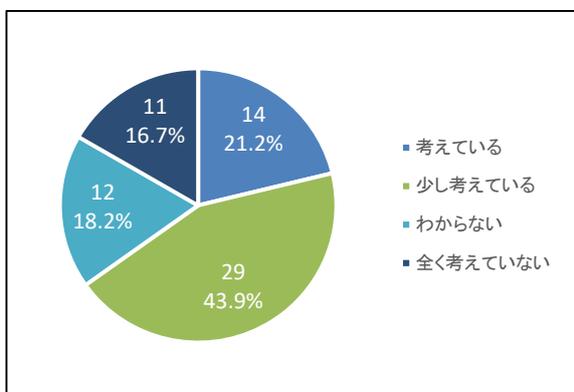
※無回答3



■Q2 今の学校の卒業後に大学院への進学を考えていますか。

回答項目	回答数	割合
考えている	14	21.2%
少し考えている	29	43.9%
わからない	12	18.2%
全く考えていない	11	16.7%
計	66	100.0%

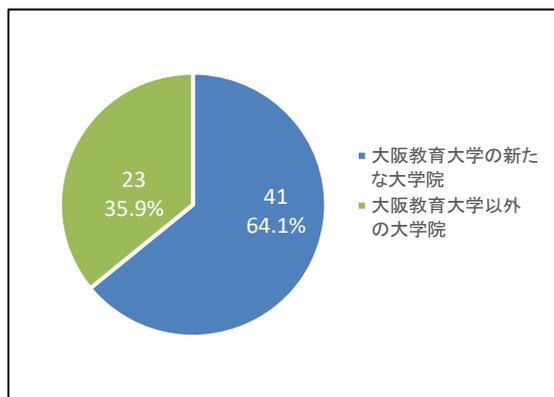
※無回答3



■Q3 大学院に進学するとしたら、どこで学びたいですか。

回答項目	回答数	割合
大阪教育大学の新たな大学院	41	64.1%
大阪教育大学以外の大学院	23	35.9%
計	64	100.0%

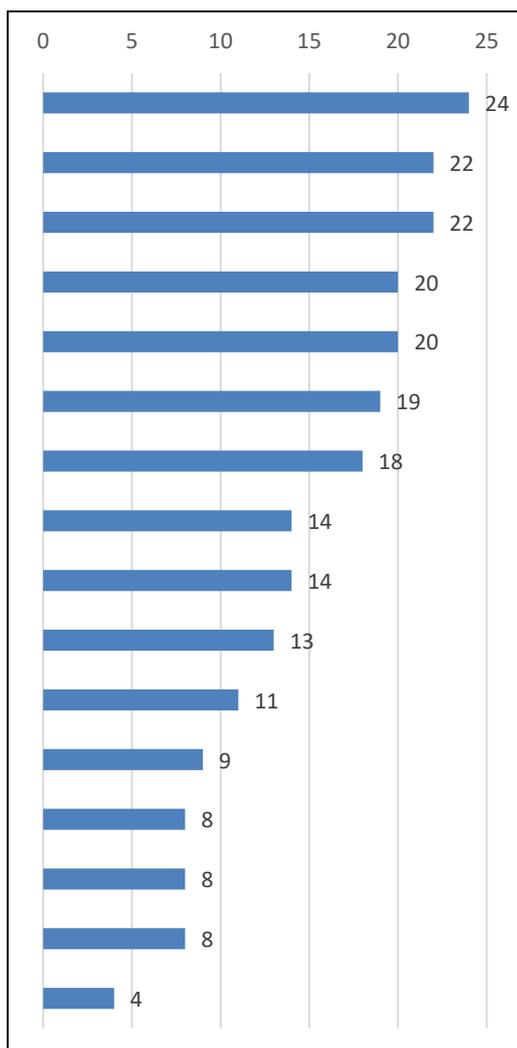
※無回答 8 複数回答あり



※Q2の「卒業後に大学院への進学を考えていますか。」の質問に対し、「考えている」(14人)と「少し考えている」(29人)と回答した人は計43人であった。この大学院への進学を考える43人を対象に、Q3で本学の新たな大学院で学びたい割合64.1%を勘案し、28人(43人×64.1%)を国外からの留学生出願者と見込む。

■Q4 大学院で研究したいことや身につけたい能力があれば、すべてチェックしてください【複数選択可】

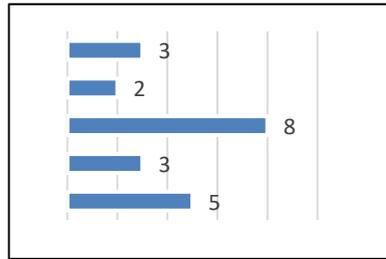
回答項目	回答数	割合
異文化コミュニケーションについての研究	24	10.3%
教育についての研究	22	9.4%
日本語教育についての研究	22	9.4%
日本語についての研究	20	8.5%
日本で暮らす外国人への日本語教育	20	8.5%
勉強を教える能力	19	8.1%
日本と世界の文化・芸術	18	7.7%
日本の学校で教える教科内容と教えるための方法	14	6.0%
国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力	14	6.0%
外国語を習得するための研究	13	5.6%
日本と世界の文学	11	4.7%
日本と世界の歴史	9	3.8%
日本の教材(日本型教材)の開発と授業の方法についての研究	8	3.4%
日本の教育(日本型教育)におけるICTの活用	8	3.4%
「外国にルーツのある子ども」(日本の学校で勉強する外国人の子ども)への日本語教育	8	3.4%
その他	4	1.7%
計	234	100.0%



(※「その他」経営)

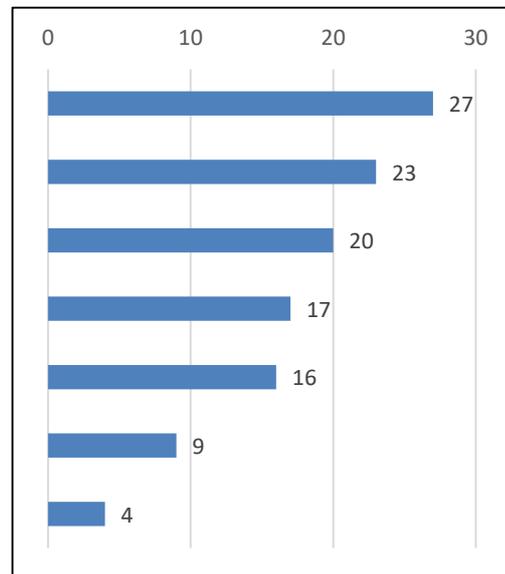
該当する場合、希望する教科にチェックまたは記載してください。【複数選択可】

数学	3	14.3%
理科	2	9.5%
社会	8	38.1%
英語	3	14.3%
国語	5	23.8%
その他	0	0.0%
計	21	100.0%



■Q5 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものがあれば、すべてにチェックしてください。【複数選択可】（「その他」の自由記述回答）

回答項目	回答数	割合
国際交流機関で働く	27	23.3%
日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く	23	19.8%
日本語教師を育てるための大学や専門学校の教師として働く	20	17.2%
学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする	17	14.7%
日本や海外にある教育関連企業で働く	16	13.8%
日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く	9	7.8%
その他	4	3.4%
計	116	100.0%



(※「その他」自業する、就職活動を受けて、日本の企業に働く)

おおさかきょういくだいがく ねが 大阪教育大学からのお願い

おおさかきょういくだいがくは、れいわ ねんど あたら だいがくいん のコースを柏原市に開設する予定です。

あたら だいがくいん にほんごきょういく にほん がっこう きょういく にほんがたきょういく について専門的に学ぶことができます。大学院の授業は昼間におこなう予定です。

いま あたら だいがくいん かいせつ ためのニーズ調査をしています。ぜひ、日本の大学や大学院への進学を
めざすみなさんのきぼうを教えてください。この用紙の裏にアンケートがあります。

みなさんの答えは、おおさかきょういくだいがく あたら だいがくいん かいせつ すること以外の目的では使いません。このアンケートの答えが外部に出ないように大学が管理します。

どうぞよろしくおねがい申し上げます。

おおさかきょういくだいがくだいがくいん とくちょう
大阪教育大学大学院の特徴 (令和3年4月に新しい大学院のコースが開設予定。内容は変わる可能性があります。)

きょういくないよう <教育内容>

あたら だいがくいん にほんごきょういく にほんがたきょういく と新しい大学院には、日本の教育（日本型教育）と母国の教育を比較して海外の教育の発展を目指す「日本型教育システム開発」と日本語教育の理論と方法を学ぶ「日本語教育支援高度化」の2つの領域があります。

とくしよく <カリキュラムの特色>

◆日本の教育（日本型教育）と母国の教育システムの比較研究

◆日本語だけでなく他の学問の内容を組み合わせた実践的な日本語教育プログラムの開発

◆日本国内の教育機関や行政機関などでの調査研究と実習

◆日本語教育と日本語についての調査研究

◆異文化理解や多文化共生について理解を深めるための調査研究

ようせい じんざいざう <養成する人材像>

◆日本の教育（日本型教育）の特色を理解し、日本国内外で活躍できる人材

◆日本語教育や日本の文化について深く理解し、教師として学習者一人ひとりの個性やルーツを尊重できる人材

◆日本の教育（日本型教育）と日本語教育について理解を深め、国際社会の発展のために活躍できる人材

だいがくいんしゅうりようご しんる <大学院修了後の進路（例）>

◆国内外の日本語学校の日本語教師

◆日本語教師養成機関の講師

◆学校や地域で活躍する日本語支援員

◆国内外の教育関連機関の教師・職員

◆国内外の教育関連企業の社員

◆国際交流機関の職員

しゅとくかのう がくい ひつよう けいひ 取得可能な学位と必要となる経費

◆修士号

◆入 学 料 ・ 授 業 料 を 併 せ て 総 額 約 140 万 円

ちようきりしゅうがくせいせいど 長期履修学生制度

げんざいしごと ねんかん しゅうりよう りゆう だいがくいん
現在仕事をしているなどの理由で大学院を2年間で修了することが難しい学生は、大学院で学ぶ期間を延長することができます。その間にかかる授業料の負担も減らすことができます。

うらめん
裏面アンケートに
ご協力をお願いします。

だいがくいん かん ちようさ
大学院に関するニーズ調査

- Q1 大阪教育大学の新しい大学院に興味や関心はありますか。
 非常にある 少しある あまりない 全くない
- Q2 今の学校の卒業後に大学院への進学を考えていますか。
 考えている 少し考えている
 わからない 全く考えていない
- Q3 大学院に進学するとしたら、どこで学びたいですか。
 大阪教育大学の新たな大学院 大阪教育大学以外の大学院
- Q4 大学院で研究したいことや身につけたい能力があれば、すべてにチェックしてください。
 教育についての研究 異文化コミュニケーションについての研究
 日本語についての研究 外国語を習得するための研究
 日本語教育についての研究
 日本と世界の歴史 日本と世界の文学 日本と世界の文化・芸術
 勉強を教える能力 日本の教材（日本型教材）の開発と授業の方法についての研究
 日本の学校で教える教科内容と教えるための方法
(該当する場合、希望する教科にチェックまたは記載してください)。
 数学 理科 社会 英語 国語 その他 ()
 日本の教育（日本型教育）におけるICTの活用
 日本で暮らす外国人への日本語教育
 「外国にルーツのある子ども」（日本の学校で勉強する外国人の子ども）への日本語教育
 国内外の教育機関で必要な母語と日本語以外の言語が使える能力
 その他 ()
- Q5 大学院卒業後の進路について興味や関心があるものがあれば、すべてにチェックしてください。
 日本や海外にある日本語学校で日本語教師として働く
 日本語教師を育てるための大学や専門学校の教師として働く
 学校・地域の支援員として日本語教師をサポートする仕事をする
 国際交流機関で働く 日本や海外にある教育機関で教師・職員として働く
 日本や海外にある教育関連企業で働く
 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ【大学院教育学研究科（教養系）留学生における入試状況（H27～R2）】

専攻	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		合計		6カ年平均	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数								
国際文化	12	6	5	1	6	3	8	2	7	4	15	9	53	25	△	
総合基礎科学	2	2	2	1	1	0	3	0	0	0	0	0	8	3		
芸術文化	6	3	1	1	5	1	3	0	5	0	6	5	26	10		
健康科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	20	11	8	3	12	4	14	2	12	4	21	14	87	38	(A) 15	(B) 6

国際協働教育コースは、留学生の出願者を見込むことから、入学定員目安の設定において用いている受験倍率は、本学修士課程（教養系）の留学生における入試状況（過去6カ年）をもとに算出する。

本学修士課程全体の過去6カ年における留学生の平均志願者数は15人（A）、入学者数は6人（B）である。
したがって、過去6カ年の平均受験倍率は15人（A）÷6人（B）= **2.5倍**

⇒ 国際協働教育コースは、2.5倍の受験倍率水準を維持できれば、優秀な留学生が一定確保できる。

入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ【大学院教育学研究科（教養系）学部卒学生（留学生除く）における入試状況（H27～R2）】

専攻	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		合計		6カ年平均	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数								
国際文化	11	8	3	3	4	3	5	4	5	3	7	4	35	25	△	
総合基礎科学	16	10	29	19	17	12	16	11	21	14	17	7	116	73		
芸術文化	21	17	21	16	30	14	22	12	17	12	21	8	132	79		
健康科学	0	0	2	1	4	4	2	2	13	7	4	2	25	16		
計	48	35	55	39	55	33	45	29	56	36	49	21	308	193	(C) 51	(D) 32

国際協働教育コースでは、内部進学による日本人等学生の出願者も一定数見込むことから、入学定員目安の設定において用いている受験倍率を、本学修士課程（教養系）の学部卒学生（留学生除く）における入試状況（過去6カ年）をもとに算出する。

本学修士課程全体の過去6カ年における学部卒学生（留学生除く）の平均志願者数は51人（C）、入学者数は32人（D）である。
したがって、過去6カ年の平均受験倍率は51人（C）÷32人（D）= **1.6倍**

⇒ 国際協働教育コースは、1.6倍の受験倍率水準を維持できれば、優秀な学部卒学生が一定確保できる。

教育ファシリテーションコース 入学定員充足の概要

●出願者数の算定

内容		人数	
過去の入試実績	教育学研究科健康科学専攻（夜間）の社会人出願者数（直近6年間の平均）	29人	…… ㉑
ニーズ調査 （近畿5府県の職業人対象）	教育イノベーション開発領域	80人	} ㉒
	地域教育・芸術支援人材高度化領域	91人	
	健康・安全教育高度化領域	83人	
ニーズ調査 （各専門分野の団体）	地域教育・芸術支援人材高度化領域 （対象：大阪市役所、一般財団法人大阪教育文化振興財団、社会教育主事受講生）	8人	…… ㉓
	地域教育・芸術支援人材高度化領域 （対象：演奏家やアーティスト等の音楽関係の職業に携わる者）	4人	
	計	12人	
ニーズ調査 （看護師・保健師対象）	健康・安全教育高度化領域	46人	…… ㉔

ニーズ調査による㉒・㉓・㉔から多くの出願者を見込むことができる。
 But、社会人の進学については、進学を希望する者の意思とは別に、勤務時間等との関係や所属勤務先等の理解など様々なハードルが存在する。

このことから、ニーズ調査から得られた㉒・㉓・㉔と、これまでの実績に基づいた㉑を比較
 ㉒・㉓・㉔ > ㉑
 ⇒ **最小値である実績に基づいて算出した㉑の29人**を出願者数と想定

➡ **出願者数29人…㉑**

●入学者数の算定

内容		人数	
包括連携協定書 締結	先端技術に精通した企業	4人	…… ㉕
	アスリート所属のスポーツ関連企業	2人	…… ㉖
過去の入試実績	教育学研究科健康科学専攻（夜間）の社会人入学者数 ⇒ 平均人数（直近6年間）	20人	…… ㉗
	教育学研究科健康科学専攻（夜間）の社会人入学者数 ⇒ 最低入学者数（直近6年間）	14人	…… ㉘

㉕4人 + ㉖2人 + ㉗社会人入学者数の平均（直近6年間）20人 = 26人
 ⇒ 入学者数として見込む
 But、社会人の入学に関しては、勤務先等の状況から不確実な要素も多い。

そのため、**直近6年間の最低入学者数14人で算定**
 ⇒ ㉕4人 + ㉖2人 + ㉘14人 = **20人**を入学者として設定

➡ **入学者数20人…㉗**

入学定員設定に係る受験倍率の積算に関する根拠データ【大学院教育学研究科（健康科学専攻）社会人学生における入試状況（H27～R2）】

専攻	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		合計		6カ年平均	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数								
健康科学専攻	25	19	31	21	31	18	22	30	22	14	35	23	174	117	(A) 29	(B) 20

教育フアシリテーションコースは、社会人の出願者を見込むことから、入学定員目安の設定において用いている受験倍率は、本学修士課程（健康科学専攻）の社会人学生における入試状況（過去6カ年）をもとに算出する。

本学修士課程（健康科学専攻）全体の過去6カ年における社会人学生の平均志願者数は29人（A）、入学者数は20人（B）である。
したがって、過去6カ年の平均受験倍率は29人（A）÷20人（B）＝**1.45倍**

⇒ 教育フアシリテーションコースは、1.45倍の受験倍率水準を維持できれば、優秀な留学生在が一定確保できる。

大阪教育大学大学院
改組計画に関するアンケート
結果報告書

令和元年11月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

調査概要

1. 調査目的

令和3年4月開設予定の「大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕」(仮称)設置構想に関して、社会人からの関心や進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

大阪教育大学大学院改組計画に関するアンケート	
調査対象	社会人
調査エリア	京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
調査方法	WEBアンケート
有効回収数	517人
調査時期	2019年10月25日(金)～2019年10月29日(火)
調査実施機関	株式会社 進研アド

3. 調査項目

大阪教育大学大学院改組計画に関するアンケート
<ul style="list-style-type: none">・高度な資質能力を備えた人材の必要性・高度な資質能力を備えた人材を大阪教育大学大学院で養成する必要性・社会人の学び直しを目的とした大学院進学への興味・関心・大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」への興味・大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」への進学意向・大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」の各領域への進学意向

調査結果まとめ



調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、「大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕」(仮称)に対する需要を確認するための調査として設計し、大阪教育大学 大学院の主な学生募集エリアである大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県に在住の社会人に調査を実施し、517人から回答を得た。

【回答者の性別】

「男性」が38.3%、「女性」が61.7%である。

【回答者の年齢】

「30～39才」が29.1%と最も多く、次いで「40～49才」が24.2%、「20～29才」が21.3%、「50～59才」が19.4%、「60才以上」が6.2%である。

【回答者の居住地】

大阪教育大学の本部所在地である「大阪府」が49.9%と最も多く、次いで「兵庫県」が19.9%と多い。

【回答者の職業】

「会社員」が43.3%と最も多く、次いで「派遣社員、パート、アルバイト」が20.3%、「専業主婦(主夫)」が12.6%、「公務員」が11.2%と多い。

【回答者の最終学歴】

「4年制大学」が58.0%と最も多く、次いで「専門学校・専修学校」が21.5%、「短期大学」が12.2%と多い。

【回答者の現在の職業等や今後希望している職業等】

「看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職」が33.7%と最も多く、次いで「教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職」が16.8%、「教育関連の企業に勤務」が13.7%、「教育や文化振興に関連する団体の職員」が12.6%、「ICT関連の企業に勤務」及び「芸術家、演奏家、デザイナー」が11.6%と多い。

調査結果まとめ

高度な資質能力を備えた人材の必要性

- 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材について、「強く必要だと思う」または「必要だと思う」と回答した人は92.8% (480人)であり、非常に多くの人がこれからの社会にとって必要であると捉えていることがうかがえる。

高度な資質能力を備えた人材を大阪教育大学大学院で養成する必要性

- 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を大阪教育大学大学院で養成することについて、「ぜひ養成すべきだと思う」または「養成した方がよいと思う」と回答した人は89.9% (465人)であり、非常に多くの人が大阪教育大学大学院での養成に期待を寄せている様子が見えてくる。

社会人の学び直しを目的とした大学院進学への興味・関心

- 社会人の学び直しを目的とした大学院進学について、「非常に興味・関心がある」または「興味・関心がある」と回答した人は72.3% (374人)であり、多くの人が社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味・関心を持っていることがうかがえる。

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」への興味

- 大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」について、「非常に興味がある」または「興味がある」と回答した人は61.9% (320人)であり、多くの人が大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」に興味を持っていることがうかがえる。

調査結果まとめ

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」への進学意向

- 回答者全体における大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」への進学意向者の割合は、38.5% (517人中、199人)と、予定している入学定員30名を上回っている。

属性別

◇性別

- 進学意向者の割合は、「男性」は43.4% (198人中、86人)、「女性」は35.4% (319人中、113人)と、いずれも予定している入学定員数を上回っている。

◇年齢別

- 進学意向者の割合は、「20～29才」は33.6% (110人中、37人)、「30～39才」は42.7% (150人中、64人)、「40～49才」は39.2% (125人中、49人)、「50～59才」は39.0% (100人中、39人)と、予定している入学定員数を上回っている。

◇居住地別

- 大阪教育大学の本部所在地である「大阪府」の居住者における進学意向者の割合は41.9% (258人中、108人)、「兵庫県」は36.9% (103人中、38人)と、予定している入学定員数を上回っている。

◇職業別

- 進学意向者の割合は、「会社員」は38.8% (224人中、87人)、「派遣社員、パート、アルバイト」は34.3% (105人中、36人)と、予定している入学定員数を上回っている。

調査結果まとめ

◇最終学歴別

- 進学意向者の割合は、「4年制大学」は46.4% (291人中、135人)と、予定している入学定員数を上回っている。

◇現在の職業・今後希望している職業別

- 進学意向者の割合は、「教育関連の企業に勤務」は43.7% (71人中、31人)、「教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職」は43.7% (87人中、38人)、「教育や文化振興に関連する団体の職員」は47.7% (65人中、31人)、「看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職」は33.3% (174人中、58人)と、予定している入学定員数を上回っている。

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」の各領域への進学意向

- 大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻「教育ファシリテーションコース」に「進学したい」と回答した199人に、進学したい領域を聞いたところ、以下の通りであった。
 - 「教育イノベーション開発」と回答した人 40.2% (80人)、
 - 「地域教育・芸術支援人材高度化」と回答した人 45.7% (91人)
 - 「健康・安全教育高度化」と回答した人 41.7% (83人)

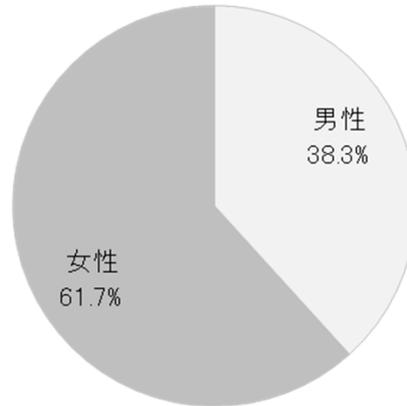
調査結果



回答者の属性(性別/年齢/居住地)

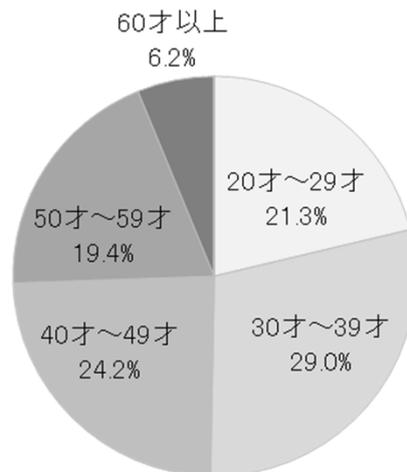
■性別

(n=517)



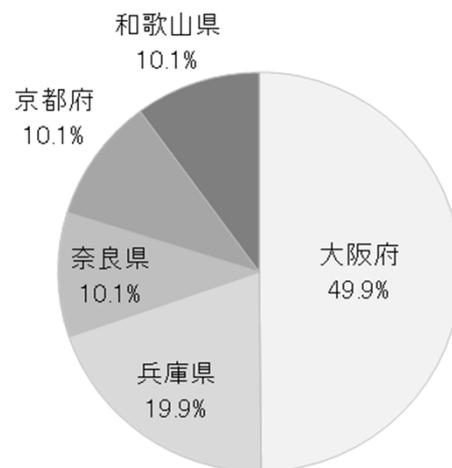
■年齢

(n=517)



■居住地

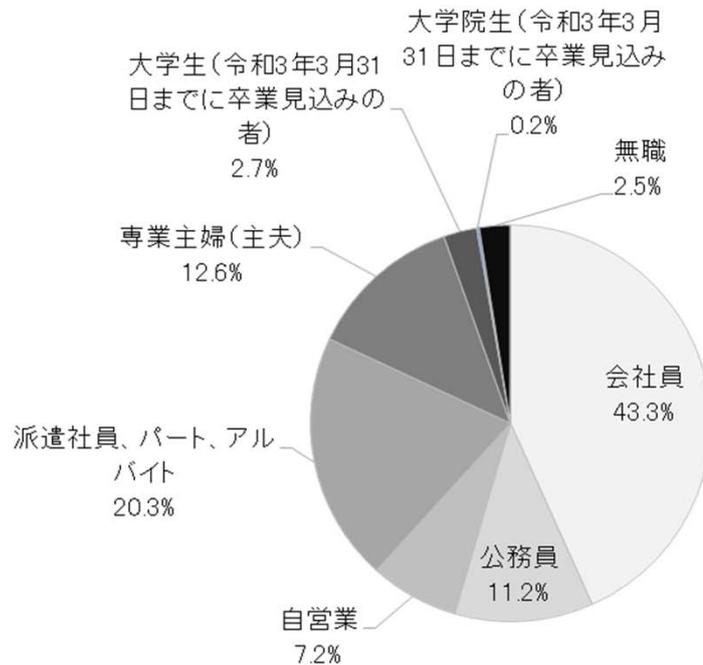
(n=517)



回答者の属性(職業/最終学歴)

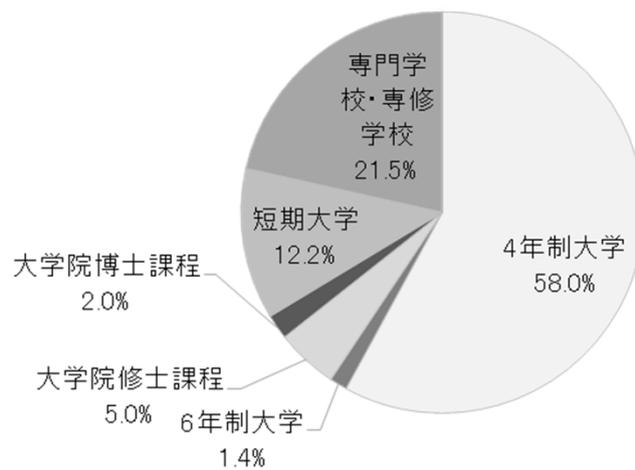
■職業

(n=517)



■最終学歴

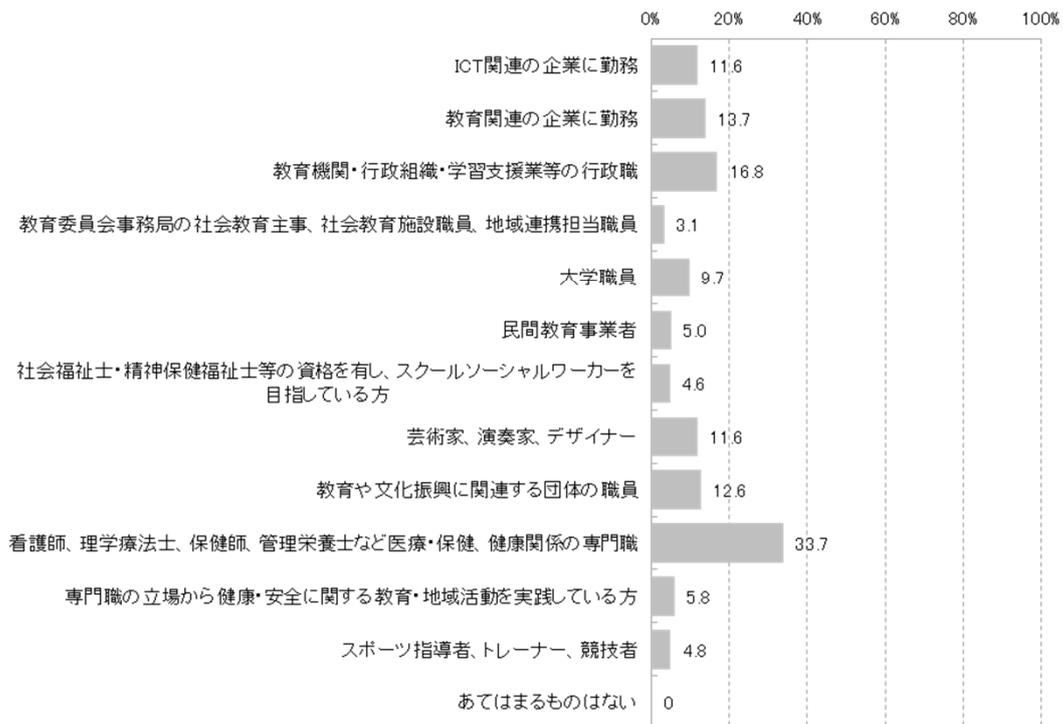
(n=502)



回答者の属性(現在の職業等・今後希望している職業等)

■現在の職業等・今後希望している職業等

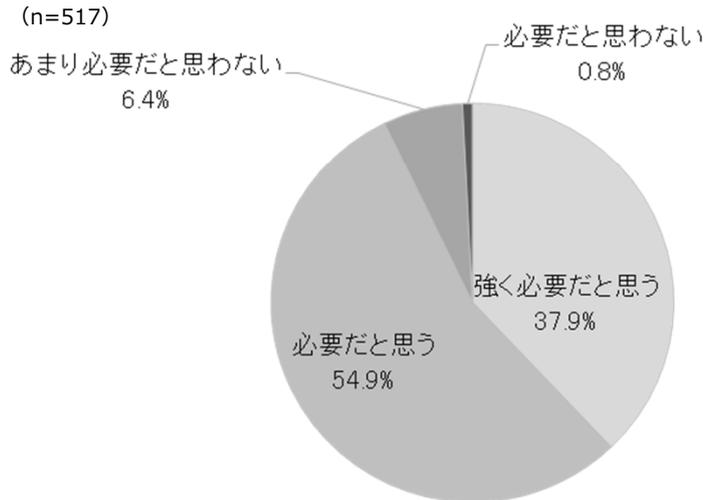
(n=517)



高度な資質能力を備えた人材の必要性

Q1.国の方針として、中央教育審議会答申等を踏まえ、「学校における働き方改革」
「チームとしての学校」を実現するための具体的な改善策として、スクールカウンセラーや
スクールソーシャルワーカーなど教員以外の専門スタッフの配置充実等が図られています。
このことに関連してお尋ねします。

専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。
(当てはまる番号1つを選択)



<属性別>

		全体	強く必要だと思 う	必要だと思 う	あまり必要だ と思わない	必要だと思 わない	TOP2BOX
全体		517 100.0	196 37.9	284 54.9	33 6.4	4 0.8	480 92.8
<性別>	男性	198 100.0	75 37.9	103 52.0	19 9.6	1 0.5	178 89.9
	女性	319 100.0	121 37.9	181 56.7	14 4.4	3 0.9	302 94.7
<年齢>	20才~24才	30 100.0	13 43.3	17 56.7	0 0.0	0 0.0	30 100.0
	25才~29才	80 100.0	33 41.3	43 53.8	4 5.0	0 0.0	76 95.0
	30才~34才	82 100.0	30 36.6	49 59.8	3 3.7	0 0.0	79 96.3
	35才~39才	68 100.0	30 44.1	36 52.9	1 1.5	1 1.5	66 97.1
	40才~44才	62 100.0	20 32.3	35 56.5	6 9.7	1 1.6	55 88.7
	45才~49才	63 100.0	23 36.5	31 49.2	8 12.7	1 1.6	54 85.7
	50才~54才	51 100.0	15 29.4	32 62.7	3 5.9	1 2.0	47 92.2
	55才~59才	49 100.0	19 38.8	25 51.0	5 10.2	0 0.0	44 89.8
	60才以上	32 100.0	13 40.6	16 50.0	3 9.4	0 0.0	29 90.6
	<都道府県>	京都府	52 100.0	20 38.5	31 59.6	1 1.9	0 0.0
大阪府		258 100.0	108 41.9	131 50.8	16 6.2	3 1.2	239 92.6
兵庫県		103 100.0	36 35.0	57 55.3	10 9.7	0 0.0	93 90.3
奈良県		52 100.0	16 30.8	33 63.5	3 5.8	0 0.0	49 94.2
和歌山県		52 100.0	16 30.8	32 61.5	3 5.8	1 1.9	48 92.3

全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下

高度な資質能力を備えた人材の必要性

Q1.国の方針として、中央教育審議会答申等を踏まえ、「学校における働き方改革」「チームとしての学校」を実現するための具体的な改善策として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど教員以外の専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。

専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。
(当てはまる番号1つを選択)

<属性別>

上段：件数 下段：%		全体	強く必要と思う	必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない	TOP2BOX	
全体		517 100.0	196 37.9	284 54.9	33 6.4	4 0.8	480 92.8	
SQ1.職業	会社員	224 100.0	85 37.9	120 53.6	16 7.1	3 1.3	205 91.5	
	公務員	58 100.0	33 56.9	21 36.2	4 6.9	0 0.0	54 93.1	
	自営業	37 100.0	11 29.7	23 62.2	3 8.1	0 0.0	34 91.9	
	派遣社員、パート、アルバイト	105 100.0	33 31.4	67 63.8	5 4.8	0 0.0	100 95.2	
	専業主婦（主夫）	65 100.0	23 35.4	38 58.5	3 4.6	1 1.5	61 93.8	
	大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	14 100.0	3 21.4	11 78.6	0 0.0	0 0.0	14 100.0	
	大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	
	無職	13 100.0	7 53.8	4 30.8	2 15.4	0 0.0	11 84.6	
	SQ2.最後に卒業した学校	4年制大学	291 100.0	117 40.2	156 53.6	16 5.5	2 0.7	273 93.8
		6年制大学	7 100.0	1 14.3	6 85.7	0 0.0	0 0.0	7 100.0
大学院修士課程		25 100.0	10 40.0	13 52.0	2 8.0	0 0.0	23 92.0	
大学院博士課程		10 100.0	1 10.0	4 40.0	4 40.0	1 10.0	5 50.0	
短期大学		61 100.0	25 41.0	32 52.5	4 6.6	0 0.0	57 93.4	
専門学校・専修学校		108 100.0	38 35.2	62 57.4	7 6.5	1 0.9	100 92.6	
SQ3.現在の職業や今後希望している職業		ICT関連の企業に勤務	60 100.0	23 38.3	30 50.0	6 10.0	1 1.7	53 88.3
	教育関連の企業に勤務	71 100.0	30 42.3	38 53.5	3 4.2	0 0.0	68 95.8	
	教育機関・行政組織・学習支援等の行政職	87 100.0	41 47.1	42 48.3	4 4.6	0 0.0	83 95.4	
	教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	16 100.0	9 56.3	6 37.5	1 6.3	0 0.0	15 93.8	
	大学職員	50 100.0	19 38.0	28 56.0	3 6.0	0 0.0	47 94.0	
	民間教育事業者	26 100.0	12 46.2	14 53.8	0 0.0	0 0.0	26 100.0	
	社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	24 100.0	14 58.3	10 41.7	0 0.0	0 0.0	24 100.0	
	芸術家、演奏家、デザイナー	60 100.0	21 35.0	29 48.3	9 15.0	1 1.7	50 83.3	
	教育や文化振興に関連する団体の職員	65 100.0	27 41.5	34 52.3	4 6.2	0 0.0	61 93.8	
	看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職	174 100.0	71 40.8	94 54.0	7 4.0	2 1.1	165 94.8	
	専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	30 100.0	11 36.7	18 60.0	0 0.0	1 3.3	29 96.7	
	スポーツ指導者、トレーナー、競技者	25 100.0	7 28.0	16 64.0	1 4.0	1 4.0	23 92.0	

全体+10ポイント以上

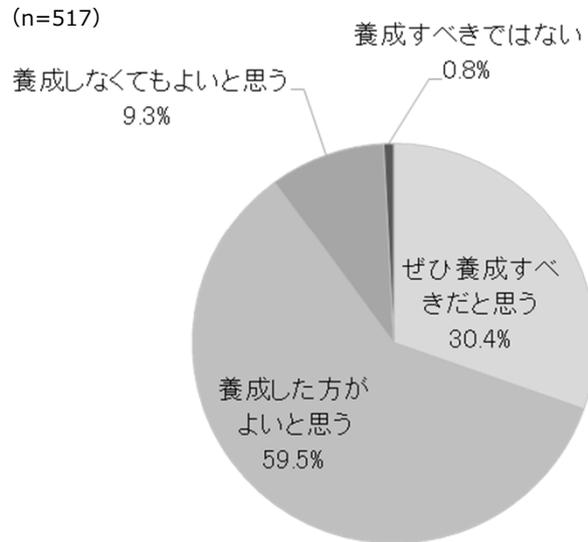
全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

高度な資質能力を備えた人材を大阪教育大学大学院で養成する必要性

Q2. 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、
 教員養成大学である大阪教育大学の大学院で養成すべきだと思いますか。
 (当てはまる番号1つを選択)



<属性別>

		全体	上段：件数	下段：%	全体	ぜひ養成すべきだと思う	養成した方がよいと思う	養成しなくてもよいと思う	養成すべきではない	TOP2BOX
全体		517	157	30.4	308	48	4	465		
<性別>										
	男性	198	66	33.3	111	18	3	177		
	女性	319	91	28.5	197	30	1	288		
<年齢>										
	20才～24才	30	13	43.3	14	3	0	27		
	25才～29才	80	26	32.5	47	7	0	73		
	30才～34才	82	24	29.3	51	7	0	75		
	35才～39才	68	18	26.5	45	4	1	63		
	40才～44才	62	16	25.8	40	6	0	56		
	45才～49才	63	18	28.6	35	9	1	53		
	50才～54才	51	14	27.5	30	7	0	44		
	55才～59才	49	18	36.7	27	3	1	45		
	60才以上	32	10	31.3	19	2	1	29		
<都道府県>										
	京都府	52	18	34.6	29	5	0	47		
	大阪府	258	89	34.5	144	23	2	233		
	兵庫県	103	27	26.2	66	9	1	93		
	奈良県	52	12	23.1	35	5	0	47		
	和歌山県	52	11	21.2	34	6	1	45		

全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下

高度な資質能力を備えた人材を大阪教育大学大学院で養成する必要性

Q2. 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、
 教員養成大学である大阪教育大学の大学院で養成すべきだと思いますか。
 (当てはまる番号1つを選択)

<属性別>

		全体	ぜひ養成す べきだと思う	養成した方 がよいと思う	養成しなくて もよいと思う	養成すべきで はない	TOP2BOX	
上段：件数 下段：%								
全体		517 100.0	157 30.4	308 59.6	48 9.3	4 0.8	465 89.9	
SQ1.職業	会社員	224 100.0	70 31.3	129 57.6	23 10.3	2 0.9	199 88.8	
	公務員	58 100.0	24 41.4	27 46.6	6 10.3	1 1.7	51 87.9	
	自営業	37 100.0	10 27.0	26 70.3	1 2.7	0 0.0	36 97.3	
	派遣社員、パート、アルバイト	105 100.0	25 23.8	70 66.7	10 9.5	0 0.0	95 90.5	
	専業主婦（主夫）	65 100.0	18 27.7	41 63.1	6 9.2	0 0.0	59 90.8	
	大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	14 100.0	4 28.6	9 64.3	1 7.1	0 0.0	13 92.9	
	大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	
	無職	13 100.0	5 38.5	6 46.2	1 7.7	1 7.7	11 84.6	
	SQ2.最後に卒業した学校	4年制大学	291 100.0	93 32.0	172 59.1	24 8.2	2 0.7	265 91.1
		6年制大学	7 100.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3	0 0.0	6 85.7
大学院修士課程		25 100.0	8 32.0	14 56.0	2 8.0	1 4.0	22 88.0	
大学院博士課程		10 100.0	1 10.0	6 60.0	3 30.0	0 0.0	7 70.0	
短期大学		61 100.0	12 19.7	41 67.2	8 13.1	0 0.0	53 86.9	
専門学校・専修学校		108 100.0	35 32.4	63 58.3	9 8.3	1 0.9	98 90.7	
SQ3.現在の職業や今後希望している職業		ICT関連の企業に勤務	60 100.0	19 31.7	37 61.7	3 5.0	1 1.7	56 93.3
	教育関連の企業に勤務	71 100.0	20 28.2	42 59.2	7 9.9	2 2.8	62 87.3	
	教育機関・行政組織・学習支援等の行政職	87 100.0	38 43.7	42 48.3	6 6.9	1 1.1	80 92.0	
	教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	16 100.0	9 56.3	4 25.0	3 18.8	0 0.0	13 81.3	
	大学職員	50 100.0	18 36.0	26 52.0	5 10.0	1 2.0	44 88.0	
	民間教育事業者	26 100.0	10 38.5	14 53.8	2 7.7	0 0.0	24 92.3	
	社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	24 100.0	10 41.7	13 54.2	1 4.2	0 0.0	23 95.8	
	芸術家、演奏家、デザイナー	60 100.0	16 26.7	37 61.7	7 11.7	0 0.0	53 88.3	
	教育や文化振興に関連する団体の職員	65 100.0	15 23.1	41 63.1	8 12.3	1 1.5	56 86.2	
	看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職	174 100.0	59 33.9	101 58.0	13 7.5	1 0.6	160 92.0	
	専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	30 100.0	8 26.7	20 66.7	2 6.7	0 0.0	28 93.3	
	スポーツ指導者、トレーナー、競技者	25 100.0	6 24.0	17 68.0	2 8.0	0 0.0	23 92.0	

全体+10ポイント以上

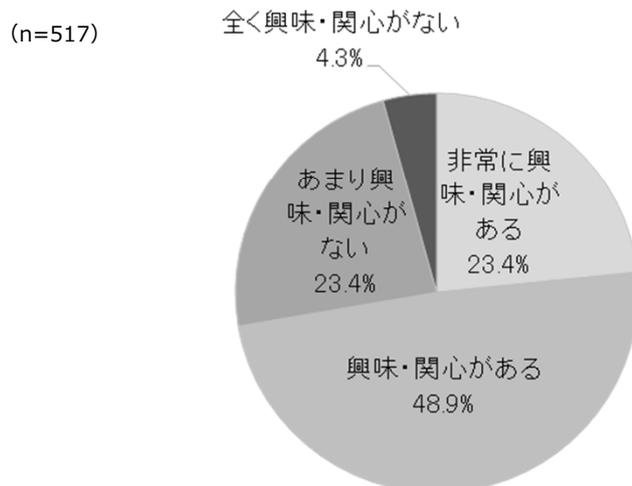
全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

社会人の学び直しを目的とした大学院進学への興味・関心

Q3.近年働き方が多様化する日本においてもリカレント教育が注目を集めています、社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか。
(当てはまる番号1つを選択)



<属性別>

		全体	非常に興味・関心がある	興味・関心がある	あまり興味・関心がない	全く興味・関心がない	TOP2BOX
		上段：件数	下段：%				
全体		517	121	253	121	22	374
		100.0	23.4	48.9	23.4	4.3	72.3
<性別>	男性	198	51	88	51	8	139
		100.0	25.8	44.4	25.8	4.0	70.2
	女性	319	70	165	70	14	235
		100.0	21.9	51.7	21.9	4.4	73.7
<年齢>	20才~24才	30	12	13	4	1	25
		100.0	40.0	43.3	13.3	3.3	83.3
	25才~29才	80	21	36	21	2	57
		100.0	26.3	45.0	26.3	2.5	71.3
	30才~34才	82	17	43	18	4	60
		100.0	20.7	52.4	22.0	4.9	73.2
	35才~39才	68	17	37	13	1	54
		100.0	25.0	54.4	19.1	1.5	79.4
	40才~44才	62	10	29	18	5	39
		100.0	16.1	46.8	29.0	8.1	62.9
45才~49才	63	15	28	16	4	43	
	100.0	23.8	44.4	25.4	6.3	68.3	
50才~54才	51	8	26	14	3	34	
	100.0	15.7	51.0	27.5	5.9	66.7	
55才~59才	49	14	23	11	1	37	
	100.0	28.6	46.9	22.4	2.0	75.5	
60才以上	32	7	18	6	1	25	
	100.0	21.9	56.3	18.8	3.1	78.1	
<都道府県>	京都府	52	19	21	10	2	40
		100.0	36.5	40.4	19.2	3.8	76.9
	大阪府	258	65	125	58	10	190
		100.0	25.2	48.4	22.5	3.9	73.6
	兵庫県	103	21	54	22	6	75
		100.0	20.4	52.4	21.4	5.8	72.8
奈良県	52	6	27	18	1	33	
	100.0	11.5	51.9	34.6	1.9	63.5	
和歌山県	52	10	26	13	3	36	
	100.0	19.2	50.0	25.0	5.8	69.2	

全体+10ポイント以上

全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

社会人の学び直しを目的とした大学院進学への興味・関心

Q3.近年働き方が多様化する日本においてモリカレント教育が注目を集めています、社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありまか。
(当てはまる番号1つを選択)

<属性別>

		全体	非常に興味・関心がある	興味・関心がある	あまり興味・関心がない	全く興味・関心がない	TOP2BOX	
上段：件数 下段：%								
全体		517 100.0	121 23.4	253 48.9	121 23.4	22 4.3	374 72.3	
SQ1.職業	会社員	224 100.0	47 21.0	111 49.6	55 24.6	11 4.9	158 70.5	
	公務員	58 100.0	18 31.0	26 44.8	14 24.1	0 0.0	44 75.9	
	自営業	37 100.0	7 18.9	20 54.1	6 16.2	4 10.8	27 73.0	
	派遣社員、パート、アルバイト	105 100.0	27 25.7	47 44.8	27 25.7	4 3.8	74 70.5	
	専業主婦（主夫）	65 100.0	14 21.5	34 52.3	15 23.1	2 3.1	48 73.8	
	大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	14 100.0	3 21.4	8 57.1	2 14.3	1 7.1	11 78.6	
	大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	
	無職	13 100.0	4 30.8	7 53.8	2 15.4	0 0.0	11 84.6	
	SQ2.最後に卒業した学校	4年制大学	291 100.0	80 27.5	137 47.1	66 22.7	8 2.7	217 74.6
		6年制大学	7 100.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6	0 0.0	5 71.4
大学院修士課程		25 100.0	8 32.0	12 48.0	5 20.0	0 0.0	20 80.0	
大学院博士課程		10 100.0	1 10.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	7 70.0	
短期大学		61 100.0	8 13.1	37 60.7	14 23.0	2 3.3	45 73.8	
専門学校・専修学校		108 100.0	19 17.6	49 45.4	30 27.8	10 9.3	68 63.0	
SQ3.現在の職業や今後希望している職業		ICT関連の企業に勤務	60 100.0	16 26.7	29 48.3	11 18.3	4 6.7	45 75.0
	教育関連の企業に勤務	71 100.0	21 29.6	34 47.9	11 15.5	5 7.0	55 77.5	
	教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職	87 100.0	27 31.0	43 49.4	17 19.5	0 0.0	70 80.5	
	教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	16 100.0	4 25.0	8 50.0	3 18.8	1 6.3	12 75.0	
	大学職員	50 100.0	17 34.0	19 38.0	14 28.0	0 0.0	36 72.0	
	民間教育事業者	26 100.0	9 34.6	13 50.0	4 15.4	0 0.0	22 84.6	
	社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	24 100.0	9 37.5	12 50.0	3 12.5	0 0.0	21 87.5	
	芸術家、演奏家、デザイナー	60 100.0	13 21.7	32 53.3	12 20.0	3 5.0	45 75.0	
	教育や文化振興に関する団体の職員	65 100.0	18 27.7	31 47.7	15 23.1	1 1.5	49 75.4	
	看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職	174 100.0	40 23.0	79 45.4	45 25.9	10 5.7	119 68.4	
	専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	30 100.0	8 26.7	18 60.0	4 13.3	0 0.0	26 86.7	
	スポーツ指導者、トレーナー、競技者	25 100.0	4 16.0	14 56.0	7 28.0	0 0.0	18 72.0	

全体+10ポイント以上

全体+5ポイント以上

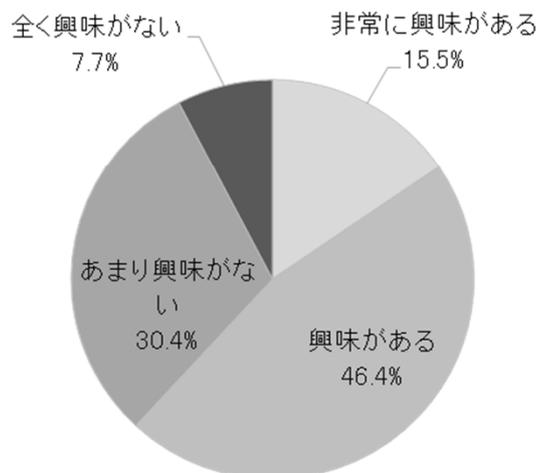
全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」への興味

Q4. あなたは、設置構想中の大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に興味はありますか。（当てはまる番号1つを選択）

(n=517)



<属性別>

		全体	非常に興味がある	興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	TOP2BOX
上段：件数 下段：%							
全体		517	80	240	157	40	320
		100.0	15.5	46.4	30.4	7.7	61.9
<性別>	男性	198	34	99	52	13	133
		100.0	17.2	50.0	26.3	6.6	67.2
女性		319	46	141	105	27	187
		100.0	14.4	44.2	32.9	8.5	58.6
<年齢>	20才～24才	30	9	7	12	2	16
		100.0	30.0	23.3	40.0	6.7	53.3
	25才～29才	80	15	32	31	2	47
		100.0	18.8	40.0	38.8	2.5	58.8
	30才～34才	82	15	38	19	10	53
		100.0	18.3	46.3	23.2	12.2	64.6
	35才～39才	68	9	37	16	6	46
		100.0	13.2	54.4	23.5	8.8	67.6
	40才～44才	62	7	26	22	7	33
		100.0	11.3	41.9	35.5	11.3	53.2
45才～49才	63	9	28	21	5	37	
	100.0	14.3	44.4	33.3	7.9	58.7	
50才～54才	51	7	23	17	4	30	
	100.0	13.7	45.1	33.3	7.8	58.8	
55才～59才	49	6	28	12	3	34	
	100.0	12.2	57.1	24.5	6.1	69.4	
60才以上	32	3	21	7	1	24	
	100.0	9.4	65.6	21.9	3.1	75.0	
<都道府県>	京都府	52	10	27	12	3	37
		100.0	19.2	51.9	23.1	5.8	71.2
	大阪府	258	43	116	77	22	159
		100.0	16.7	45.0	29.8	8.5	61.6
	兵庫県	103	13	52	30	8	65
		100.0	12.6	50.5	29.1	7.8	63.1
奈良県	52	6	21	22	3	27	
	100.0	11.5	40.4	42.3	5.8	51.9	
和歌山県	52	8	24	16	4	32	
	100.0	15.4	46.2	30.8	7.7	61.5	

全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」への興味

Q4. あなたは、設置構想中の大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に興味はありますか。（当てはまる番号1つを選択）

<属性別>

上段：件数 下段：%		全体	非常に興味がある	興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	TOP2BOX
全体		517 100.0	80 15.5	240 46.4	157 30.4	40 7.7	320 61.9
SQ1.職業	会社員	224 100.0	38 17.0	108 48.2	60 26.8	18 8.0	146 65.2
	公務員	58 100.0	12 20.7	24 41.4	21 36.2	1 1.7	36 62.1
	自営業	37 100.0	5 13.5	16 43.2	12 32.4	4 10.8	21 56.8
	派遣社員、パート、アルバイト	105 100.0	13 12.4	52 49.5	31 29.5	9 8.6	65 61.9
	専業主婦（主夫）	65 100.0	7 10.8	30 46.2	21 32.3	7 10.8	37 56.9
	大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	14 100.0	2 14.3	5 35.7	7 50.0	0 0.0	7 50.0
	大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	無職	13 100.0	2 15.4	5 38.5	5 38.5	1 7.7	7 53.8
	SQ2.最後に卒業した学校	4年制大学	291 100.0	55 18.9	143 49.1	79 27.1	14 4.8
6年制大学		7 100.0	1 14.3	3 42.9	2 28.6	1 14.3	4 57.1
大学院修士課程		25 100.0	4 16.0	13 52.0	7 28.0	1 4.0	17 68.0
大学院博士課程		10 100.0	1 10.0	5 50.0	2 20.0	2 20.0	6 60.0
短期大学		61 100.0	7 11.5	27 44.3	23 37.7	4 6.6	34 55.7
専門学校・専修学校		108 100.0	9 8.3	44 40.7	37 34.3	18 16.7	53 49.1
SQ3.現在の職業や今後希望している職業		ICT関連の企業に勤務	60 100.0	10 16.7	33 55.0	12 20.0	5 8.3
	教育関連の企業に勤務	71 100.0	12 16.9	37 52.1	17 23.9	5 7.0	49 69.0
	教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職	87 100.0	16 18.4	44 50.6	26 29.9	1 1.1	60 69.0
	教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	16 100.0	6 37.5	7 43.8	2 12.5	1 6.3	13 81.3
	大学職員	50 100.0	11 22.0	24 48.0	15 30.0	0 0.0	35 70.0
	民間教育事業者	26 100.0	5 19.2	15 57.7	6 23.1	0 0.0	20 76.9
	社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	24 100.0	5 20.8	16 66.7	3 12.5	0 0.0	21 87.5
	芸術家、演奏家、デザイナー	60 100.0	9 15.0	28 46.7	16 26.7	7 11.7	37 61.7
	教育や文化振興に関連する団体の職員	65 100.0	12 18.5	34 52.3	16 24.6	3 4.6	46 70.8
	看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健・健康関係の専門職	174 100.0	30 17.2	71 40.8	53 30.5	20 11.5	101 58.0
	専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	30 100.0	4 13.3	18 60.0	8 26.7	0 0.0	22 73.3
	スポーツ指導者、トレーナー、競技者	25 100.0	2 8.0	13 52.0	10 40.0	0 0.0	15 60.0

全体+10ポイント以上

全体+5ポイント以上

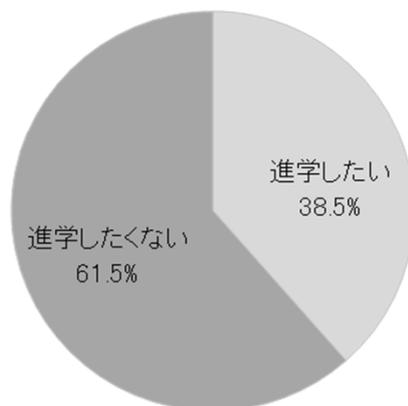
全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」への進学意向

Q5.あなたは、大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に進学したいと意思ですか。
あなたの気持ちに近い番号1つを選択してください。（当てはまる番号1つを選択）

(n=517)



<属性別>

		全体	進学したい	進学したくない
上段：件数 下段：%				
全体		517 100.0	199 38.5	318 61.5
<性別>	男性	198 100.0	86 43.4	112 56.6
	女性	319 100.0	113 35.4	206 64.6
<年齢>	20才～24才	30 100.0	14 46.7	16 53.3
	25才～29才	80 100.0	23 28.8	57 71.3
	30才～34才	82 100.0	30 36.6	52 63.4
	35才～39才	68 100.0	34 50.0	34 50.0
	40才～44才	62 100.0	27 43.5	35 56.5
	45才～49才	63 100.0	22 34.9	41 65.1
	50才～54才	51 100.0	15 29.4	36 70.6
	55才～59才	49 100.0	24 49.0	25 51.0
	60才以上	32 100.0	10 31.3	22 68.8
	<都道府県>	京都府	52 100.0	21 40.4
大阪府		258 100.0	108 41.9	150 58.1
兵庫県		103 100.0	38 36.9	65 63.1
奈良県		52 100.0	15 28.8	37 71.2
和歌山県		52 100.0	17 32.7	35 67.3

全体+10ポイント以上

全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」への進学意向

Q5.あなたは、大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い番号1つを選択してください。（当てはまる番号1つを選択）

<属性別>

		全体	進学したい	進学したくない
上段：件数 下段：%				
全体		517	199	318
		100.0	38.5	61.5
SQ1.職業	会社員	224	87	137
		100.0	38.8	61.2
	公務員	58	23	35
		100.0	39.7	60.3
	自営業	37	20	17
		100.0	54.1	45.9
	派遣社員、パート、アルバイト	105	36	69
		100.0	34.3	65.7
	専業主婦（主夫）	65	22	43
	100.0	33.8	66.2	
大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	14	5	9	
	100.0	35.7	64.3	
大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	1	1	0	
	100.0	100.0	0.0	
無職	13	5	8	
	100.0	38.5	61.5	
SQ2.最後に卒業した学校	4年制大学	291	135	156
		100.0	46.4	53.6
	6年制大学	7	2	5
		100.0	28.6	71.4
	大学院修士課程	25	6	19
		100.0	24.0	76.0
	大学院博士課程	10	3	7
	100.0	30.0	70.0	
短期大学	61	20	41	
	100.0	32.8	67.2	
専門学校・専修学校	108	27	81	
	100.0	25.0	75.0	
SQ3.現在の職業や今後希望している職業	ICT関連の企業に勤務	60	28	32
		100.0	46.7	53.3
	教育関連の企業に勤務	71	31	40
		100.0	43.7	56.3
	教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職	87	38	49
		100.0	43.7	56.3
	教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	16	8	8
		100.0	50.0	50.0
	大学職員	50	23	27
		100.0	46.0	54.0
	民間教育事業者	26	18	8
		100.0	69.2	30.8
	社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	24	16	8
		100.0	66.7	33.3
	芸術家、演奏家、デザイナー	60	27	33
	100.0	45.0	55.0	
教育や文化振興に関連する団体の職員	65	31	34	
	100.0	47.7	52.3	
看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職	174	58	116	
	100.0	33.3	66.7	
専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	30	12	18	
	100.0	40.0	60.0	
スポーツ指導者、トレーナー、競技者	25	10	15	
	100.0	40.0	60.0	

全体+10ポイント以上

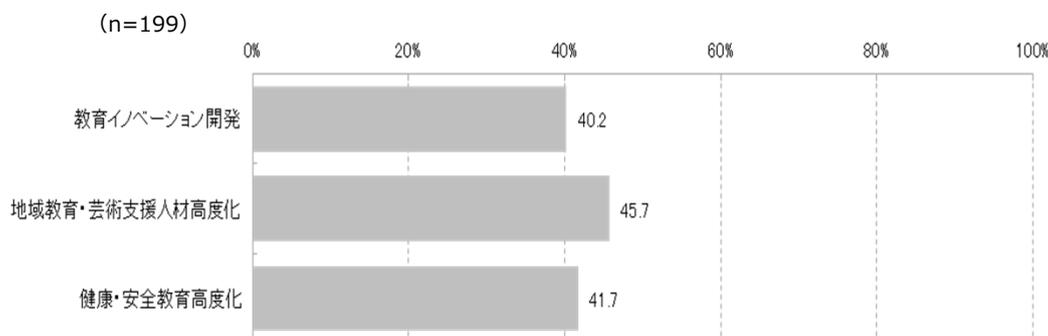
全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」の各領域への進学意向

Q6.あなたが大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に進学するとしたら、どの領域を対象に学びたいですか。
（当てはまる番号全てを選択：複数回答可） ※Q5で「進学したい」と回答した人に質問



<属性別>

		全体	教育イノベーション開発	地域教育・芸術支援人材高度化	健康・安全教育高度化
上段：件数 下段：%					
全体		199 100.0	80 40.2	91 45.7	83 41.7
<性別>	男性	86 100.0	41 47.7	39 45.3	31 36.0
	女性	113 100.0	39 34.5	52 46.0	52 46.0
<年齢>	20才～24才	14 100.0	6 42.9	7 50.0	4 28.6
	25才～29才	23 100.0	8 34.8	9 39.1	7 30.4
	30才～34才	30 100.0	16 53.3	11 36.7	17 56.7
	35才～39才	34 100.0	10 29.4	18 52.9	17 50.0
	40才～44才	27 100.0	11 40.7	16 59.3	10 37.0
	45才～49才	22 100.0	12 54.5	7 31.8	9 40.9
	50才～54才	15 100.0	7 46.7	6 40.0	5 33.3
	55才～59才	24 100.0	8 33.3	13 54.2	9 37.5
	60才以上	10 100.0	2 20.0	4 40.0	5 50.0
	<都道府県>	京都府	21 100.0	7 33.3	13 61.9
大阪府		108 100.0	46 42.6	46 42.6	47 43.5
兵庫県		38 100.0	14 36.8	19 50.0	13 34.2
奈良県		15 100.0	5 33.3	5 33.3	6 40.0
和歌山県		17 100.0	8 47.1	8 47.1	8 47.1

全体+10ポイント以上

全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 「教育ファシリテーションコース」の各領域への進学意向

Q6.あなたが大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に進学するとしたら、どの領域を対象に学びたいですか。
（当てはまる番号全てを選択；複数回答可）

<属性別>

		全体	教育イノベーション開発	地域教育・芸術支援人材高度化	健康・安全 教育高度化
上段：件数 下段：%					
全体		199 100.0	80 40.2	91 45.7	83 41.7
SQ1.職業	会社員	87 100.0	39 44.8	35 40.2	39 44.8
	公務員	23 100.0	12 52.2	13 56.5	7 30.4
	自営業	20 100.0	6 30.0	11 55.0	6 30.0
	派遣社員、パート、アルバイト	36 100.0	10 27.8	14 38.9	19 52.8
	専業主婦（主夫）	22 100.0	8 36.4	12 54.5	8 36.4
	大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	5 100.0	2 40.0	1 20.0	4 80.0
	大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	無職	5 100.0	3 60.0	4 80.0	0 0.0
SQ2.最後に卒業した学校	4年制大学	135 100.0	51 37.8	68 50.4	49 36.3
	6年制大学	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
	大学院修士課程	6 100.0	5 83.3	2 33.3	2 33.3
	大学院博士課程	3 100.0	3 100.0	0 0.0	1 33.3
	短期大学	20 100.0	11 55.0	8 40.0	9 45.0
	専門学校・専修学校	27 100.0	8 29.6	10 37.0	17 63.0
	SQ3.現在の職業や今後希望している職業	ICT関連の企業に勤務	28 100.0	19 67.9	13 46.4
教育関連の企業に勤務	31 100.0	18 58.1	15 48.4	10 32.3	
教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職	38 100.0	16 42.1	21 55.3	14 36.8	
教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	8 100.0	4 50.0	2 25.0	5 62.5	
大学職員	23 100.0	13 56.5	13 56.5	9 39.1	
民間教育事業者	18 100.0	9 50.0	11 61.1	8 44.4	
社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	16 100.0	5 31.3	6 37.5	11 68.8	
芸術家、演奏家、デザイナー	27 100.0	3 11.1	23 85.2	3 11.1	
教育や文化振興に関連する団体の職員	31 100.0	13 41.9	21 67.7	7 22.6	
看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職	58 100.0	18 31.0	11 19.0	45 77.6	
専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	12 100.0	5 41.7	4 33.3	10 83.3	
スポーツ指導者、トレーナー、競技者	10 100.0	4 40.0	4 40.0	7 70.0	

全体+10ポイント以上

全体+5ポイント以上

全体-5ポイント以下

全体-10ポイント以下

卷末資料 調査票



調査票

SQ1.あなたの職業を教えてください。（当てはまる番号1つを選択）

- 1.会社員
- 2.公務員
- 3.自営業
- 4.派遣社員、パート、アルバイト
- 5.専業主婦（主夫）
- 6.大学生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）
- 7.大学院生（令和3年3月31日までに卒業見込みの者）
- 8.無職
- 9.その他 ⇒「9」は終了

※SQ1で「1」～「5」または「8」と回答した人に質問

SQ2.あなたが最後に卒業した学校について、教えてください。
（当てはまる番号1つを選択）

- 1.4年制大学
- 2.6年制大学
- 3.大学院修士課程
- 4.大学院博士課程
- 5.短期大学
- 6.専門学校・専修学校
- 7.その他 ⇒「7」は終了

SQ3.以下の中にあなたの現在の職業等や今後希望している職業等がありますか。
（当てはまる番号全てを選択：複数回答可）

- 1.ICT関連の企業に勤務
- 2.教育関連の企業に勤務
- 3.教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職
- 4.教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員
- 5.大学職員
- 6.民間教育事業者
- 7.社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方
- 8.芸術家、演奏家、デザイナー
- 9.教育や文化振興に関連する団体の職員
- 10.看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職
- 11.専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方
- 12.スポーツ指導者、トレーナー、競技者
- 13.あてはまるものはない ⇒「13」は終了

調査票

SQ4.ここからは、大阪教育大学大学院の改組計画について伺います。
あなたは、今回のアンケート以外で、大阪教育大学大学院の改組計画に関するアンケートに回答したことはありますか？
(当てはまる番号1つを選択)

- 1.ある ⇒「1」は終了
- 2.ない

Q1.国の方針として、中央教育審議会答申等を踏まえ、「学校における働き方改革」「チームとしての学校」を実現するための具体的な改善策として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど教員以外の専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。

専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。(当てはまる番号1つを選択)

- 1.強く必要だと思う
- 2.必要だと思う
- 3.あまり必要だと思わない
- 4.必要だと思わない

Q2.専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、教員養成大学である大阪教育大学の大学院で養成すべきだと思いますか。(当てはまる番号1つを選択)

- 1.ぜひ養成すべきだと思う
- 2.養成した方がよいと思う
- 3.養成しなくてもよいと思う
- 4.養成すべきではない

Q3.近年働き方が多様化する日本においてもリカレント教育が注目を集めていますが、社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか。(当てはまる番号1つを選択)

- 1.非常に興味・関心がある
- 2.興味・関心がある
- 3.あまり興味・関心がない
- 4.全く興味・関心がない

調査票

大阪教育大学では2021（令和3）年4月に、大学院において教員養成以外の修士課程の改編を計画しています。現在、修士課程にある専攻を全て廃止し、新しい大学院として、教員以外の立場から教育現場を支える高度な専門職人材の養成を行う専攻・コースを設置することを構想しています。

これらのうち、社会人を対象とする「教育ファシリテーションコース」【夜間】〔修士課程〕（仮称）への関心や進学の意味等について、次の概要（説明資料）を読んでからご回答ください。

Q4.あなたは、設置構想中の大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に興味はありますか。（当てはまる番号1つを選択）

- 1.非常に興味がある
- 2.興味がある
- 3.あまり興味がない
- 4.全く興味がない

Q5.あなたは、大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に進学したいと思いませんか。あなたの気持ちに近い番号1つを選択してください。（当てはまる番号1つを選択）

- 1.進学したい
- 2.進学したくない

※以下はQ5で「1」と回答した人に質問

Q6.あなたが大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）に進学するとしたら、どの領域を対象に学びたいですか。（当てはまる番号全てを選択：複数回答可）

- 1.教育イノベーション開発
- 2.地域教育・芸術支援人材高度化
- 3.健康・安全教育高度化

Q7. 大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】〔修士課程〕（仮称）について、ご意見等があればご記入ください。

概要(説明資料)

大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学では、令和3年度に教員養成以外の修士課程の改編を計画しています。
 現在、修士課程にある専攻を全て廃止し、新しい大学院として、教員以外の立場から教育現場を支える高度な専門職人材の養成を行う専攻・コースを設置することとしています。
 これらのうち、社会人を対象とする「教育ファシリテーションコース」への関心や進学の意思等について、アンケートへの回答にご協力お願いいたします。
 当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用いたしません。
 なお「教育ファシリテーションコース」の概要は以下のとおりです。改組後の専攻・コース名称は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性があるとを申し添えます。

<修士課程> ■教育ファシリテーションコース（夜間）

領域	受入れる人材	内容
教育イノベーション開発	AIやIoTなどの先端技術分野の社会人	教育ビッグデータの活用による分析実践や、教育コンテンツの開発、効果的な学びの支援など学校現場を最適化するための探求を通じて、各種教育課題をエビデンスベースにより解決に導くことのできる人材の養成
地域教育・芸術支援人材高度化	社会教育や芸術活動に携わる社会人	地域学校協働や地域創生への貢献、または芸術表現の技術や感性を教育分野に活かすための教育研究を展開し、学校と地域との連携・協働において中核的な役割を担える人材の養成
健康・安全教育高度化	医療や保健分野、スポーツなど健康・安全教育に携わる社会人	実務経験から発生した課題の考察や経験の理論的分析と実践の往還を通じて、学校教員を含む子ども、家庭と地域の健康・安全の向上や課題解決に貢献できる人材の養成

近畿地区 国立大学唯一の夜間大学院

本学では、平成5年の健康科学専攻設置当初から、主に有職者を対象として健康や教育に関わる教育研究を推進し、高度な専門的能力をもつ指導的人材の育成や学位取得を通じた実務家の教育職へのキャリア転換といった点で多大な成果をあげてきました。このたび、変動する社会に対応する生涯学習の重要性を鑑み、地域教育を支える人材の高度化を旨とした大学院の設置を計画しております。これまで通り天王寺キャンパス夜間での教育研究を展開し、働きながら履修しやすい環境を維持します。

取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学科・授業料を併せて総額 約140万円
(標準修業年限2年及び長期履修3年分の総額)

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

<働きながら勤務できる履修形態>

- ◆働きながら通学できるよう、平日の18時以降や土曜日に、交通至便な天王寺キャンパスで講義を開講します。



天王寺キャンパス：

- JR「寺田町駅」から徒歩約5分
- JR「天王寺駅」・地下鉄「天王寺駅」・近鉄「大阪阿部野橋駅」から徒歩10分

出願資格

大学を卒業した方に限らず、専門学校や短大等を修了し、実務経験等のある方は、本大学院個別の入学資格審査によって、大学を卒業した者と同等以上の学力があるかを判定します。

大阪教育大学調査 全体集計表

[N%001]

性別	<性別>	N	%
1	男性	198	38.3
2	女性	319	61.7
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%002]

年齢	<年齢>	N	%
1	20才～24才	0	0.0
2	25才～29才	0	0.0
3	30才～34才	30	5.8
4	35才～39才	80	15.5
5	40才～44才	82	15.9
6	45才～49才	68	13.2
7	50才～54才	62	12.0
8	55才～59才	63	12.2
9	60才以上	51	9.9
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%003]

都道府県	<都道府県>	N	%
1	京都府	52	10.1
2	大阪府	258	49.9
3	兵庫県	103	19.9
4	奈良県	52	10.1
5	和歌山県	52	10.1
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%004]

職業	<職業>	N	%
1	公務員	57	11.0
2	経営者・役員	3	0.6
3	会社員(事務系)	73	14.1
4	会社員(技術系)	71	13.7
5	会社員(その他)	85	16.4
6	自営業	22	4.3
7	自由業	13	2.5
8	専業主婦(主夫)	73	14.1
9	パート・アルバイト	79	15.3
10	学生	15	2.9
11	その他	13	2.5
12	無職	13	2.5
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%005]

SQ1	あなたの職業を教えてください。(当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	会社員	224	43.3
2	公務員	58	11.2
3	自営業	37	7.2
4	派遣社員、パート、アルバイト	105	20.3
5	専業主婦(主夫)	65	12.6
6	大学生(令和3年3月31日までに卒業見込みの者)	14	2.7
7	大学院生(令和3年3月31日までに卒業見込みの者)	1	0.2
8	無職	13	2.5
9	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%006]

SO2	あなたが最後に卒業した学校について、教えてください。 (当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	4年制大学	291	58.0
2	6年制大学	7	1.4
3	大学院修士課程	25	5.0
4	大学院博士課程	10	2.0
5	短期大学	61	12.2
6	専門学校・専修学校	108	21.5
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	502	100.0

[N%007]

SO3	以下の中にあなたの現在の職業等や今後希望している職業等がありますか。(当てはまる番号全てを選択:複数回答可)	N	%
1	ICT関連の企業に勤務	60	11.6
2	教育関連の企業に勤務	71	13.7
3	教育機関・行政組織・学習支援業等の行政職	87	16.8
4	教育委員会事務局の社会教育主事、社会教育施設職員、地域連携担当職員	16	3.1
5	大学職員	50	9.7
6	民間教育事業者	26	5.0
7	社会福祉士・精神保健福祉士等の資格を有し、スクールソーシャルワーカーを目指している方	24	4.6
8	芸術家、演奏家、デザイナー	60	11.6
9	教育や文化振興に関連する団体の職員	65	12.6
10	看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職	174	33.7
11	専門職の立場から健康・安全に関する教育・地域活動を実践している方	30	5.8
12	スポーツ指導者、トレーナー、競技者	25	4.8
13	あてはまるものはない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%008]

Q1	国の方針として、中央教育審議会答申等を踏まえ、「学校における働き方改革」「チームとしての学校」を実現するための具体的な改善策として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど教員以外の専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。(当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	強く必要だと思う	196	37.9
2	必要だと思う	284	54.9
3	あまり必要だと思わない	33	6.4
4	必要だと思わない	4	0.8
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%009]

Q2	専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、教員養成大学である大阪教育大学の大学院で養成すべきだと思いますか。(当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	ぜひ養成すべきだと思う	157	30.4
2	養成した方がよいと思う	308	59.6
3	養成しなくてもよいと思う	48	9.3
4	養成すべきではない	4	0.8
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%010]

Q3	近年働き方が多様化する日本においてもリカレント教育が注目を集めています。社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか。(当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	非常に興味・関心がある	121	23.4
2	興味・関心がある	253	48.9
3	あまり興味・関心がない	121	23.4
4	全く興味・関心がない	22	4.3
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%011]

Q4	あなたは、設置構想中の大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】【修士課程】(仮称)に興味はありますか。(当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	非常に興味・関心がある	80	15.5
2	興味・関心がある	240	46.4
3	あまり興味・関心がない	157	30.4
4	全く興味・関心がない	40	7.7
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

[N%012]

Q5	あなたは、大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】【修士課程】(仮称)に進学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い番号1つを選択してください。(当てはまる番号1つを選択)	N	%
1	進学したい	199	38.5
2	進学したくない	318	61.5
	無回答	0	0.0
	全体	517	100.0

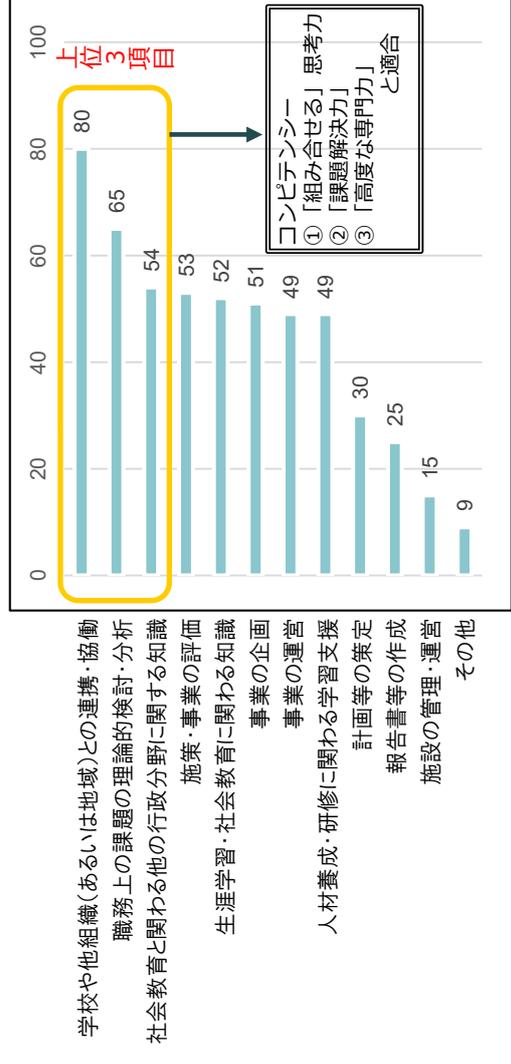
[N%013]

Q6	あなたが大阪教育大学 大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻 教育ファシリテーションコース【夜間】【修士課程】(仮称)に進学するとしたら、どの領域を対象に学びたいですか。(当てはまる番号全てを選択:複数回答可)	N	%
1	教育イノベーション開発	80	40.2
2	地域教育・芸術支援人材高度化	91	45.7
3	健康・安全教育高度化	83	41.7
	無回答	0	0.0
	全体	199	100.0

地域教育・芸術支援人材高度化領域二一ズ調査結果

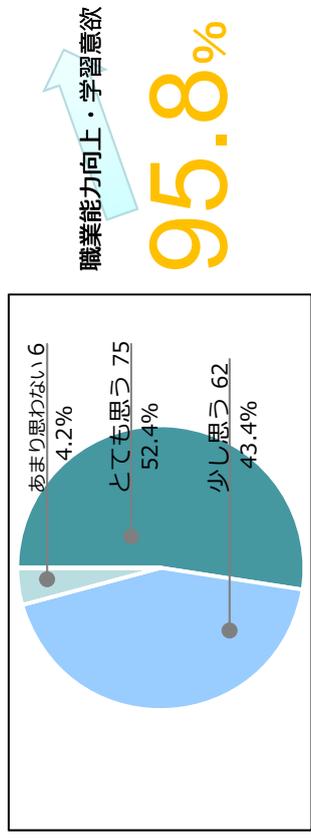
調査概要	
調査目的	社会教育や生涯教育に携わっている方、社会教育に関心の高い方の活躍状況を明らかにするとともに、夜間大学院に關してのニーズを把握する。
調査対象	大阪市役所、一般財団法人大阪教育文化振興財団、社会教育主事受講生
調査対象数	配布数185名 回収数143名 【回収率 77.3%】
調査時期	2019年7月11日～8月23日（金）

I 現在、あなたが職務上課題としていることがあれば、すべてにチェックをつけてください。【複数選択可】



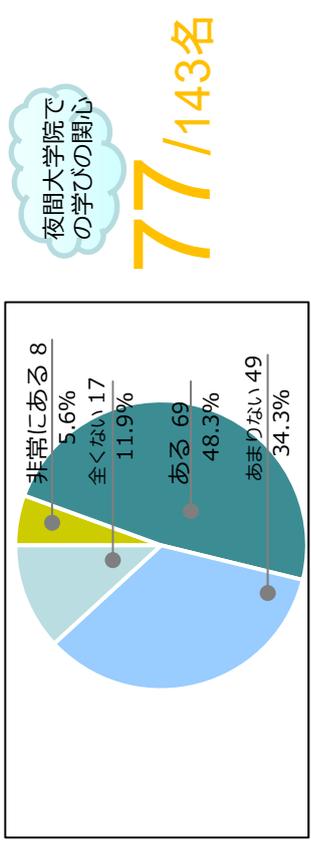
調査結果の上位3項目、「学校や他組織（あるいは地域）との連携・協働」「職務上の課題の理論的検討・分析」「社会教育と関わる他の行政分野に関する知識」は、本大学院で修得を目指すコンピテンシー、①様々な領域を「組み合わせる」思考力、②データを分析しながら目の前の課題について最適な解決策を提示する「課題分析力」、③特定分野での「高度な専門力」に適合しており、社会教育に携わる社会人が身に付けたい能力と本大学院が目指す方向性はおおよそ一致しているといえる。

II あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いませんか。



自らの職業能力の向上や、学習したいという意欲について、「とても思う」が52.4%と半数を超えていること、さらに「少し思う」の43.4%を加えた場合、95.8%となり、社会教育等に携わる社会人のニーズは相当に高い水準であることがいえる。

III 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに関心がありますか。



「非常にある」と「ある」を併せて53.9%となり、夜間大学院での学びの関心は相当程度に有ることがいえる。

社会教育等に携わる社会人において、身に付けたい能力、学びへの意欲、夜間大学院への関心に係るデータをトータルでみた場合、地域教育・芸術支援人材高度化領域へのニーズが相当にあることがいえる。

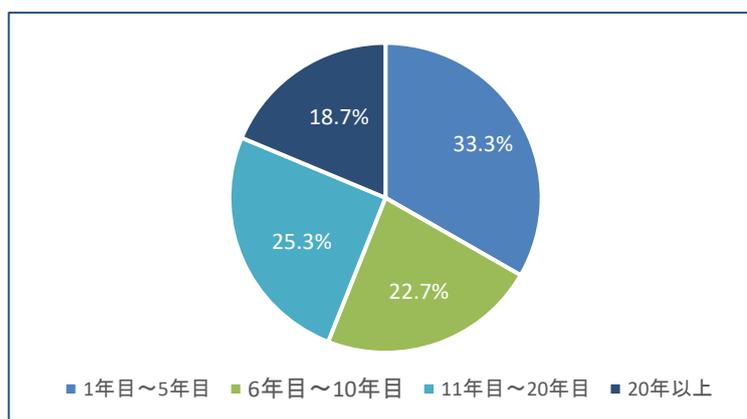
「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書【社会教育主事受講生調査】

令和元年8月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	社会教育や生涯教育に関心のある方の活躍状況を明らかにするとともに、夜間大学院に関してのニーズを把握する。
調査対象	社会教育主事受講生
調査方法	質問紙配布。回答用紙を回収
調査対象数	配布数 78名 回収数 75名 【回収率 96.2%】
調査時期	2019年8月23日(金)
調査実施部署	経営戦略課

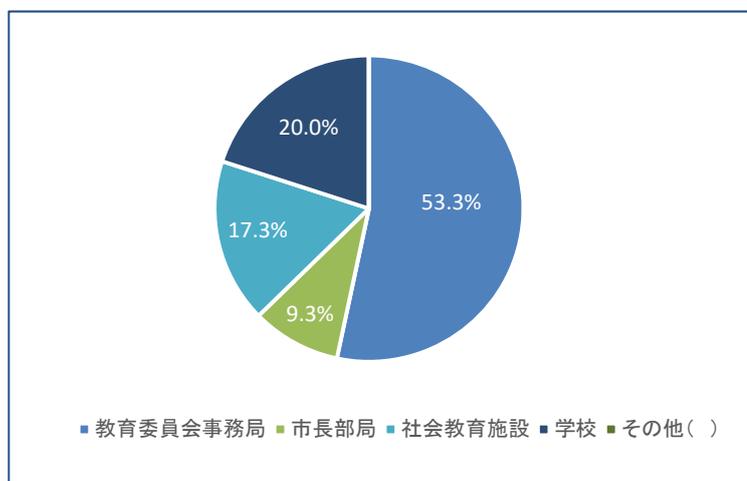
■Q1 勤務年数を選択してください。

回答項目	回答数	割合
1年目～5年目	25	33.3%
6年目～10年目	17	22.7%
11年目～20年目	19	25.3%
20年以上	14	18.7%
計	75	100.0%



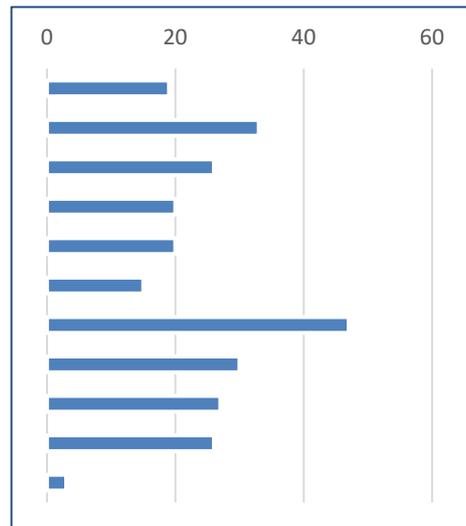
■Q2 今の勤務部署を選択してください。

回答項目	回答数	割合
教育委員会事務局	40	53.3%
市長部局	7	9.3%
社会教育施設	13	17.3%
学校	15	20.0%
その他()	0	0.0%
計	75	100.0%



■Q3 現在、あなたが職務上課題としていることがあれば、すべてにチェックをつけてください。【複数選択可】

回答項目	回答数	割合
計画等の策定	19	7.1%
事業の企画	33	12.4%
事業の運営	26	9.8%
施策・事業の評価	20	7.5%
職務上の課題の理論的検討・分析	20	7.5%
報告書等の作成	15	5.6%
学校や他組織(あるいは地域)との連携・協働	47	17.7%
生涯学習・社会教育に関わる知識	30	11.3%
社会教育と関わる他の行政分野に関する知識	27	10.2%
人材養成・研修に関わる学習支援	26	9.8%
その他()	3	1.1%
計	266	100.0%



※（「その他」の自由記述回答）

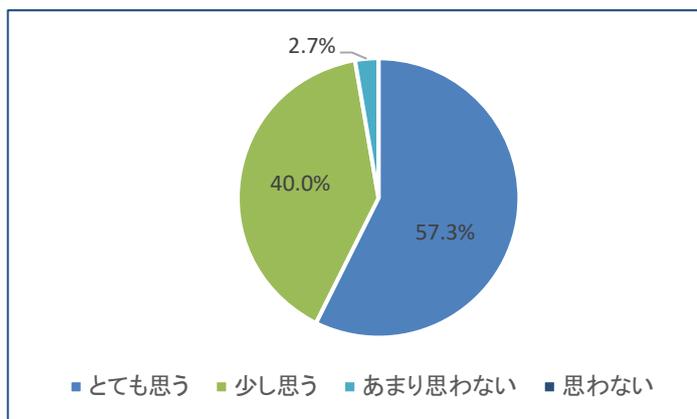
「社会教育団体（こども会，PTA，文化協会）etc の高齢化参加率の減」

「勤務時間の厳守，働き方改革の推進」「行政と民間の住み分け，行政と政教分離」

※無回答 3

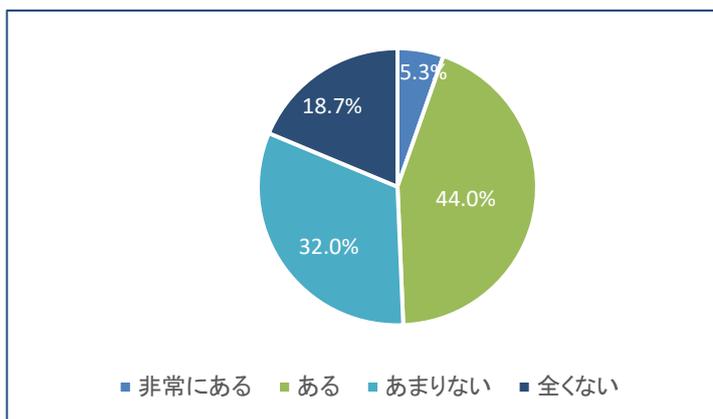
■Q4 あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
とても思う	43	57.3%
少し思う	30	40.0%
あまり思わない	2	2.7%
思わない	0	0.0%
計	75	100.0%



■Q5 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに興味がありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	4	5.3%
ある	33	44.0%
あまりない	24	32.0%
全くない	14	18.7%
計	75	100.0%

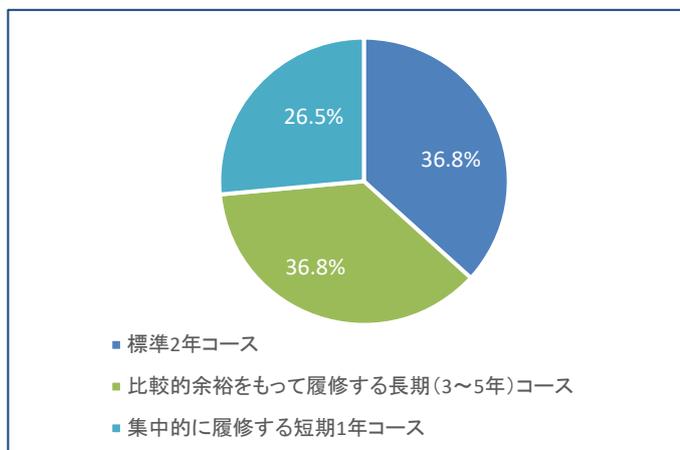


■Q6 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
標準2年コース	25	36.8%
比較的余裕をもって履修する長期(3~5年)コース	25	36.8%
集中的に履修する短期1年コース	18	26.5%
計	68	100.0%

※複数回答あり 1

※無回答あり 8

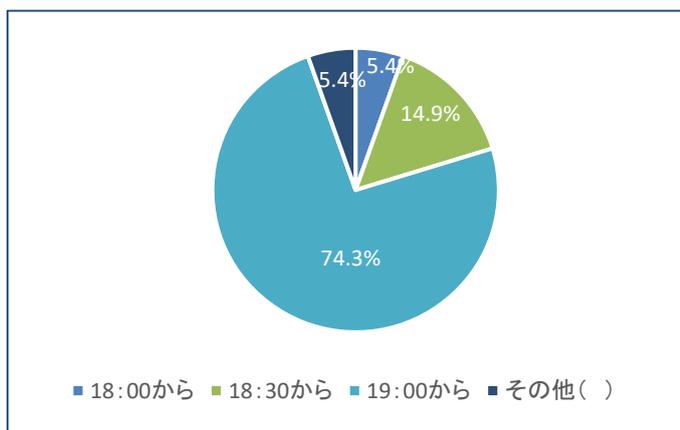


■Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、平日の授業開始時間は以下のどの時間が望ましいですか。

回答項目	回答数	割合
18:00から	4	5.3%
18:30から	11	14.7%
19:00から	55	73.3%
その他()	4	5.3%
計	74	98.7%

※複数回答あり 3

※無回答あり 6



※（「その他」の自由記述回答）：

「通学したくとも地理的に無理な者もいるので、土日開講であれば、非常に入学したいと思います」

「終了時間にもよる」「遠いため移動方法に不安あり」「通えない」「通学できる距離ではない」

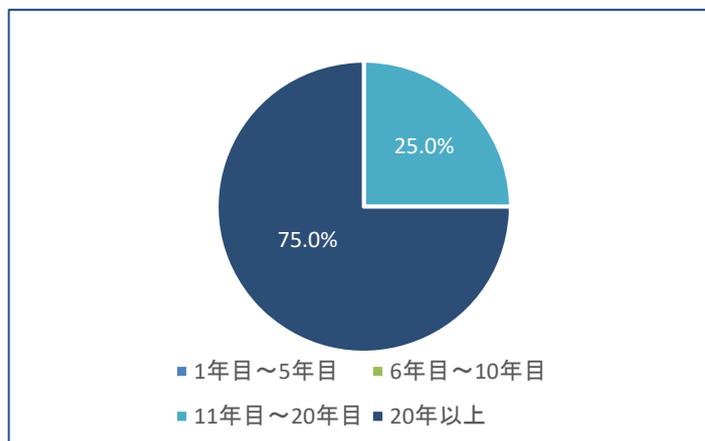
「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書【大阪市役所調査】

令和元年 7月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	社会教育や生涯教育に携わっている方、社会教育等に関心のある方の活躍状況を明らかにするとともに、夜間大学院に関してのニーズを把握する。
調査対象	夜間大学院に入学実績のある大阪市役所の社会教育主事
調査エリア	大阪市
調査方法	質問紙配布。回答はレターパックライト郵送にて返送。
調査対象数	配布数 80名 回収数 44名 【回収率 55.0%】
調査時期	2019年7月1日(月)～2019年7月26日(金)
調査実施部署	経営戦略課

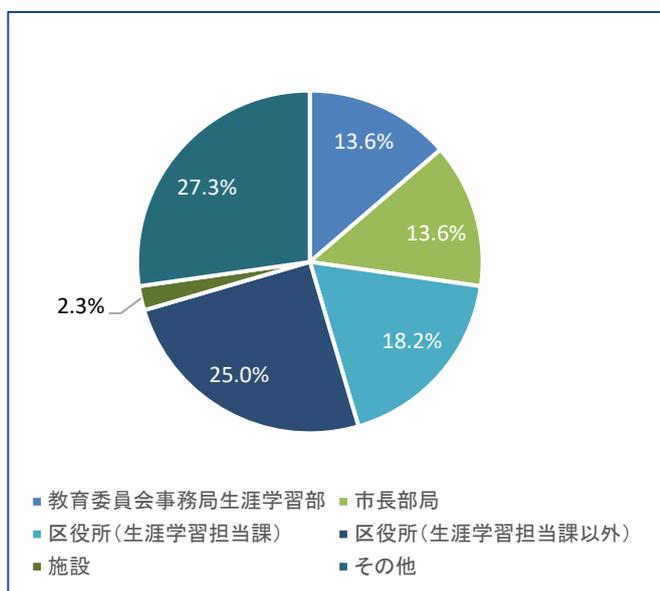
■Q1 勤務年数を選択してください。

回答項目	回答数	割合
1年目～5年目	0	0.0%
6年目～10年目	0	0.0%
11年目～20年目	11	25.0%
20年以上	33	75.0%
計	44	100.0%



■Q2 今の勤務部署を選択してください。

回答項目	回答数	割合
教育委員会事務局生涯学習部	6	13.6%
市長部局	6	13.6%
区役所(生涯学習担当課)	8	18.2%
区役所(生涯学習担当課以外)	11	25.0%
施設	1	2.3%
その他	12	27.3%
計	44	100.0%



※（「その他」の自由記述回答）

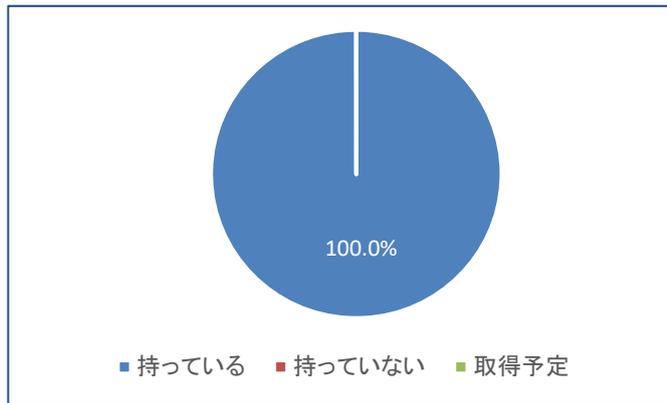
「教育委員会事務局総務部 4」,

「教育委員会事務局（生涯学習部以外） 3」,

「教育委員会事務局 4」, 「児童相談所 1」

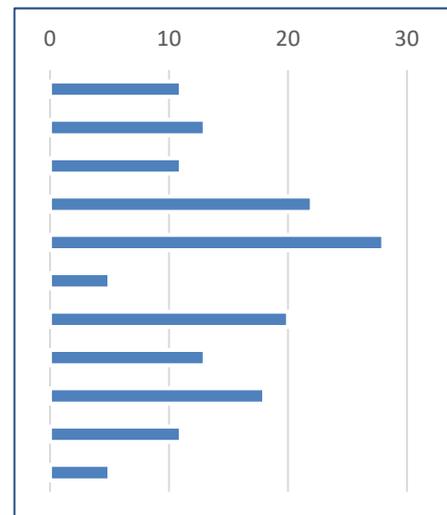
■Q3 社会教育主事の資格を持っていますか。

回答項目	回答数	割合
持っている	44	100.0%
持っていない	0	0.0%
取得予定	0	0.0%
計	44	100.0%



■Q4 現在、あなたが職務上課題としていることがあれば、すべてにチェックをつけてください。【複数選択可】

回答項目	回答数	割合
計画等の策定	11	7.0%
事業の企画	13	8.3%
事業の運営	11	7.0%
施策・事業の評価	22	14.0%
職務上の課題の理論的検討・分析	28	17.8%
報告書等の執筆	5	3.2%
学校や他組織との連携・協働	20	12.7%
生涯学習・社会教育に関わる知識	13	8.3%
社会教育と関わる他の行政分野に関する知識	18	11.5%
人材養成・研修に関わる学習支援	11	7.0%
その他	5	3.2%
計	157	100.0%

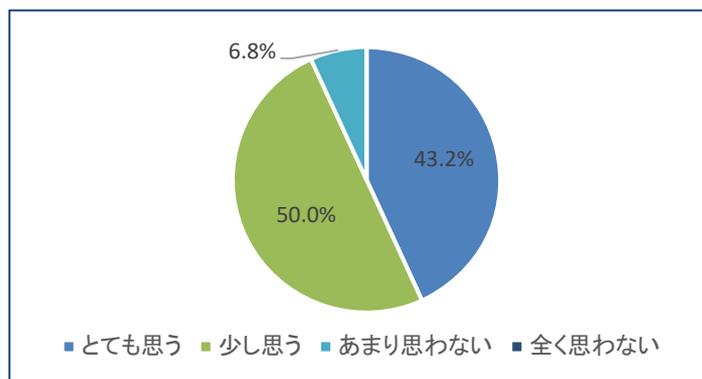


※（「その他」の自由記述回答）

「業務量の増と人材不足」, 「その時に担当している業務内容にかかわる知見・先行事例の学習」, 「実践者との交流等」, 「人権, 福祉施策」, 「他の行政分野（児童福祉）への社会教育（成人基礎教育・青少年教育）のアプローチ」

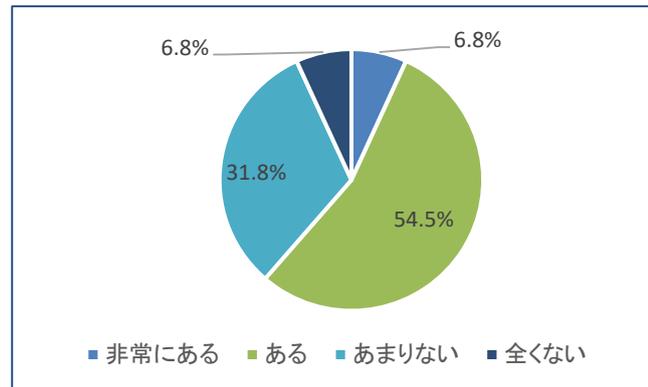
■Q5 あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
とても思う	19	43.2%
少し思う	22	50.0%
あまり思わない	3	6.8%
全く思わない	0	0.0%
計	44	100.0%



■Q6 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに興味がありますか。

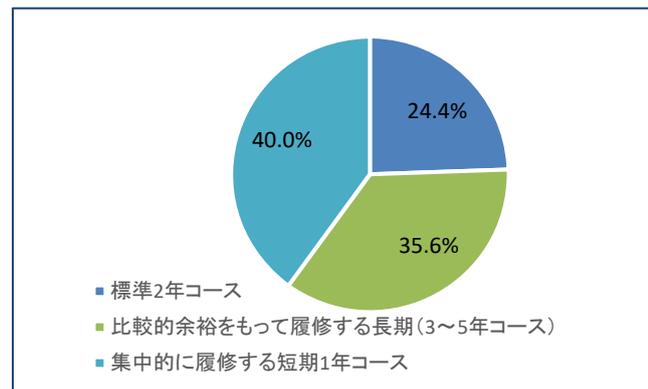
回答項目	回答数	割合
非常にある	3	6.8%
ある	24	54.5%
あまりない	14	31.8%
全くない	3	6.8%
計	44	100.0%



※備考：「修士号をとりたいたいというより学ぶ機会があればうれしいという気持ち。あと140万円…」

■Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
標準2年コース	11	24.4%
比較的余裕をもって履修する長期(3~5年コース)	16	35.6%
集中的に履修する短期1年コース	18	40.0%
計	45	100.0%

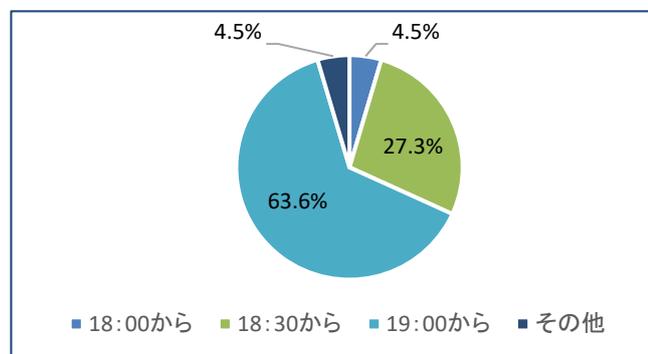


※複数回答あり 1

※備考：「異動があるので余裕のある部署にいる間にやりきる必要がある。でも修士論文で死にそう。」

■Q8 もし夜間大学院に入学するとしたら、平日の授業開始時間は以下のどの時間が望ましいですか。

回答項目	回答数	割合
18:00から	2	4.5%
18:30から	12	27.3%
19:00から	28	63.6%
その他	2	4.5%
計	44	100.0%



※（「その他」の自由記述回答）

「子育て中のため土日集中開催などが参加しやすいです。」

「職場の所在地次第だが、近場で18:30から、遠いと19:00以降から。」

「社会教育主事は地域の人の都合に合わせて会議や催しをするので平日夜間や土日の勤務が入ることも多い。(尤も大阪市の社会教育主事で生涯学習に携わる人も少なくなっているので一概には言えませんが…)『やむをえず欠席することになって大丈夫』でないとしんどいかも。」

大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学は、令和3年度より社会教育や生涯教育に携わる方々のキャリアアップを目的とした夜間大学院を天王寺に開設する予定です。つきましては、現に社会教育や生涯教育に携わっている方々や社会教育等に関心のある方々のニーズを把握するために、これまでの夜間大学院に入学実績のある大阪市役所の社会教育主事の方々を対象に、調査をお願いすることといたしました。

恐れ入りますが、裏面アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用いたしません。

なお改組後の専攻・コース名・科目名称は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性があります。

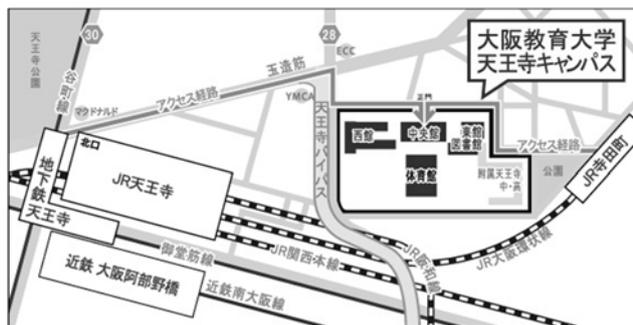
大阪教育大学大学院の特徴（令和3年4月改組計画中）

近畿地区 国立大学唯一の夜間大学院

本学では、平成5年の健康科学専攻設置当初から、主に有職者を対象として健康や教育に関わる教育研究を推進し、高度な専門的能力をもつ指導的人材の育成や学位取得を通じた実務家の教育職へのキャリア転換といった点で多大な成果をあげてきました。このたび、変動する社会に対応する生涯学習の重要性を鑑み、地域教育を支える人材の高度化を旨とした大学院の設置を計画しております。これまで通り天王寺キャンパス夜間での教育研究を展開し、働きながらより履修しやすい環境を維持します。

<働きながら勤務できる履修形態>

◆働きながら通学できるよう、平日の18時以降や土曜日に、交通至便な天王寺キャンパスで講義を開講します。



天王寺キャンパス:

JR「寺田町駅」から徒歩約5分

JR「天王寺駅」・地下鉄「天王寺駅」・近鉄「大阪阿部野橋駅」から徒歩10分

実践的な課題解決能力・協働力・幅広い視野・研究分析能力を養成

社会教育行政は他分野と協働し、様々な課題について取り組んだり、問題の解決に向けての人材を養成したりする必要性が高まっています。当大学院ではこういった状況に対応するため、生涯学習支援論など、最新の知識を習得することに加え、職務上の課題を理論的に検討・分析したり、各人の実践や経験を学生間で相互に振り返り合ったりすることを通じて、高度な実務能力に加え、研究・分析能力を有する人材の養成を旨としています。

<主な科目（計画中）>

- ・現代社会と生涯学習
- ・教育協働特論
- ・社会環境と子どもの心身の理解
- ・生涯学習推進行政の動向
- ・地域教育実践研究
- ・成人学生支援特論
- ・共生社会を旨とした協働的援助
- ・ダイバーシティ教育とジェンダー平等

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

出願資格

大学を卒業した方に限らず、専門学校や短大等を修了し、実務経験等のある方は、本大学院個別の入学資格審査によって、大学を卒業した者と同等以上の学力があるかを判定します。

取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学料・授業料を併せて総額 約140万円

裏面アンケートにご協力をお願いします。

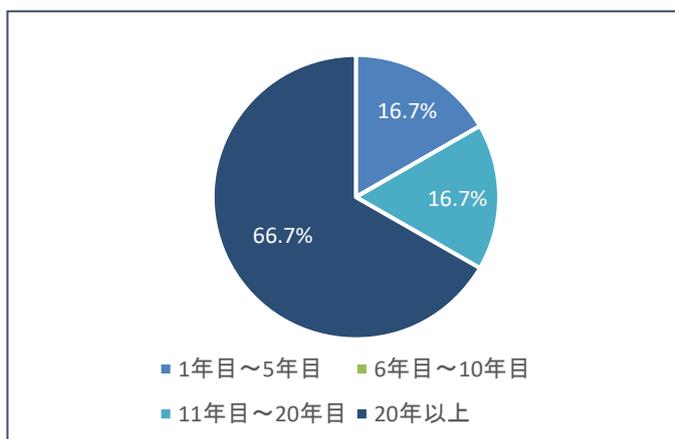
「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書【文化振興財団調査】

令和元年 7月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	社会教育や生涯教育に携わっている方、社会教育等に関心のある方の活躍状況を明らかにするとともに、夜間大学院に関してのニーズを把握する。
調査対象	一般財団法人 大阪教育文化振興財団
調査エリア	大阪市
調査方法	質問紙配布。回答はメール（PDF 添付）にて返送。
調査対象数	配布数 27名 回収数 24名 【回収率88.8%】
調査時期	2019年7月1日（月）～2019年7月19日（金）
調査実施部署	経営戦略課

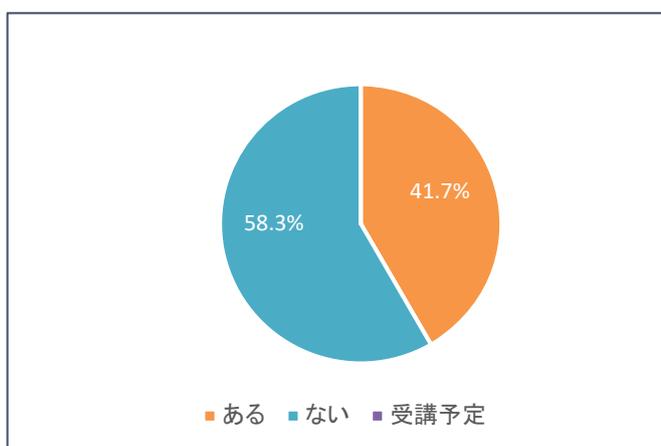
■Q1 勤務年数を選択してください。

回答項目	回答数	割合
1年目～5年目	4	16.7%
6年目～10年目	0	0.0%
11年目～20年目	4	16.7%
20年以上	16	66.7%
計	24	100%



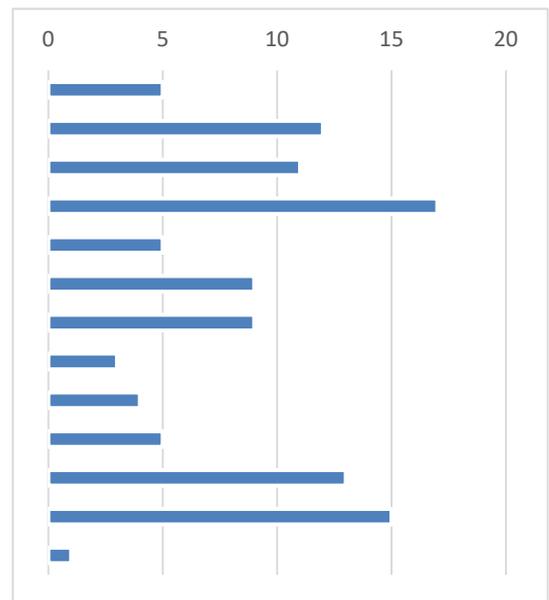
■Q2 これまで社会教育主事講習、もしくは大学で社会教育主事養成課程を修了したことはありますか。

回答項目	回答数	割合
ある	10	41.7%
ない	14	58.3%
受講予定	0	0.0%
計	24	100.0%



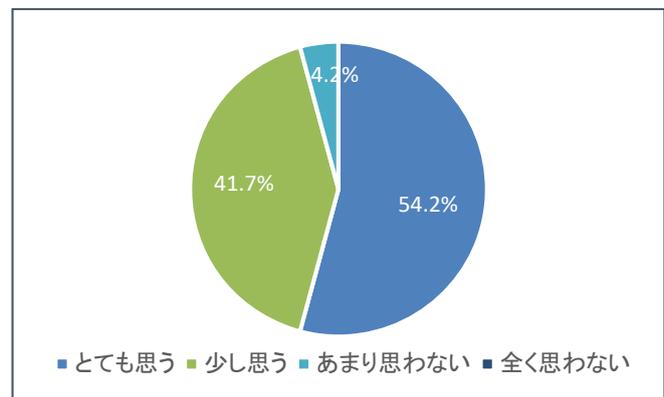
■Q3 現在、あなたが職務上課題としていることがあれば、すべてにチェックをつけてください。【複数選択可】

回答項目	回答数	割合
事業の企画	5	4.6%
事業の運営	12	11.0%
事業・施設管理の評価	11	10.1%
職務上の課題の理論的検討・分析	17	15.6%
報告書等の執筆	5	4.6%
生涯学習・社会教育に関わる知識	9	8.3%
社会教育と関わる他の行政分野に関する知識	9	8.3%
地域公共人材の養成・研修	3	2.8%
子どもや大人の受講者への学習支援	4	3.7%
学習サークルや団体への支援	5	4.6%
学校や他の外部組織との連携・協働	13	11.9%
施設の管理・運営	15	13.8%
その他	1	0.9%
計	109	100.0%



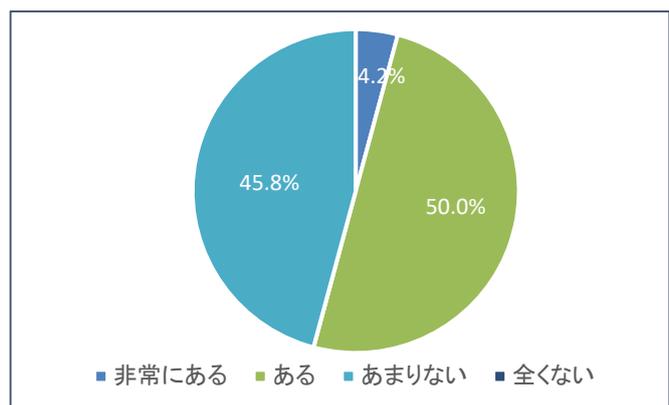
■Q4 あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
とても思う	13	54.2%
少し思う	10	41.7%
あまり思わない	1	4.2%
全く思わない	0	0.0%
計	24	100.0%



■Q5 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに興味がありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	1	4.2%
ある	12	50.0%
あまりない	11	45.8%
全くない	0	0.0%
計	24	100.0%



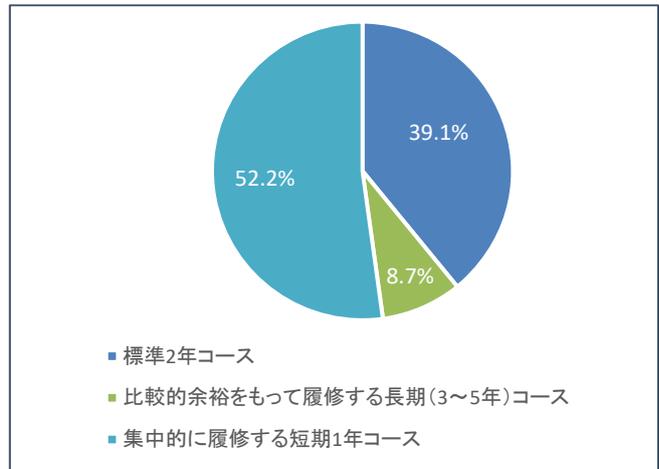
その他回答：

興味はあるが、現実的には難しいかもしれない。修士課程を修了できるだけの日数・時間を費やすことに不安あり。

■Q6 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
標準2年コース	9	39.1%
比較的余裕をもって履修する長期(3~5年)コース	2	8.7%
集中的に履修する短期1年コース	12	52.2%
計	23	100.0%

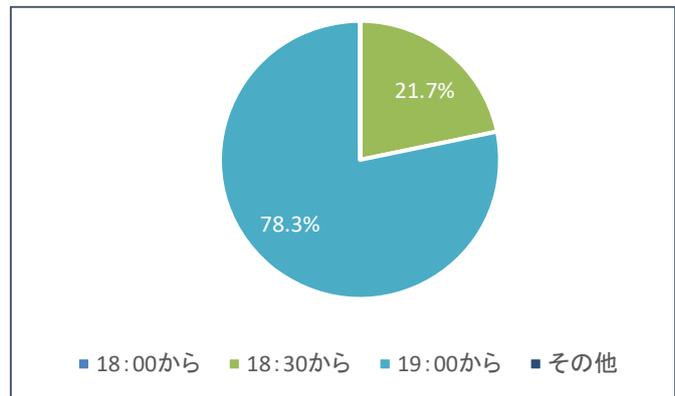
※無回答 1



■Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、平日の授業開始時間は以下のどの時間が望ましいですか。

回答項目	回答数	割合
18:00から	0	0.0%
18:30から	5	21.7%
19:00から	18	78.3%
その他	0	0.0%
計	23	100.0%

※無回答 1



大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学は、令和3年度より社会教育や生涯教育に携わる方々のキャリアアップを目的とした夜間大学院を天王寺に開設する予定です。つきましては、現に社会教育や生涯教育に携わっている方々や社会教育等に関心のある方々のニーズを把握するために、調査をお願いすることといたしました。

恐れ入りますが、裏面アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用いたしません。

なお改組後の専攻・コース名・科目名称は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性があります。

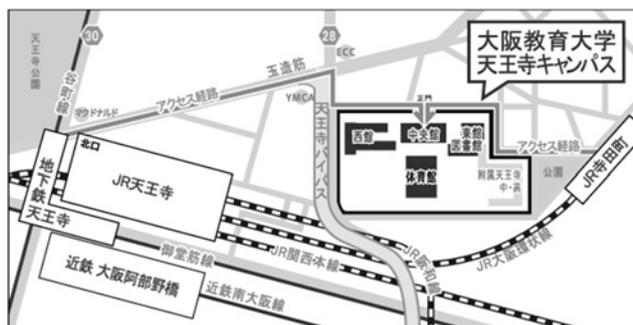
大阪教育大学大学院の特徴（令和3年4月改組計画中）

近畿地区 国立大学唯一の夜間大学院

本学では、平成5年の健康科学専攻設置当初から、主に有職者を対象として健康や教育に関わる教育研究を推進し、高度な専門的能力をもつ指導的人材の育成や学位取得を通じた実務家の教育職へのキャリア転換といった点で多大な成果をあげてきました。このたび、変動する社会に対応する生涯学習の重要性を鑑み、地域教育を支える人材の高度化を旨とした大学院の設置を計画しております。これまで通り天王寺キャンパス夜間での教育研究を展開し、働きながらより履修しやすい環境を維持します。

<働きながら勤務できる履修形態>

◆働きながら通学できるよう、平日の18時以降や土曜日に、交通至便な天王寺キャンパスで講義を開講します。



天王寺キャンパス:

JR「寺田町駅」から徒歩約5分

JR「天王寺駅」・地下鉄「天王寺駅」・近鉄「大阪阿部野橋駅」から徒歩10分

実践的な課題解決能力・協働力・幅広い視野・研究分析能力を養成

生涯学習施設においては他分野と協働し、様々な課題について取り組んだり、問題の解決に向けての人材を養成したりする必要性が高まっています。当大学院ではこういった状況に対応するため、生涯学習支援論など、最新の知識を習得することに加え、職務上の課題を理論的に検討・分析したり、各人の実践や経験を学生間で相互に振り返り合ったりすることを通じて、高度な実務能力に加え、研究・分析能力を有する人材の養成を旨としています。

<主な科目（計画中）>

- ・現代社会と生涯学習
- ・教育協働特論
- ・社会環境と子どもの心身の理解
- ・生涯学習推進行政の動向
- ・地域教育実践研究
- ・成人学生支援特論
- ・共生社会を旨とした協働的援助

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

出願資格

大学を卒業した方に限らず、専門学校や短大等を修了し、実務経験等のある方は、本大学院個別の入学資格審査によって、大学を卒業した者と同様以上の学力があるかを判定します。

取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学料・授業料を併せて総額 約140万円
(標準修業年限2年及び長期履修3年分の総額)

裏面アンケートにご協力をお願いします。

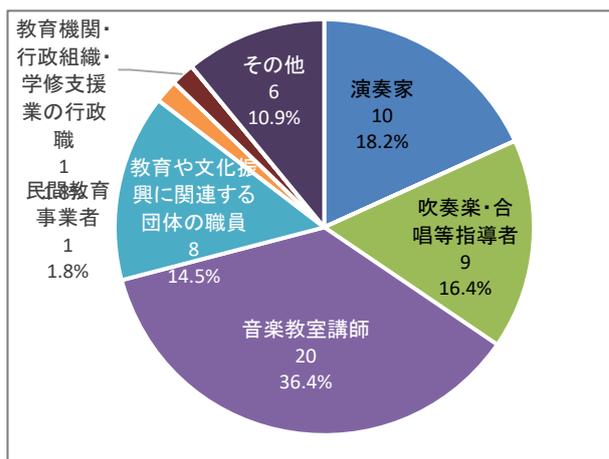
「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書【地域教育・芸術支援人材】

令和2年1月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	令和3年度より社会教育や芸術活動に携わる方々のキャリアアップを目的とした大学院コース（天王寺・夜間）を開設する予定に伴い、現に演奏家やアーティスト等の音楽関係の職業に携わる方々のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	公益財団法人神戸市民文化振興財団事業部神戸市混声合唱団、堺市合唱連盟、音楽関係団体等
調査方法	質問紙配布。回答はレターパックライト郵送にて返送ほか
調査対象数	配布数 38 回収数 38 【回収率 100.0%】
調査時期	2019年12月25日（水）～2020年2月3日（月）
調査実施部署	経営戦略課

■Q1 現在の職業を選択してください。

回答項目	回答数	割合
演奏家	10	18.2%
作・編曲家	0	0.0%
吹奏楽・合唱等指導者	9	16.4%
音楽教室講師	20	36.4%
教育や文化振興に関連する団体の職員	8	14.5%
民間教育事業者	1	1.8%
教育関連の企業に勤務	0	0.0%
教育機関・行政組織・学修支援業の行政職	1	1.8%
教育委員会の事務局の社会教育主事, 地域連携担当職員	0	0.0%
その他	6	10.9%
計	55	100.0%

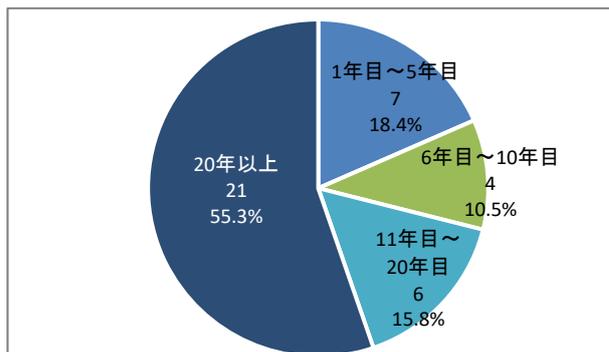


※複数回答あり, 無回答1

※その他…「自宅レッスン」「運輸業の企業に勤務」「演奏団体職員」「会社経営」「民間企業職員」

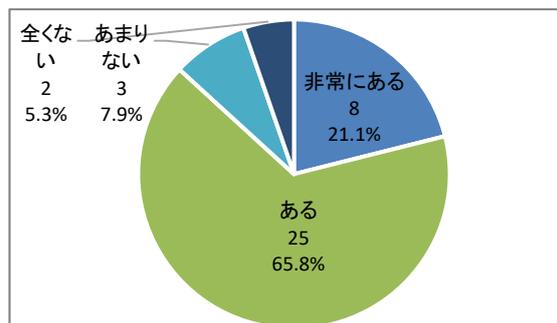
■Q2 トータルの勤務年数を選択してください。

回答項目	回答数	割合
1年目～5年目	7	18.4%
6年目～10年目	4	10.5%
11年目～20年目	6	15.8%
20年以上	21	55.3%
計	38	100.0%



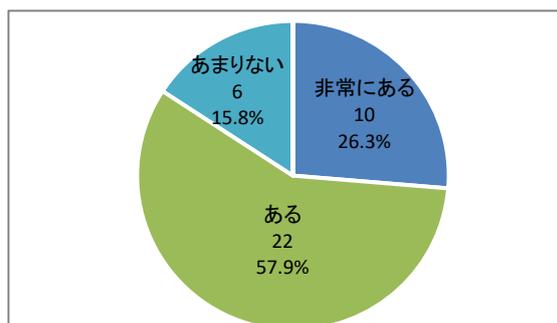
■Q3 これまでに培った音楽分野の専門的な知識技能や経験を生かして、学校現場において小中学生への指導など教育分野に参画することに興味や関心はありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	8	21.1%
ある	25	65.8%
あまりない	3	7.9%
全くない	2	5.3%
計	38	100.0%



■Q4 近年働き方が多様化する日本においてもリカレント教育が注目を集めています。社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか。

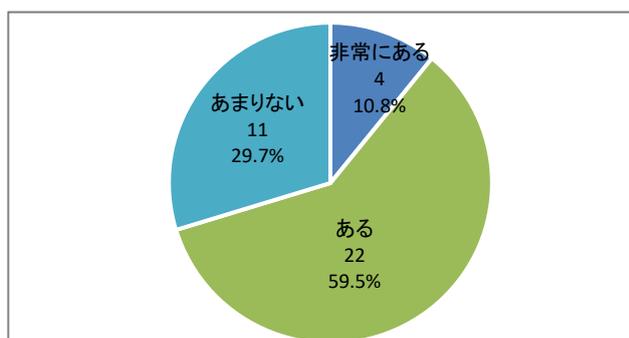
回答項目	回答数	割合
非常にある	10	26.3%
ある	22	57.9%
あまりない	6	15.8%
全くない	0	0.0%
計	38	100.0%



■Q5 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに興味がありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	4	10.8%
ある	22	59.5%
あまりない	11	29.7%
全くない	0	0.0%
計	37	100.0%

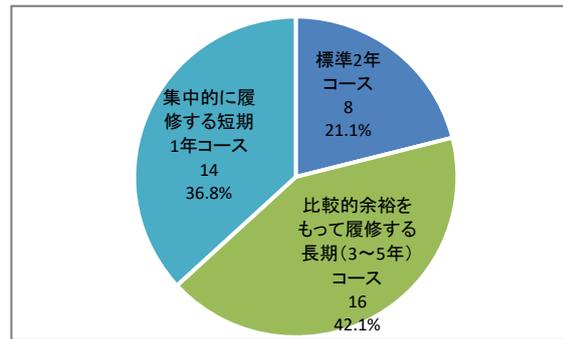
※無回答 1



■Q6 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
標準2年コース	8	21.1%
比較的余裕をもって履修する長期(3~5年)コース	16	42.1%
集中的に履修する短期1年コース	14	36.8%
計	38	100.0%

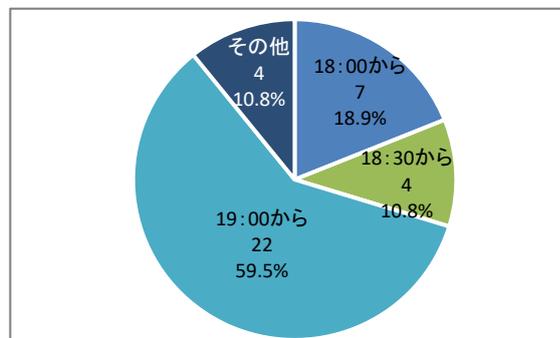
※複数回答 1 無回答 1



■Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、平日の授業開始時間は以下のどの時間が望ましいですか。

回答項目	回答数	割合
18:00から	7	18.9%
18:30から	4	10.8%
19:00から	22	59.5%
その他	4	10.8%
計	37	100.0%

※複数回答 2, 無回答 3



※その他…「子どもが学校から帰宅後にピアノを教える身としては、より遅い時間に開始していただきたい。」「土日の夜」「土日」「音楽教室は、午後から夜がレッスンになるので、土日や、夏期冬期にまとめて受講できる機会もあればうれしいと思います。」

■Q8 夜間大学院について、ご意見等があればご記入ください。【原文ママ】

「もし文部科学省の言われるように“職業上必要な知識・技術を修得する”ためなら、レベルの高い講師が必要」

「専門知識・技術を得るなら“大学院”と銘打つ必要はないのでは？」

「夜間大学院の開設は、地域社会の発展の為に有意義だと思います。」

「現実的に一日仕事を終えた後の勉強が、気力が、持つかは心配ですが、理想的に見れば実現すればとても素晴らしいことだと思います。」

「週によって、残業や出張等によるスケジュール変動がありうるため、補講、振替などの仕組みがあると学びやすいと思います。」

「リカレント教育を主体的に行いたい社会人へのフォローが必要と考えています。企業は従業員に対し、『本業に支障が出る』、『実践的で無い』、『実践的で無い』と夜間大学院への入学に前向きで無いと感じます。企業と学びたい従業員との差を埋めるような社会的バックアップが必要に感じます。また履修期間も一律で無く、短期・長期期間とできる柔軟な対応があると良いと思います。」

「素敵な取り組みだと思います。働きながら博士号が取得できる環境があればよりここに興味をもつ方々が増えると思います。」

「時間的に働きながら通えると思うので良いと思います。金銭的に余裕があれば大学時代に資格が取れなかった人も、通うことで可能性が増える機会があるので素晴らしい考えだと思います。」

「長時間通うのは大変だと思うので、集中的に学んで資格を取れるコースが良いと思います。」

大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学は、令和3年度より社会教育や音楽を中心とする芸術活動に携わる方々のキャリアアップを目的とした夜間大学院を天王寺に開設する予定としています。つきましては、現に音楽などの芸術活動に携わっている方々のニーズを把握するために、調査をお願いすることといたしました。

恐れ入りますが、裏面アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用することはありません。

なお改組後のコース名等は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性があります。

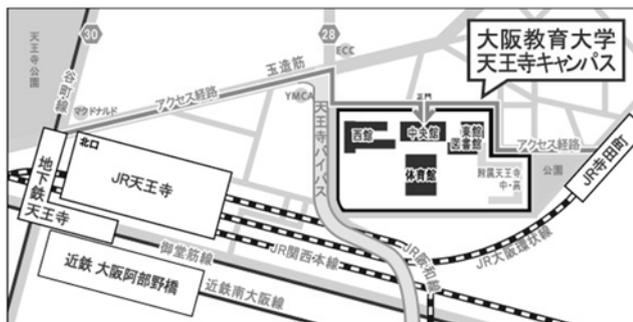
大阪教育大学大学院の特徴（令和3年4月改組計画）

近畿地区 国立大学唯一の夜間大学院

本学では、これまで天王寺キャンパス夜間で展開してきた修士課程を改組し、このたび、学校と地域との連携・協働に貢献できる人材、または、音楽表現の技術や感性を教育分野に生かすことができる人材の高度化を目指した大学院の設置を計画しております。これまで通り天王寺キャンパス夜間での教育研究を展開し、働きながらより履修しやすい環境を維持します。

<働きながら勤務できる履修形態>

◆働きながら通学できるよう、平日の18時以降や土曜日に、交通至便な天王寺キャンパスで講義を開講します。



天王寺キャンパス：
JR「寺田町駅」から徒歩約5分
JR「天王寺駅」・地下鉄「天王寺駅」・近鉄「大阪阿部野橋駅」から徒歩10分

実践的な課題解決能力・協働力・幅広い視野・研究分析能力を養成

社会教育や音楽を中心とする芸術活動に携わる職業人を対象に、多様な専門的能力を有する人材との協働により、地域学校協働や地域創生への貢献、または芸術表現の技術や感性を教育分野に活かすための音楽教育研究を展開する。

<対象とする人材>

- ・教育課題の解決に貢献し、教育・学習支援の中核的役割を担うことを志す人
- ・専門分野において優れた実務・実践経験を有し、これを生かして教育・学習支援の分野で社会に貢献することを志す人 など

<主な科目（計画）>

- ・地域芸術教育支援研究・音楽
- ・音楽教育支援力高度化演習 など

特別免許状を取得できる仕組みを構想中

当該大学院を修了することで特別免許状を取得し、優れた専門的能力を活用して学校現場に参画できる仕組みを現在、構想中です。

特別免許状とは、専門的な知識技能や経験を有する人材を教員として学校に迎え入れるための免許状の制度です。
(※1)

取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学金・授業料を併せて総額 約140万円

出願資格

大学を卒業した方に限らず、専門学校や短大等を修了し、実務経験等のある方は、本大学院個別の入学資格審査によって、大学を卒業した者と同等以上の学力があるかを判定します。

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

裏面アンケートにご協力をお願いします。

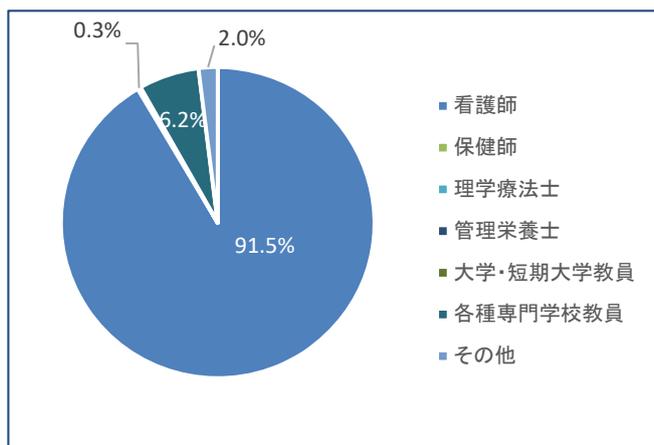
「夜間大学院に関するニーズ調査」結果報告書【大阪府看護協会調査】

令和元年9月～10月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	令和3年度より医療や保健分野、スポーツなど健康・安全教育に携わる方々が、学校教員を含む他の専門職との学び合いにより学校・家庭・地域の健康・安全の向上に貢献できる人材の育成を目的とした夜間大学院を天王寺に開設する予定に伴い、看護師や理学療法士、管理栄養士など健康や安全に携わっている方々のニーズを把握するための調査を行う。
調査対象	公益社団法人大阪府看護協会
調査方法	質問紙を配布し、回答を回収。
調査対象数	305 枚
調査時期	2019年9月20日(金)～2019年10月7日(月)
調査実施部署	経営戦略課

■Q1 現在の職業を選択してください。

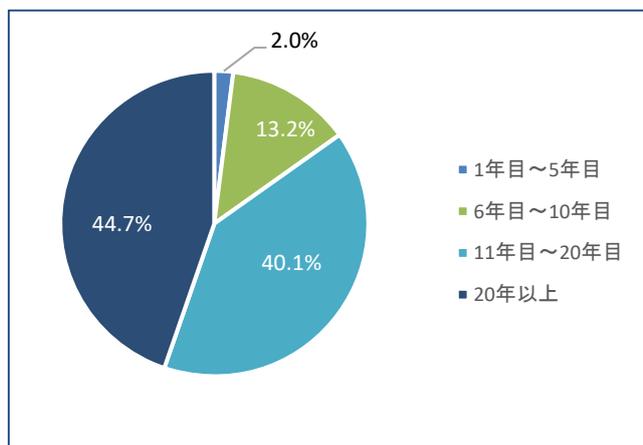
回答項目	回答数	割合
看護師	279	91.5%
保健師	1	0.3%
理学療法士	0	0.0%
管理栄養士	0	0.0%
大学・短期大学教員	0	0.0%
各種専門学校教員	19	6.2%
その他	6	2.0%
計	305	100.0%



※その他…助産師 6

■Q2 トータルの勤務年数を選択してください。

回答項目	回答数	割合
1年目～5年目	6	2.0%
6年目～10年目	40	13.2%
11年目～20年目	122	40.1%
20年以上	136	44.7%
計	304	100.0%

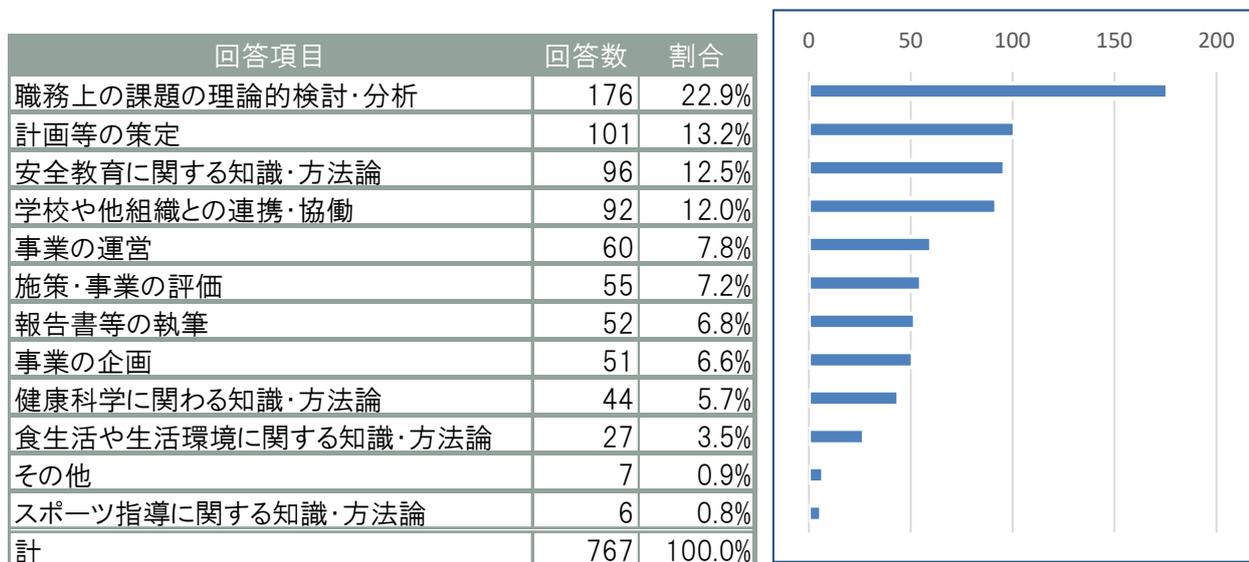


※無回答あり 1

■Q3 取得されている主な専門的資格をお教えてください。(原文のまま)

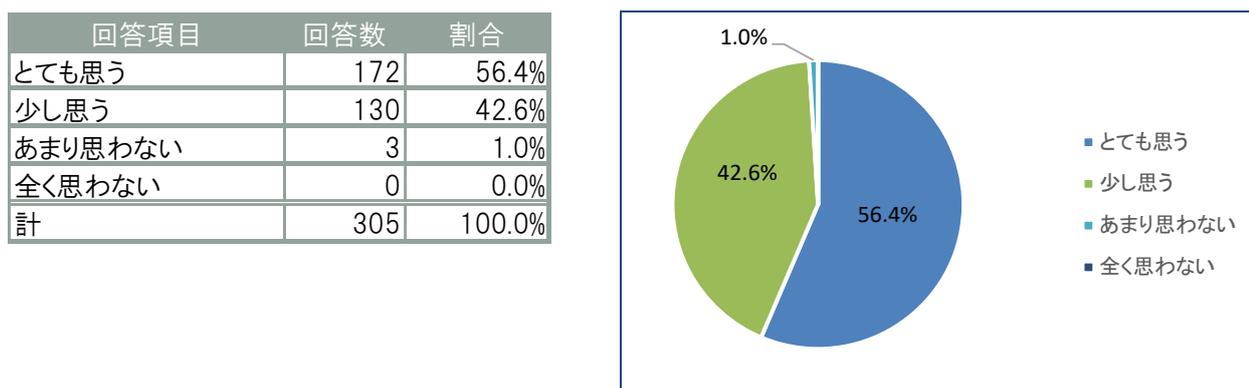
「看護師 82」, 「准看護師 4」, 「保健師 10」, 「養護教諭 1」, 「ケアマネジャー 3」, 「大阪糖尿病療養士 1」, 「糖尿病療養指導士 1」, 「助産師 12」, 「アドバンス助産師 1」, 「JPTEC 1」, 「ICLS 1」, 「3学会合同呼吸療法認定士 7」, 「精神保健福祉士 1」, 「NCPR 2」, 「NCPPA コース 1」, 「クロックミップラダーⅢ 1」, 「看護修士 1」, 「看護教員 1」, 「BLS 1」, 「ACLS 2」, 「介護福祉士 1」, 「保育士 2」, 「レクリエーションインストラクター 1」, 「介護支援専門員 2」, 「実習指導者 1」, 「NST 1」, 「専門看護師 1」, 「救急救命士 2」, 「認定心理士 2」, 「認定看護管理者教育課程ファーストレベル 1」, 「医療安全管理者 1」, 「皮膚・排泄物認定看護師 4」, 「集中部認定看護師 1」, 「感染管理認定看護師 2」, 「WOCN 1」, 「認定看護師 5」, 「NST 専門療法士 1」, 「中学・高校教諭免許 1」, 「NST サポート専門療法士 1」, 「訪問看護認定看護師 1」, 「認定感染制御実践看護師 1」, 「PALS プロバイダー (小児二次救命処置法) 1」, 「安全管理者 1」, 「救急看護認定看護師 3」, 「がん性疼痛看護認定看護師 1」, 「日本 DMAT 1」, 「内視鏡技師 1」, 「がん化学療法看護認定看護師 2」, 「緩和ケア認定看護師 1」, 「がん看護専門看護師 1」, 「精神科認定看護師 1」, 「摂食嚥下障害看護認定看護師 1」, 「医療福祉連携士 1」, 「認知症ケア専門士 1」, 「糖尿病療養指導士 1」, 「診療情報管理士 1」, 「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 1」, 「透析療法技術認定士 1」, 「集中ケア認定看護師 2」

■Q4 現在、あなたが職務上課題としていることがあれば、すべてにチェックをつけてください。【複数選択可】



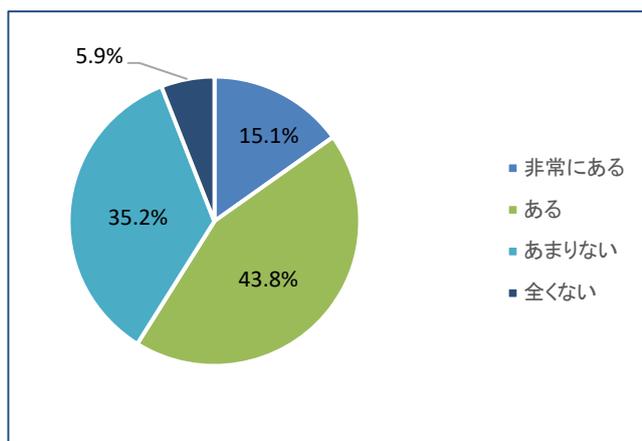
※その他…「専門的知識, 病態」, 「座れるようになった患者の日常生活支援 (体操, ぬり絵等のワーク)」, 「スタッフの育成」, 「担当科目の授業 2」, 「ストレスについて, 指導について」, 「病棟スタッフとのコミュニケーション」

■Q5 あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いますか。



■Q6 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに関心がありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	46	15.1%
ある	133	43.8%
あまりない	107	35.2%
全くない	18	5.9%
計	304	100.0%

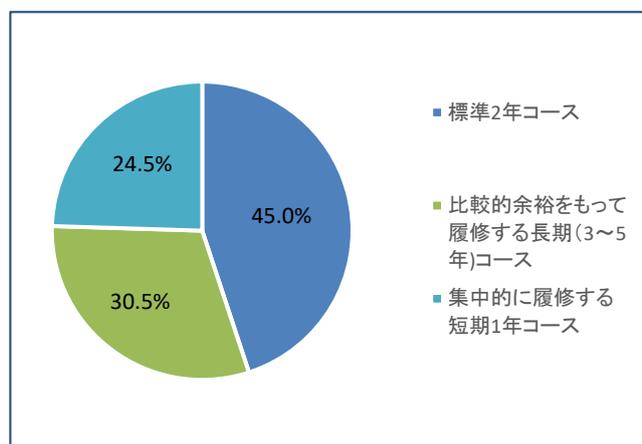


※回答なし 1

備考…「他の大学院が決まっているから」

■Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのようなコースに参加してみたいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
標準2年コース	134	45.0%
比較的余裕をもって履修する長期(3~5年)コース	91	30.5%
集中的に履修する短期1年コース	73	24.5%
計	298	100.0%



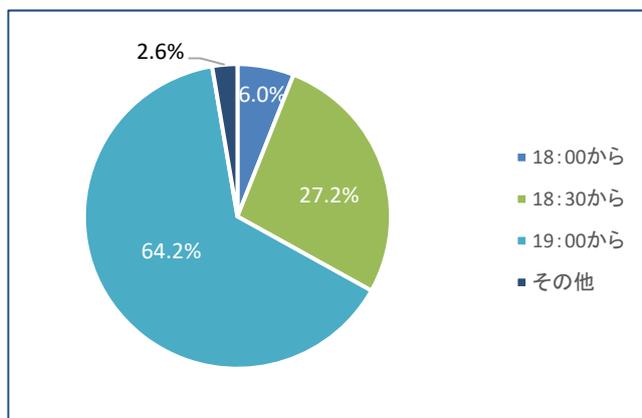
※無回答あり 9

※複数回答あり 2

備考…「職場との調整」

■Q8 もし夜間大学院に入学するとしたら、平日の授業開始時間は以下のどの時間が望ましいですか。

回答項目	回答数	割合
18:00から	18	6.0%
18:30から	82	27.2%
19:00から	194	64.2%
その他	8	2.6%
計	302	100.0%



※複数回答あり 2

※回答なし 5

※その他…「20時 2」, 「病棟勤務しては、20:00～じゃないと難しい。定刻で仕事は終わらないため」, 「残業も多く、帰ったら育児をしないといけないので現実的に不可」, 「通信がいい」, 「平日は家庭の事情で厳しいため土日集中とかがあれば時間帯は問題ありません」, 「勤務地から遠いため」, 「どこでも」, 「平日の時間…何時間受けるのですか？」

大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学は、これまでの健康科学専攻を改組し、令和3年度より医療や保健分野、スポーツなど健康・安全教育に携わる方々が、学校教員を含む他の専門職との学び合いにより学校・家庭・地域の健康・安全の向上に貢献できる人材の育成を目的とした夜間大学院を天王寺に開設する予定としています。つきましては、現に看護師や理学療養士、管理栄養士など健康や安全に携わっている方々のニーズを把握するために、調査をお願いすることといたしました。

恐れ入りますが、裏面アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用することはありません。

なお改組後のコース名等は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性があります。

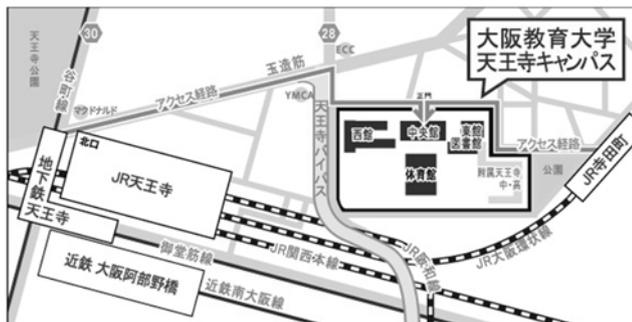
大阪教育大学大学院の特徴（令和3年4月改組計画）

近畿地区 国立大学唯一の夜間大学院

本学では、これまで天王寺キャンパス夜間で展開してきた健康科学専攻（平成5年度設置）を改組し、医療や保健分野、スポーツなど健康・安全教育に携わる方々が、学校教員を含む他の専門職との学び合いにより、学校・家庭・地域の健康・安全の向上に貢献できる人材の高度化を旨とした大学院の設置を計画しております。これまで通り天王寺キャンパス夜間での教育研究を展開し、働きながらより履修しやすい環境を維持します。

<働きながら勤務できる履修形態>

◆働きながら通学できるよう、平日の18時以降や土曜日に、交通至便な天王寺キャンパスで講義を開講します。



天王寺キャンパス:

JR「寺田町駅」から徒歩約5分

JR「天王寺駅」・地下鉄「天王寺駅」・近鉄「大阪阿部野橋駅」から徒歩10分

実践的な課題解決能力・協働力・幅広い視野・研究分析能力を養成

医療や保健分野、スポーツなど健康・安全教育に携わる専門職人材を対象に、実務経験から発生した課題の考察や経験の理論的分析と実践の往還、学校教員を含む他の専門職との学び合いを通じた実践知の開発を通じて、学校・家庭・地域の健康・安全の向上に貢献できる人材の養成を旨としています。

<主な科目（計画）>

- ・地域・学校における健康科学教育の理論と方法
- ・地域・学校における生活環境学教育の理論と方法
- ・地域・学校における安全教育の理論と方法
- ・地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法
- ・健康科学の課題解決のための実践研究
- ・生活環境学の課題解決のための実践研究
- ・安全教育学の課題解決のための実践研究
- ・スポーツ実践の課題解決のための実践研究

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

出願資格

大学を卒業した方に限らず、専門学校や短大等を修了し、実務経験等のある方は、本大学院個別の入学資格審査によって、大学を卒業した者と同等以上の学力があるかを判定します。

取得可能な学位と必要となる経費

- ◆修士号
- ◆入学料・授業料を併せて総額 約140万円

裏面アンケートにご協力をお願いします。

夜間大学院に関するニーズ調査

Q1 現在の職業を選択してください。

- 看護師 保健師 理学療養士 管理栄養士
 大学・短期大学教員 各種専門学校教員 その他（ ）

Q2 トータルの勤務年数を選択してください。

- 1年目～5年目 6年目～10年目 11年目～20年目 20年以上

Q3 取得されている主な専門的資格をお教えてください。

（ ）

Q4 現在、あなたが職務上課題としていることがあれば、すべてにチェックをつけてください。

- 計画等の策定 事業の企画 事業の運営 施策・事業の評価
 職務上の課題の理論的検討・分析 報告書等の執筆 学校や他組織との連携・協働
 健康科学に関わる知識・方法論 食生活や生活環境に関する知識・方法論
 安全教育に関する知識・方法論 スポーツ指導に関する知識・方法論
 その他（ ）

Q5 あなたは今、自分の職業能力を向上したり、自分を成長させたりするために、学習したいと思いませんか。

- とても思う 少し思う あまり思わない 全く思わない

Q6 大阪教育大学の夜間大学院では、天王寺キャンパスでの平日夜間の授業と、土日開講や夏期集中の授業を受け、修士号を取得できる仕組みを予定しています。あなたはこの夜間大学院で学ぶことに興味がありますか。

- 非常にある ある あまりない 全くない

Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。

- 標準2年コース 比較的余裕をもって履修する長期（3～5年）コース
 集中的に履修する短期1年コース

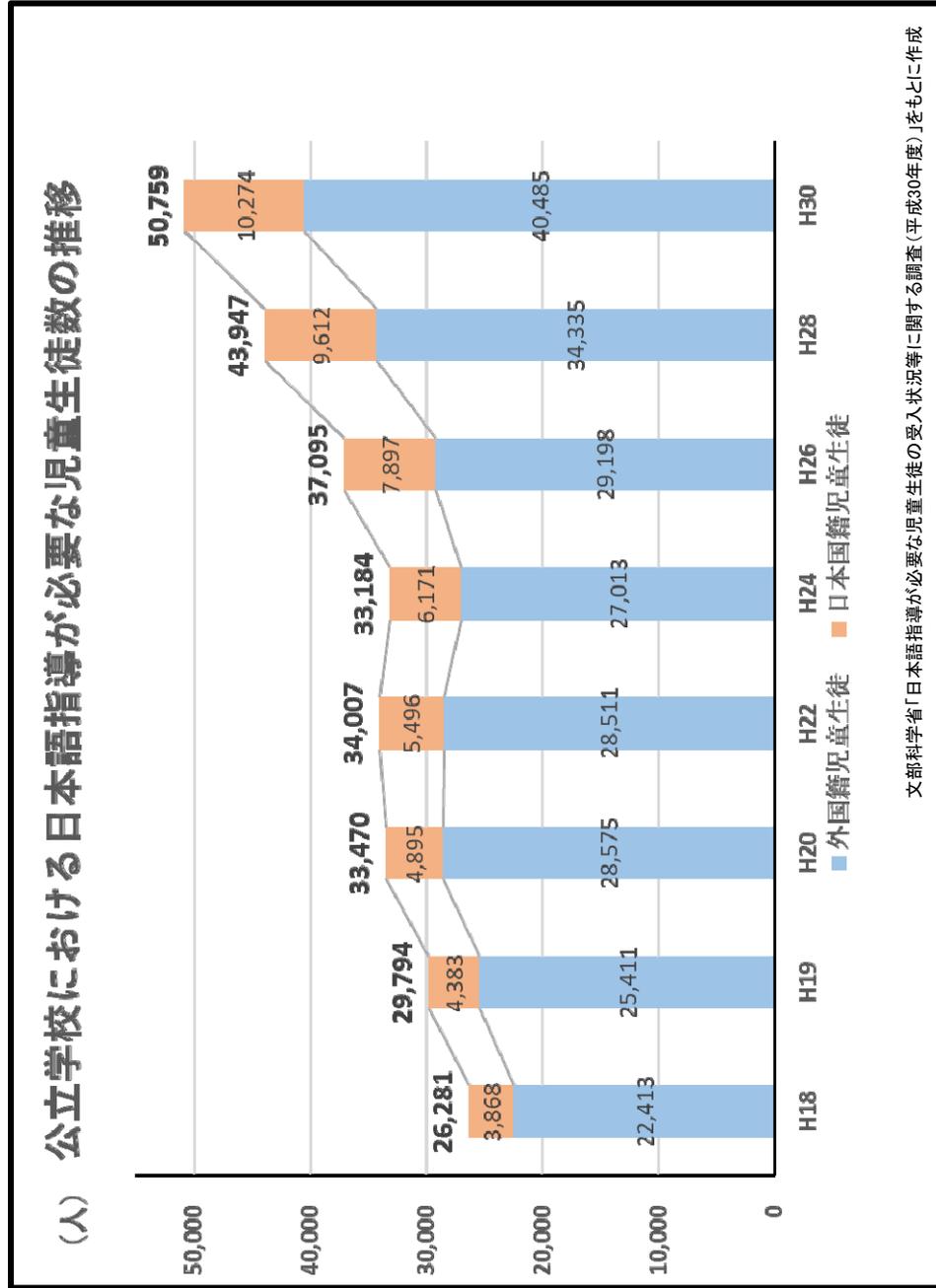
Q8 もし夜間大学院に入学するとしたら、平日の授業開始時間は以下のどの時間が望ましいですか。

- 18:00から 18:30から 19:00から
 その他（ ）

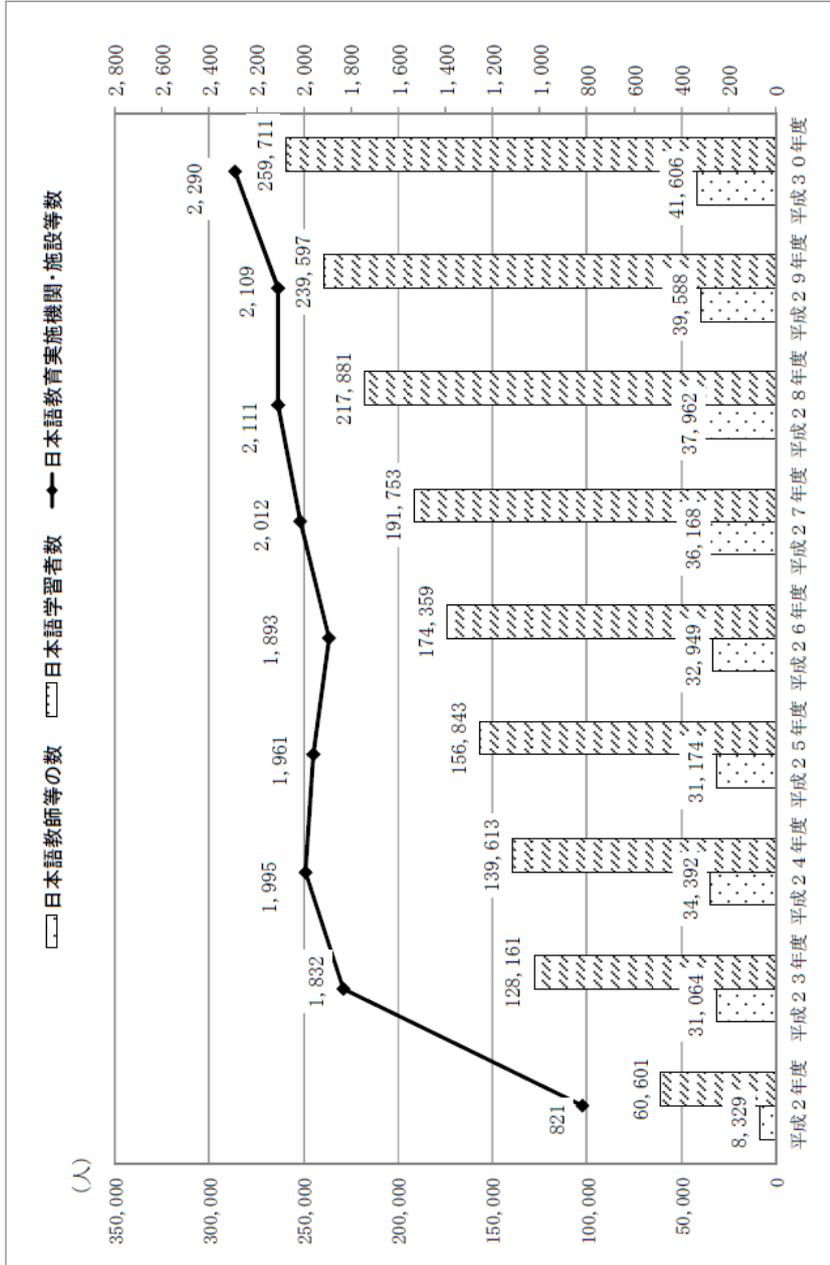
ご協力ありがとうございました。

国内における日本語教育の状況

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移



日本語教育の状況

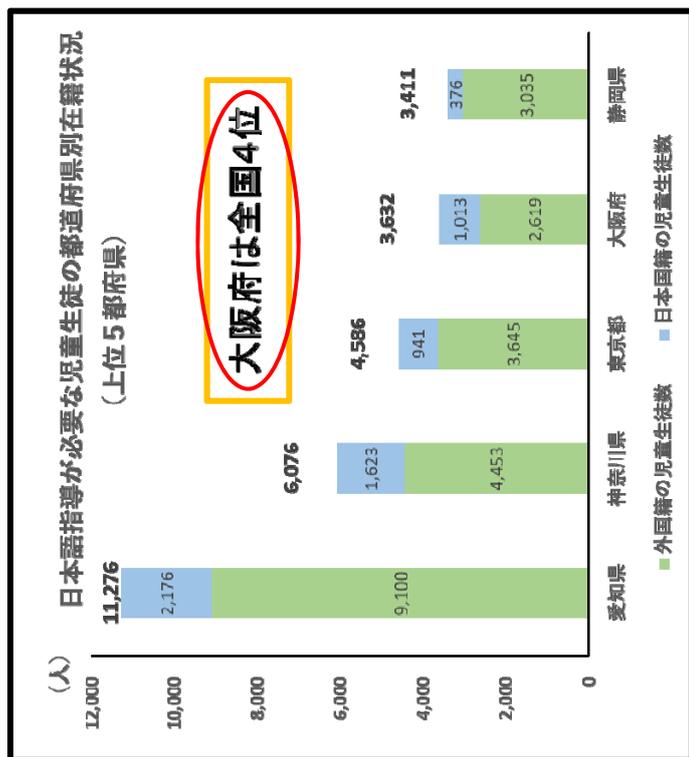


○日本語学習者数
過去7年間(H23～H30年度)で
約2.0倍増。
○日本語教師等数
過去7年間(H23～H30年度)で
約1.3倍増。
⇒日本語学習者の増加幅に教師等数が
追いついていないことが想定される。

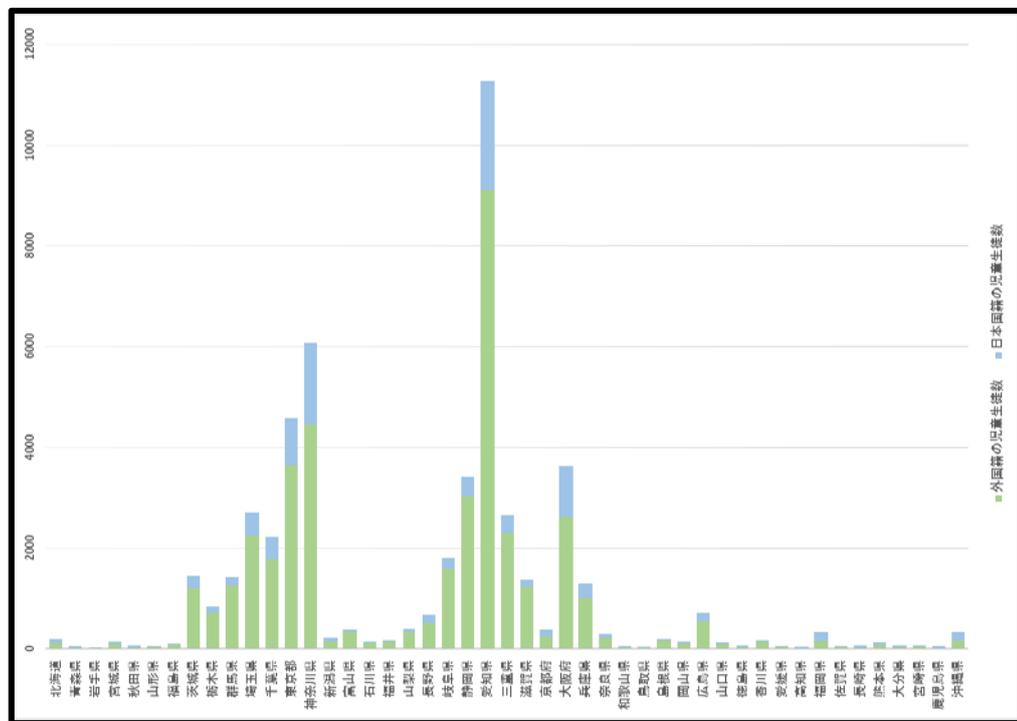
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
日本語教育実施機関・施設等数	821	1,832	1,995	1,893	2,012	2,111	2,109	2,290
日本語教師等の数	60,601	128,161	139,613	156,843	174,359	191,753	217,881	259,711
日本語学習者数	821	1,832	1,995	1,893	2,012	2,111	2,109	2,290

文化庁「平成30年度 国内の日本語教育の概要」より

日本語指導が必要な児童生徒の都道府県別在籍状況（平成30年度）



上位5都府県	日本語指導が必要な児童生徒の都道府県別在籍状況
愛知県	11,276人
神奈川県	6,076人
東京都	4,586人
大阪府	3,632人
静岡県	3,411人



文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」をもとに作成

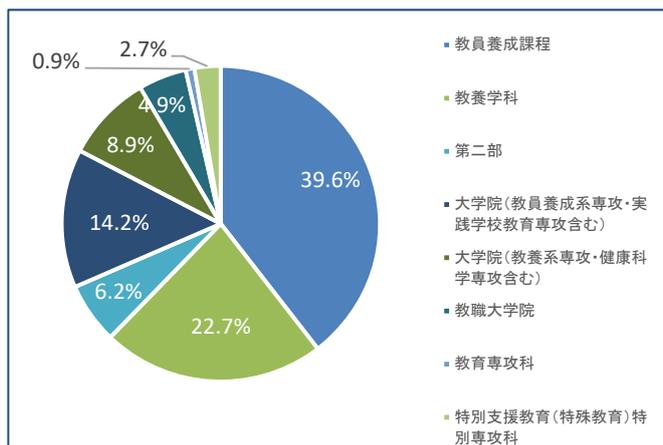
「大学院改組に関するニーズ調査」結果報告書【卒業生アンケート調査】

令和元年9月～10月 大阪教育大学 経営戦略課

調査概要	
調査目的	令和3年度に教員養成以外の修士課程の改編の計画に伴い、現在、修士課程にある専攻を全て廃止し、新しい大学院として、教員以外の立場から教育現場を支える高度な専門職人材の養成を行う専攻・コースを設置することとしている。 これらのうち、社会人を対象とする「教育ファシリテーションコース」への関心や進学の意味等について把握するためのアンケート調査を卒業生に行う。
調査対象	卒業生
調査方法	会報「窓友」発送時に質問紙同封、用紙およびアンケートシステムにて回収。
調査対象数	配布数 7,064名 回収数 197名 【回収率2.8%】
調査時期	2019年9月10日(火)～2019年11月30日(土)
調査実施部署	経営戦略課

■A2 本学における所属先について、該当する項目を全て選択してください。

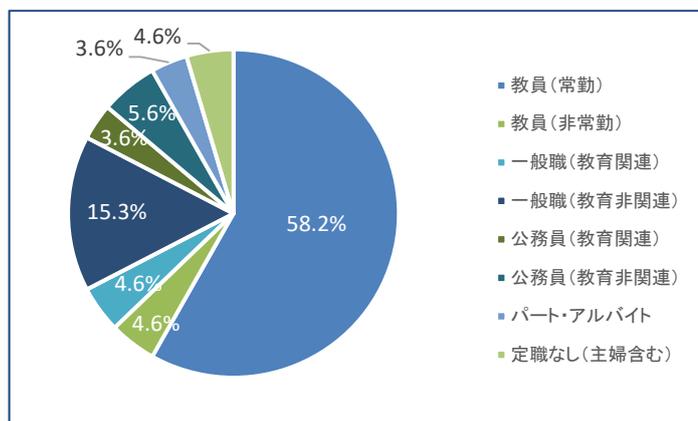
回答項目	回答数	割合
教員養成課程	89	39.6%
教養学科	51	22.7%
第二部	14	6.2%
大学院(教員養成系専攻・実践学校教育専攻含む)	32	14.2%
大学院(教養系専攻・健康科学専攻含む)	20	8.9%
教職大学院	11	4.9%
教育専攻科	2	0.9%
特別支援教育(特殊教育)特別専攻科	6	2.7%
計	225	100.0%



※複数回答あり，無回答あり

■A3 現在の職業などについて、該当する項目を一つだけ選択してください。

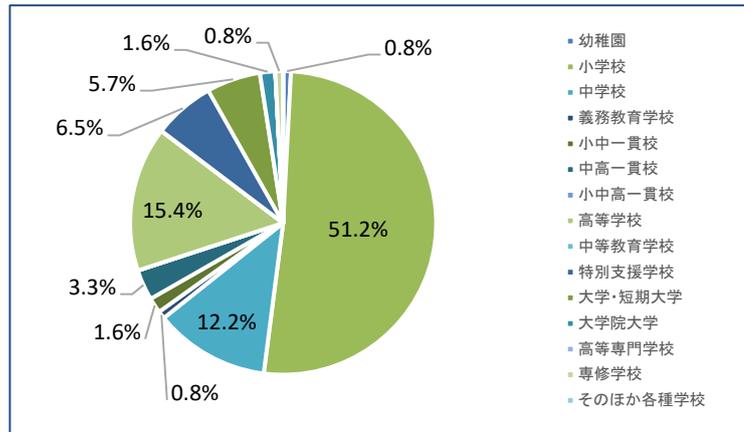
回答項目	回答数	割合
教員(常勤)	114	58.2%
教員(非常勤)	9	4.6%
一般職(教育関連)	9	4.6%
一般職(教育非関連)	30	15.3%
公務員(教育関連)	7	3.6%
公務員(教育非関連)	11	5.6%
パート・アルバイト	7	3.6%
定職なし(主婦含む)	9	4.6%
計	196	100.0%



※複数回答あり，無回答あり

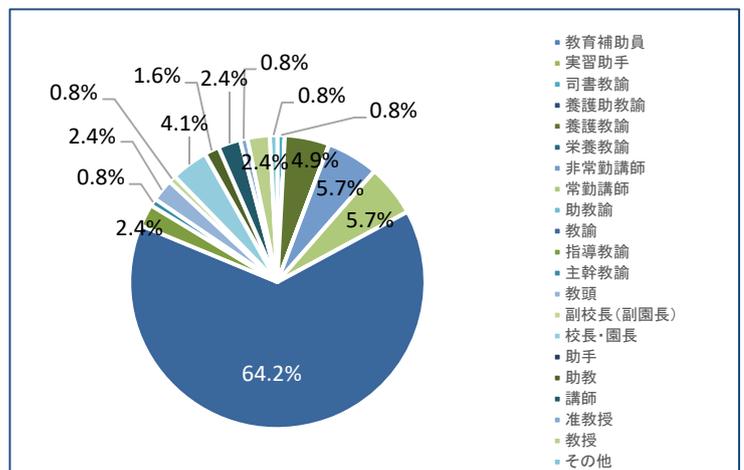
■A3-1 A3について「教員（常勤・非常勤）」と回答された方への質問です。
勤務先の校種についてお教えてください。

回答項目	回答数	割合
幼稚園	1	0.8%
小学校	63	51.2%
中学校	15	12.2%
義務教育学校	1	0.8%
小中一貫校	2	1.6%
中高一貫校	4	3.3%
小中高一貫校	0	0.0%
高等学校	19	15.4%
中等教育学校	0	0.0%
特別支援学校	8	6.5%
大学・短期大学	7	5.7%
大学院大学	2	1.6%
高等専門学校	0	0.0%
専修学校	1	0.8%
そのほか各種学校	0	0.0%
計	123	100.0%



■A3-2 A3について「教員（常勤・非常勤）」と回答された方への質問です。
勤務先の役職についてお教えてください。

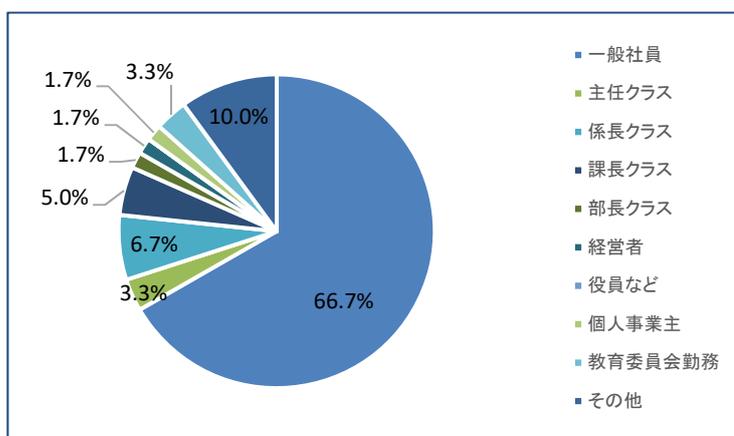
回答項目	回答数	割合
教育補助員	0	0.0%
実習助手	0	0.0%
司書教諭	1	0.8%
養護助教諭	0	0.0%
養護教諭	6	4.9%
栄養教諭	0	0.0%
非常勤講師	7	5.7%
常勤講師	7	5.7%
助教諭	0	0.0%
教諭	79	64.2%
指導教諭	3	2.4%
主幹教諭	1	0.8%
教頭	3	2.4%
副校長(副園長)	1	0.8%
校長・園長	5	4.1%
助手	0	0.0%
助教	2	1.6%
講師	3	2.4%
准教授	1	0.8%
教授	3	2.4%
その他	1	0.8%
計	123	100.0%



■A3-3 A3について「一般職（教育関連・教育非関連）、公務員（教育関連・教育非関連）」と回答された方への質問です。

現在（定職なしの方は当時）の役職について教えてください。

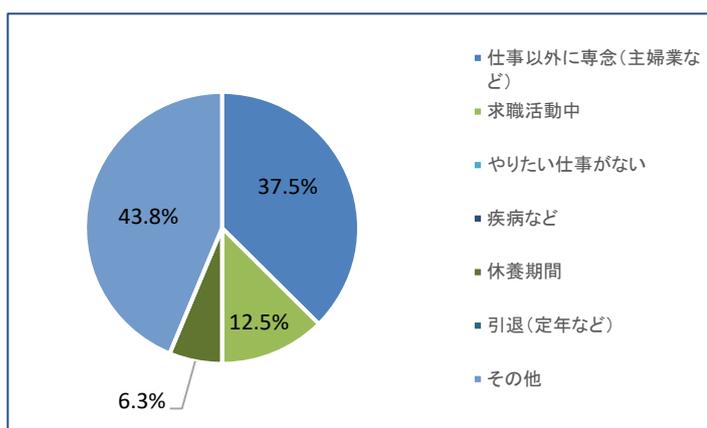
回答項目	回答数	割合
一般社員	40	66.7%
主任クラス	2	3.3%
係長クラス	4	6.7%
課長クラス	3	5.0%
部長クラス	1	1.7%
経営者	1	1.7%
役員など	0	0.0%
個人事業主	1	1.7%
教育委員会勤務	2	3.3%
その他	6	10.0%
計	60	100.0%



■A3-4 A3について「パート・アルバイト、定職なし（主婦含む）」と回答された方への質問です。

現在、定職についていない理由について教えてください。

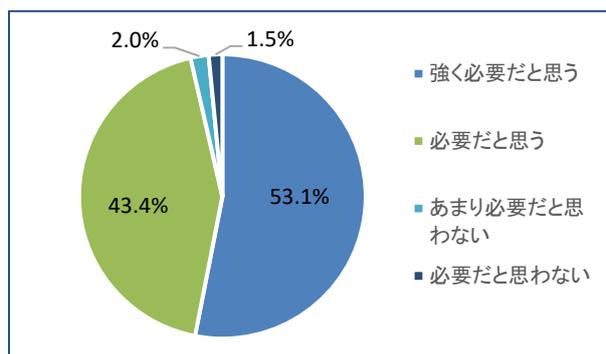
回答項目	回答数	割合
仕事以外に専念(主婦業など)	6	37.5%
求職活動中	2	12.5%
やりたい仕事がない	0	0.0%
疾病など	0	0.0%
休養期間	1	6.3%
引退(定年など)	0	0.0%
その他	7	43.8%
計	16	100.0%



Q1 国の方針として、中央教育審議会答申等を踏まえ、「学校における働き方改革」、「チームとしての学校」を実現するための具体的な改善策として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど教員以外の専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。

■Q1-1 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。

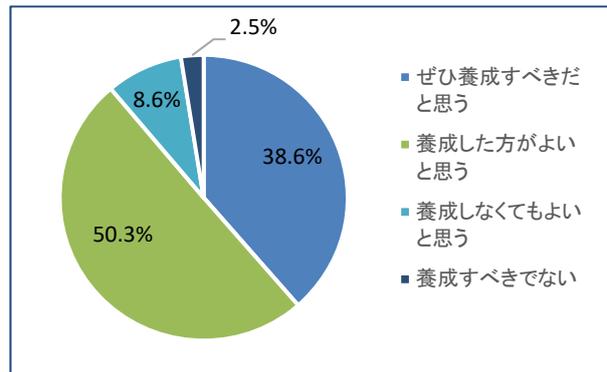
回答項目	回答数	割合
強く必要だと思う	104	53.1%
必要だと思う	85	43.4%
あまり必要だと思わない	4	2.0%
必要だと思わない	3	1.5%
計	196	100.0%



※無回答あり

■Q1-2 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、教員養成大学である本学の大学院で養成すべきだと思いますか。

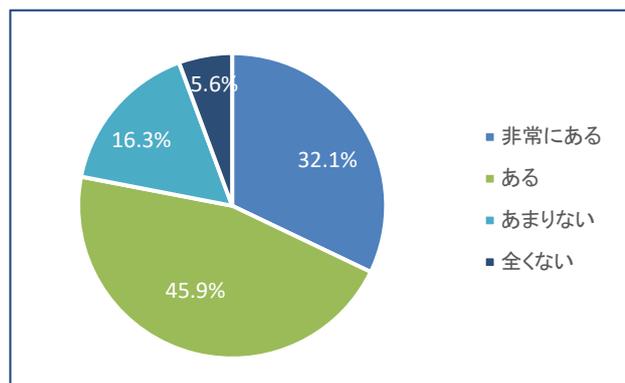
回答項目	回答数	割合
ぜひ養成すべきだと思う	76	38.6%
養成した方がよいと思う	99	50.3%
養成しなくてもよいと思う	17	8.6%
養成すべきでない	5	2.5%
計	197	100.0%



■Q2 近年働き方が多様化する日本においてもリカレント教育が注目を集めていますが、社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	63	32.1%
ある	90	45.9%
あまりない	32	16.3%
全くない	11	5.6%
計	196	100.0%

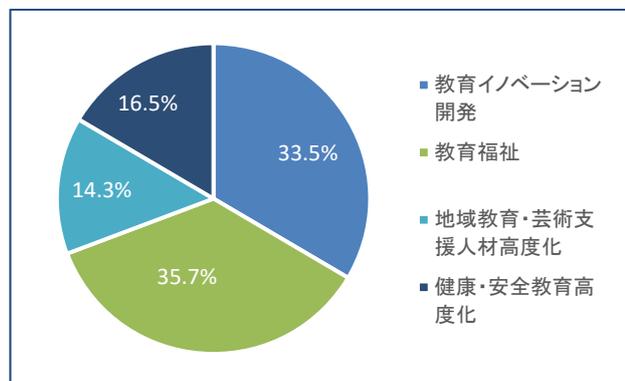
※無回答あり



■Q3 A3について現在、「教員（常勤・非常勤）」と回答された方へお尋ねします。

勤務する学校において、特に必要とされる教育支援人材は教育ファシリテーションコースのどの領域が養成する人材とお考えでしょうか。（複数回答可）

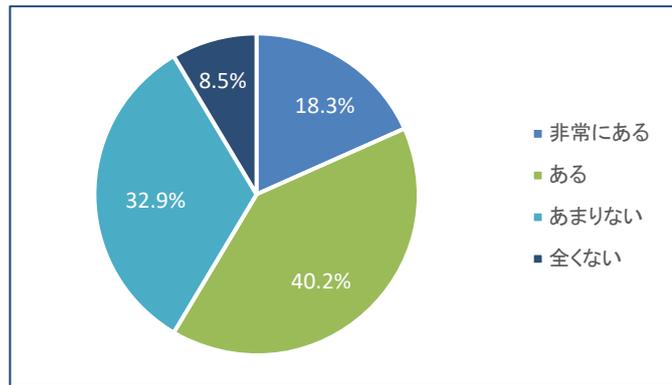
回答項目	回答数	割合
教育イノベーション開発	61	33.5%
教育福祉	65	35.7%
地域教育・芸術支援人材高度化	26	14.3%
健康・安全教育高度化	30	16.5%
計	182	100.0%



■Q4 以下は、A3について「教員以外」と回答された方への質問です。
新しい大学院に興味や関心はありますか。

回答項目	回答数	割合
非常にある	15	18.3%
ある	33	40.2%
あまりない	27	32.9%
全くない	7	8.5%
計	82	100.0%

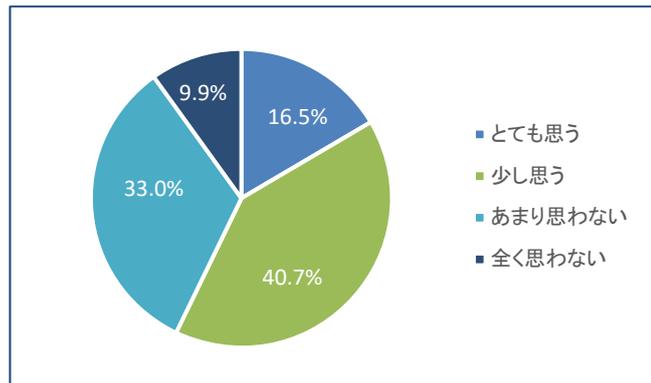
※教員からも回答あり



■Q5 教員以外の立場から教育支援の高度化の一翼を担うことを目的として、働きながら学んでみたいと思いませんか。

回答項目	回答数	割合
とても思う	15	16.5%
少し思う	37	40.7%
あまり思わない	30	33.0%
全く思わない	9	9.9%
計	91	100.0%

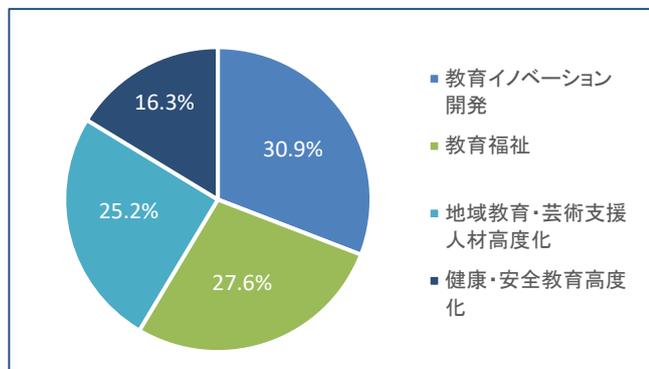
※教員からも回答あり



■Q6 もし夜間大学院に入学するとしたら対象コースはどこですか。(複数回答可)

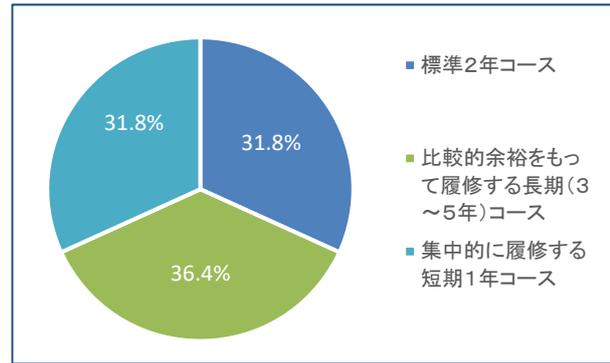
回答項目	回答数	割合
教育イノベーション開発	38	30.9%
教育福祉	34	27.6%
地域教育・芸術支援人材高度化	31	25.2%
健康・安全教育高度化	20	16.3%
計	123	100.0%

※教員からも回答あり



■Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。

回答項目	回答数	割合
標準2年コース	28	31.8%
比較的余裕をもって履修する長期(3～5年)コース	32	36.4%
集中的に履修する短期1年コース	28	31.8%
計	88	100.0%



※教員からも回答あり

■Q8 その他、「教育ファシリテーションコース」について、ご意見等があればご記入ください。

「現在小学校で事務職員をしているが、「教員」以外で専門的な知識と力と立場をもつ人間を現場に入れることは大賛成で、同等の立場を保つためにも(その方が現場がかわる)大教大で養成する意味はあると思います。」

「教育相談も大切だが、直接、教員と同様に児童生徒に関わり、その場で指導・支援できる人材が必要です。目の前の子どもを見て、即、効果的に支援できる人を育ててください。」

「人間関係を豊かに、丁寧に育むことができる人材の育成コースは必須だと思いましたが…他人を大切に思う心を育てないといけないのではと思うので。」

「夜間は、家庭もあり難しいと思うので、平日の昼一年を短期集中で履修できるようにした方が良い。(免許更新講習最後の年で)(※研究・研修だから現職場での給料は保障してほしい)」

「こどものためにがんばって下さい。」

「教育学研究科に在籍できよかった。しかし、今後、大学院(博士課程)等の高度な専門性を学べる場は必要であると感じている。」

「教育にITが必要な時代です。今、自分は、ITを勉強してるので、教育イノベーション開発の領域はとても良いと思いました。」

「教員の人手不足もあって50代の新任もみられるようになってきた。自分もそうだったが、学び直しの機会があつて、よかったと思う。大教大のあと、社会人学生として、土、日、夏休み等に滋大大学院に通ったが、夜間よりは、そちらの方が負担が少なく、よかった。」

「修了した際、取得できる修士号は教育学になるのか、社会学になるのか？」

「博士課程を作って欲しい。」

「圧倒的に保護者対応ができない人が増えています。この点も力をつけることができればと思います。」

「健康科学専攻の存続を切に望みます。」

「10年先、20年先の教育現場を推測していかないと思う。R3改組で出来るコースは、現在の教育課題に対処ものでは？(遅い)。Q3-2について、必ずしも教員養成系の大学である必要はないと思う。社会全体の課題として捉えられることの方が先決では？」

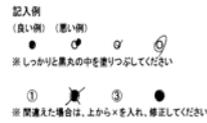
「学校教育に専念すべき」

2019年度大阪教育大学 卒業生アンケート

1. 同窓会会員番号を記入し、該当する番号を鉛筆またはボールペンで強く塗りつぶしてください。また氏名を記入してください。

0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9

同窓会会員番号



氏名：

2. 本学における所属先について、該当する項目を全て塗りつぶしてください。

教員養成課程	教養学科	第二部	大学院 (教員養成系専攻・実践 学校教育専攻を含む)	大学院 (教養系専攻・ 健康科学専攻を含む)	教職大学院	教育専攻科	特別支援教育 (特殊教育) 特別専攻科
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

3. 現在の職業などについて、該当する項目を一つだけ塗りつぶしてください。

3-1. 現在の職業について当てはまるものを塗りつぶしてください。

* 定職なしに該当される方は、定職なしに加えて、卒業後から現在までの間に最も勤務期間の長かった項目も合わせて塗りつぶしてください。

教員 (常勤)	教員 (非常勤)	一般職 (教育関連)	一般職 (教育非関連)	公務員 (教育関連)	公務員 (教育非関連)	パート・ アルバイト	定職なし (主婦含む)
<input type="radio"/>							

3-2. 現在、定職に就いていない理由についてお教えてください。

仕事以外に専念 (主婦業など)	求職活動中	やりたい仕事 がない	疾病など	休業期間	引退 (定年など)	その他
<input type="radio"/>						

3-2. 現在(定職なしの方は当時)の役職についてお教えてください。

一般社員	主任クラス	係長クラス	課長クラス	部長クラス	経営者	役員など	個人事業主	教育委員会 勤務	その他
<input type="radio"/>									

3-2. 勤務先の校種についてお教えてください。

幼稚園	小学校	中学校	義務教 育学校	小中 一貫校	中高 一貫校	小中高 一貫校	高等学 校	中等教 育学校	特別支 援学校	大学・短 期大学	大学院 大学	高等専 門学校	専修学 校	その他 各種学校
<input type="radio"/>														

3-3. 勤務先の役職についてお教えてください。

教育補助員	実習助手	司書教諭	養護助教諭	養護教諭	栄養教諭	非常勤講師	常勤講師	助教諭	教諭	指導教諭	主幹教諭
<input type="radio"/>											
教頭	副校長(副園長)	校長・園長	助手	助教	講師	准教授	教授	その他			
<input type="radio"/>											

4. 現在の職業などの在籍期間について、該当する項目を一つだけ塗りつぶしてください(定職なしの方は、前職の勤務期間に該当する項目を塗りつぶしてください)。

6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上
<input type="radio"/>						

5. 差し支え無ければ、現職もしくは前職の学校名・会社名などをお教えてください(〇〇市役所総務課、〇〇教育委員会事務局など)。

学校名
会社名など：

6. 大学卒業後から現在までの間に、離職や転職について検討したり、実際に経験したことはありますか。

6-1. 該当する項目を一つだけ選んで塗りつぶしてください

検討したこと もない	検討したこと がある	検討中	離職または 転職予定	離職・転職の 経験がある
<input type="radio"/>				

6-2. 直近の離職・転職の変更もしくは予定時期

6ヶ月未満	<input type="radio"/>
6ヶ月以上 1年未満	<input type="radio"/>
1年以上3年未満	<input type="radio"/>
3年以上 5年未満	<input type="radio"/>
5年以上	<input type="radio"/>

6-3. 離職・転職の理由について、該当するものを三つまで選び、塗りつぶしてください。

給与などの待遇への不満……	<input type="radio"/>	キャリアアップのため………	<input type="radio"/>	業界に将来性がない………	<input type="radio"/>
労働環境への不満………	<input type="radio"/>	他にやりたい仕事ができた…	<input type="radio"/>	倒産・整理雇用など………	<input type="radio"/>
職場の人間関係への不満…	<input type="radio"/>	自分の技能・能力を活かしたい	<input type="radio"/>	雇止め・雇用期間の満了………	<input type="radio"/>
仕事内容への不満………	<input type="radio"/>	教員に転職予定だった………	<input type="radio"/>	生活上の変化(結婚・出産など)……	<input type="radio"/>
評価に対する不満………	<input type="radio"/>	勤務地の問題………	<input type="radio"/>	その他………	<input type="radio"/>

7. あなたが本学在学中に以下の能力はどの程度身についたと思いますか。また、現在では以下の能力についてどの程度身についていると思いますか。在学中および現在で、それぞれ一つ選んで塗りつぶしてください。

	在学中					現在				
	身につか なかった	あまり 身につか なかった	どちら とも言え ない	少し身 につい た	身に つ いた	身に つ いて ない	あまり 身に つ いて ない	どちら とも言 え ない	少し身 につ いて い る	身に つ いて い る
1 専門的な知識や技能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
2 一般的な教養	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
3 コミュニケーションの能力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
4 分析や問題解決能力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
5 異文化の人々に対する知識	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
6 プレゼンテーションの能力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
7 文章表現の能力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
8 国民が直面する問題の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
9 世界的な問題の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
10 障害に関する理解と対応	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
11 人権問題の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						

8. 教員として働いている方、もしくは働いていた経験がある方にのみお尋ねします。

本学在学中および現在で以下のことはどの程度できましたか？それぞれ一つ選んで塗りつぶしてください。

	在学中					現在				
	出来な うにな らな かつ た	あまり 出来な うにな らな かつ た	どちら とも言 え ない	少し 出来な うにな らな かつ た	出来な うにな らな かつ た	出来 ない	あまり 出来 ない	どちら とも言 え ない	少し 出来 る	出来 る
1 幼児・児童・生徒の状況把握	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 適切な生活指導	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 幼児・児童・生徒との関係構築	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 保護者との関係構築	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 指導計画の作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 学習の関心を引き出すような授業実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 学習が定着するような授業展開	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 地域との連携実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 周囲から評価されるような活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

9. ご協力ありがとうございました。大阪教育大学に関して何かご意見がありましたら、お聞かせください (自由記述)

大阪教育大学大学院の改組計画について

大阪教育大学では今年度、教員養成に係る修士課程を教科横断型の教職大学院に全面移行したことに続いて、令和3年度に教員養成以外の修士課程の改編を計画しています。

現在、修士課程にある専攻を全て廃止し、新しい大学院として、教員以外の立場から教育現場を支える高度な専門職人材の養成を行う専攻・コースを設置することとしています。

これらのうち、社会人を対象とする「教育ファシリテーションコース」への関心や進学的意思等について、裏面アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。

当アンケートに関しては、個人が特定できないよう十分配慮するとともに、回答内容を当アンケート以外の目的で使用いたしません。

なお「教育ファシリテーションコース」の概要は以下のとおりです。改組後の専攻・コース名称は未定で、記載内容も計画中の内容であり、変更の可能性のあることを申し添えます。

<修士課程> ■教育ファシリテーションコース（夜間）

領域	受入れる人材	内容
教育イノベーション開発	AIやIoTなどの先端技術分野の社会人	教育ビッグデータの活用による分析実践や、教育コンテンツの開発、効果的な学びの支援など学校現場を最適化するための探求を通じて、各種教育課題をエビデンスベースにより解決に導くことのできる人材の養成
教育福祉	社会福祉士等の資格を有する者	子どもの最善の利益の実現を図るスクールソーシャルワーカーとして活動できる人材の養成
地域教育・芸術支援人材高度化	社会教育や芸術活動に携わる社会人	地域学校協働や地域創生への貢献、または芸術表現の技術や感性を教育分野に活かすための教育研究を展開し、学校と地域との連携・協働において中核的な役割を担える人材の養成
健康・安全教育高度化	医療や保健分野、スポーツなど健康・安全教育に携わる社会人	実務経験から発生した課題の考察や経験の理論的分析と実践の往還を通じて、学校教員を含む子ども、家庭と地域の健康・安全の向上や課題解決に貢献できる人材の養成

近畿地区 国立大学唯一の夜間大学院

本学では、平成5年の健康科学専攻設置当初から、主に有職者を対象として健康や教育に関わる教育研究を推進し、高度な専門的能力をもつ指導的人材の育成や学位取得を通じた実務家の教育職へのキャリア転換といった点で多大な成果をあげてきました。このたび、変動する社会に対応する生涯学習の重要性を鑑み、地域教育を支える人材の高度化を旨とした大学院の設置を計画しております。これまで通り天王寺キャンパス夜間での教育研究を展開し、働きながらより履修しやすい環境を維持します。

取得可能な学位と必要となる経費

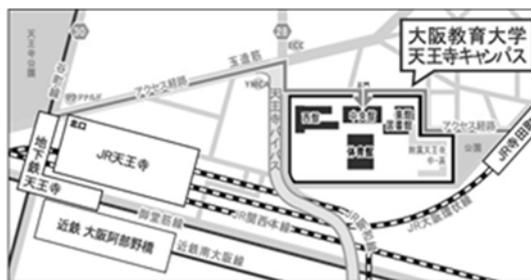
- ◆修士号
- ◆入学科・授業料を併せて総額 約140万円
(標準修業年限2年及び長期履修3年分の総額)

長期履修学生制度

職業を有している等の事情のため、標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料年額の負担を軽減できます。

<働きながら勤務できる履修形態>

- ◆働きながら通学できるよう、平日の18時以降や土曜日に、交通至便な天王寺キャンパスで講義を開講します。



天王寺キャンパス：

- JR「寺田町駅」から徒歩約5分
- JR「天王寺駅」・地下鉄「天王寺駅」・近鉄「大阪阿倍野橋駅」から徒歩10分

出願資格

大学を卒業した方に限らず、専門学校や短大等を修了し、実務経験等のある方は、本大学院個別の入学資格審査によって、大学を卒業した者と同等以上の学力があるかを判定します。

裏面アンケートにご協力をお願いします。

大学院改組に関するアンケート

- Q1 国の方針として、中央教育審議会答申等を踏まえ、「学校における働き方改革」、「チームとしての学校」を実現するための具体的な改善策として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど教員以外の専門スタッフの配置充実等が図られています。このことに関連してお尋ねします。
- ① 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材は必要だと思いますか。
 強く必要だと思う 必要だと思う あまり必要だと思わない 必要だと思わない
- ② 専門スタッフとしての役割を果たすための高度な資質能力を備えた人材を、教員養成大学である本学の大学院で養成すべきだと思いますか。
 ぜひ養成すべきだと思う 養成した方がよいと思う 養成しなくてもよいと思う
 養成すべきでない
- Q2 近年働き方が多様化する日本においてもリカレント教育が注目を集めていますが、社会人の学び直しを目的とした大学院進学に興味や関心はありますか。
 非常にある ある あまりない 全くない
- (卒業生アンケート3-1において現在の職業を「教員」と回答された方への質問です。)
- Q3 勤務する学校において、特に必要とされる教育支援人材は教育ファシリテーションコースのどの領域が養成する人材とお考えでしょうか。(複数回答可)
 教育イノベーション開発 教育福祉 地域教育・芸術支援人材高度化
 健康・安全教育高度化
- (以下は、卒業生アンケート3-1において現在の職業を「教員」以外と回答された方への質問です。)
- Q4 新しい大学院に興味や関心はありますか。
 非常にある ある あまりない 全くない
- Q5 教員以外の立場から教育支援の高度化の一翼を担うことを目的として、働きながら学んでみたいと思いますか。
 とても思う 少し思う あまり思わない 全く思わない
- Q6 もし夜間大学院に入学するとしたら対象コースはどこですか。(複数回答可)
 教育イノベーション開発 教育福祉 地域教育・芸術支援人材高度化
 健康・安全教育高度化
- Q7 もし夜間大学院に入学するとしたら、以下のような履修形態のうち、どのコースに参加してみたいと思いますか。
 標準2年コース 比較的余裕をもって履修する長期(3~5年)コース
 集中的に履修する短期1年コース
- Q8 その他、「教育ファシリテーションコース」について、ご意見等があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

要 望 書

国立大学法人
大阪教育大学長 殿

新時代に向けた教育課題の解決や学校改革を目指して、教員以外もその一翼を担える人材として養成する新しい大学院（修士課程）を、貴学に早期に設置いただきますよう、次の通り要望いたします。

第4次産業革命分野の技術が急速に進展し、超スマート社会「Society 5.0」が間もなく到来すると言われる中で、教育分野においても大きな変革が求められております。

こうした認識のもと、当WG（ワーキンググループ）と貴学は2018年度より、AI（人工知能）を活用した個別最適化学習や、教育データ分析による学習成果の可視化および学生個別への進路サポートなど、教育現場におけるAIを活用した新たなユースケースの創出に取り組んできました。このようなAIを活用した先進事例を教育現場一般により広く浸透させていくためには、教育現場と専門技術・知識を有する企業などとの連携・協働が重要になり、当WGに所属する企業においては、新たな価値創造の可能性を広げるものと期待しますが、そのためには教育の現場ニーズを把握することが課題になります。

貴学においては、長年にわたり、社会人のリカレント教育の場として高度な専門人材の輩出や、各種ICT関連企業との共同研究による教材開発などの実績を有し、さらには、近年、社会の要請に基づき、学校を支える専門的人材の育成を目的とする「教育協働学科」の設置、教員養成に係る既存修士課程を全教科対応の教職大学院に全面移行と、相次ぐ大学改革に取り組まれておられます。

こうした貴学の強みを生かし、教育委員会・学校現場・行政・産業界等の教育に関心のある社会人が、教育分野でのイノベーションの創出に向け、共に学び研究する環境を提供していただくために、教員以外の立場から新時代の学校改革や教育課題の解決の一翼を担う人材を育成するための大学院をできる限り早期に設置していただきますよう、強く要望いたします。

令和2年1月30日

国立研究開発法人産業技術総合研究所
人工知能技術コンソーシアム 関西支部WG
リーダー 玉川 弘子



要 望 書

国立大学法人

大阪教育大学長 殿

大阪教育大学に、教員以外の立場から教育現場の高度化の一翼を担う人材を養成する新しい大学院（修士課程）を、早期に設置いただけますよう、次の通り要望いたします。

超スマート社会が到来し、技術革新が急速に進展する中で、教育分野においても、AIを活用した個別最適化学習、教育データ分析による学習成果の可視化、デジタル教材や遠隔システムの普及など、大きな変革をもたらすことが予測されます。また、そうした先端技術を迅速に取り入れていくためには、企業など外部の専門家との連携・協働が重要になるといわれており、弊社の企業活動において、新たな価値創造の可能性を広げるものと期待しますが、何分にも教育現場ニーズを把握することが課題と考えます。

こうした中で、貴学におかれましては、長年にわたり、社会人のリカレント教育の場として高度な専門人材の輩出や、各種 ICT 関連企業との共同研究による教材開発などの実績を有し、さらには、近年、社会の要請に基づき、学校を支える専門的人材の育成を目的とする「教育協働学科」の設置、教員養成に係る既存修士課程を全教科対応の教職大学院に全面移行と、相次ぐ大学改革に取り組まれており、深く敬意を表します。

そのような大規模教員養成大学ならではの強みを生かし、これまでに前例のない先導的な取組を着実に推進する貴学に、教員以外の立場から、新時代の学校改革や教育課題の解決の一翼を担う人材を育成するための大学院をできる限り早期に設置していただき、教育委員会・学校現場・行政・産業界等の教育に関心のある社会人が、教育のイノベーションの創出に向け、共に学び研究する環境を提供していただくことを強く要望いたします。

令和 2 年 2 月 13 日

大阪市西区千代崎 3 丁目南 2 番 37 号

株式会社オージス総研

執行役員 行動観察リフレーム本部長

宮村 昭彦 印

要 望 書

国立大学法人

大阪教育大学長 殿

大阪教育大学に、教員以外の立場から教育現場の高度化の一翼を担う人材を養成する新しい大学院（修士課程）を、早期に設置いただけますよう、次の通り要望いたします。

超スマート社会が到来し、技術革新が急速に進展する中で、教育分野においても、AIを活用した個別最適化学習、教育データ分析による学習成果の可視化、デジタル教材や遠隔システムの普及など、大きな変革をもたらすことが予測されます。また、そうした先端技術を迅速に取り入れていくためには、企業など外部の専門家との連携・協働が重要になるといわれており、弊社の企業活動において、新たな価値創造の可能性を広げるものと期待しますが、何分にも教育現場ニーズを把握することが課題と考えます。

こうした中で、貴学におかれましては、長年にわたり、社会人のリカレント教育の場として高度な専門人材の輩出や、各種 ICT 関連企業との共同研究による教材開発などの実績を有し、さらには、近年、社会の要請に基づき、学校を支える専門的人材の育成を目的とする「教育協働学科」の設置、教員養成に係る既存修士課程を全教科対応の教職大学院に全面移行と、相次ぐ大学改革に取り組まれており、深く敬意を表します。

そのような大規模教員養成大学ならではの強みを生かし、これまでに前例のない先導的な取組を着実に推進する貴学に、教員以外の立場から、新時代の学校改革や教育課題の解決の一翼を担う人材を育成するための大学院をできる限り早期に設置していただき、教育委員会・学校現場・行政・産業界等の教育に関心のある社会人が、教育のイノベーションの創出に向け、共に学び研究する環境を提供していただくことを強く要望いたします。

令和2年 月 日

〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25
住生興和東陽町ビル
株式会社内田洋行
ICTリサーチ&開発部門ディビジョン
上席執行役員
事業部長 三好昌己



要 望 書

国立大学法人

大阪教育大学長 殿

大阪教育大学に、教員以外の立場から教育現場の高度化の一翼を担う人材を養成する新しい大学院（修士課程）を、早期に設置いただけますよう、次の通り要望いたします。

Society5.0の到来などの様々な社会の変化や技術の急速な進展に伴い、教育の在り方にも大きな変革をもたらすことが予測されます。

こうした技術革新に迅速に対応していくためには、企業など外部の専門家との連携・協働が重要になるといわれており、弊社の企業活動において、新たな価値創造の可能性を広げるものと期待しますが、そのためには、教育現場を取り巻く状況やニーズを把握することが課題と考えます。

貴学においては、長年にわたり、社会人のリカレント教育の場として高度な専門人材の輩出や、各種ICT関連企業との共同研究による教材開発などの実績を有し、さらには、近年、社会の要請に基づき、学校を支える専門的人材の育成を目的とする「教育協働学科」の設置、教員養成に係る既存修士課程を全教科対応の教職大学院に全面移行と、相次ぐ大学改革に取り組まれておられます。

こうした貴学の強みを生かし、教育委員会・学校現場・行政・産業界等の教育に関心のある社会人が、教育分野でのイノベーション創出に向け、共に学び研究する環境を提供していただくために、教員以外の立場から新時代の学校改革や教育課題の解決の一翼を担う人材を育成するための大学院をできる限り早期に設置していただきますよう、強く要望いたします。

令和2年 4 月 20 日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
文教営業本部 本部長 酒井 俊明

